

建築特記仕様書(1)

工 事 概 要

- | | | | |
|---|-------------------------------|-------------|-------------|
| 工事名称 | 令和4年度 第3-号 タノ津呂排水機場改修工事詳細設計業務 | | |
| 工事場所 | 三重県北牟婁郡紀北町 地内 | | |
| 用途地域 | 都市計画区域外 | | |
| 防火地域 | : 準防火地域 | : | 指定なし |
| 火災種別 | : ○ Ⅰ 区画 | : | ・ 22条区域 |
| 敷地面積 | : 増築 | : | ・ 改修 |
| 建物概要 | : 改修 | : | ・ 耐震改修 ・ 改装 |
| 1) 構造 | | | |
| 2) 面積 | | | |
| <hr/> | | | |
| 鉄筋コンクリート造1階建て
建築面積：136.59㎡ 延べ面積：136.59㎡ | | | |
| <hr/> | | | |
| 床面積 | 面積表による | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| <hr/> | | | |
| 3) 付属施設 | | | |
| <hr/> | | | |
| <hr/> | | | |
| 別途工事 | - 電気設備工事 | - 給排水衛生設備工事 | - 空調調和設備工事 |
| | - 植栽工事 | - 外構工事 | - 解体工事 |
| | | | - 隣接外壁補修工事 |

※契約締結後 14日以内に実施工程表を提出する。

消防法に基づく防火対象物 消防法施行令別表一（15）項

不当要求又は工事妨害の排除について

 - 1) 暴力団等から不當要求又は工事妨害（以下「不当行為」という）を受けた場合はその旨を直ちに発注者に報告し、所轄の警察官に届出すること。
 - 2) 発注者及び所轄の警察官と協力して、不当介入の排除対策を講じること。
 - 3) 排障対策が実行にもつかず、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行うこと。
 - 4) 発注者と工程に関する協議を経た結果、工期に遅れが生じて認められた場合は、発注者が工期延長の請求を行うこと。
 - 5) 暴力団等から不当介入により被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害者を速やかに所轄の警察官に提出すること。
 - 6) 当該被害により工期に遅れが生じるおそれが生じた場合には、発注者と工程に関する協議を行うこと。その結果工期に遅れが生じて認められた場合は、発注者に工期延長の請求を行うこと。

公衆災害防止措置
工事に際し工事関係者以外の第三者の生命・身体及び財産の危害並びに迷惑を防止するために必要な措置をとることにする。

現状復旧
工事に際し隣接建築物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状回復を行うこと。

建築工事仕様

- 共通項目
- 図面及び特記仕様書に記載されている事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁審判部監修、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）最新版（以下「建築標準仕様書」という。）による。ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省大臣官房官庁審判部監修、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）最新版（以下「建築改修標準仕様書」という。）による。電気設備工事（電気設備工事標準仕様書）と本工事に関与する場合、それぞれ公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）の同年版による。
- (1) 官署手続き
- 受注者は関係官署への必要な（資料・報告書等を用意）手続きを代行する。（官公署手続きは監督員の承認後とする。）
- (2) 地盤活性化運動（地元企業及び地盤製品の活用）
- 受注者は、地元企業及び地盤製品の積極的な活用を期する。
- (3) 補償及び賠償責任
- 補償責任：工事完成引渡し後、満1年間に内に施工又は材料、機器の欠損等に基づく故障を生じた場合、請負者の負担にて速やかに修理及び取替を行う。
- 賠償責任：工事完成引渡し後、1年間に主要機械、主要設備について無償にて、請負者がメンテナンスを行う。
- (4) 疑義に対する協議等
- 設計図書に定められた内容に疑義が生じた報告又は現場の納まり、取り合い等の関係で、設計図書によることが困難若しくは不都合が生じた場合は、監督員と協議する。
- 特記仕様
- (1) 業、項目は番号に ☐ 印のついたものを適用する。
- (2) 特記事項は ☐ 印のついたものを適用する。
- ☐ 印と ☐ 印のついた場合は、※ 印のついたものを適用する。
- ☐ 印と ☐ 印のついた場合は共に適用する。
- (3) 特記事項に「記載の」とある場合は、「建築標準仕様書」の当該項目、当該図面又は当該表を表示する。
- (4) 原法改正の改正事項より（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督員と協議すること。
- (5) 材料および製造所等の記載順序は不同である。
- (6) 落札者は速やかにA3図小製本 部提出すること。

章	項	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	・公共住宅建設工事共通仕様書 国土交通省住宅局住宅総合整備課監修（平成 年度版） ●建築工事標準詳細図 国土交通大臣官庁官庁営繕部監修（令和４年版） ●鉄骨設計標準図 建設大臣官庁官庁営繕部監修（平成２年版） ・建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）建設経済局建設企画課 住宅局建築指導課監修 ・建築工事業安全施工技術指針 建設大臣官庁官庁営繕部監督課長通達 ●建築基準法、消防法、その他関係法令 ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律への対応 ・建築物移動等円滑化誘導基準（認定） ●鉄筋コンクリート工事仕様書（令和４年版） ●鉄骨工事仕様書（平成３０年版） ●建築構造設計基準（令和３年版）
	② 監理（主任）技術者	受注者は、監理技術者及び主任技術者を建設業法により定め、工事現場内において工事名、工期、写真、所属会社名及び証明印の入った名札を着用する。
	③ 電気保安技術者 (1.3.3)	●適用する ・適用しない

項目		特記事項																				
④技能士 (1.5.2)		工事種目	技能検定職種 技能検定作業																			
		仮設工事	とび ・とび作業																			
		鉄筋工事	鉄筋施工 ・鉄筋組立作業																			
		コンクリート工事	型枠施工 ・型枠工事作業																			
			コンクリート圧送施工 ・コンクリート圧送工事作業																			
		鉄骨工事	鉄工 ・構造物鉄工作業																			
			とび ・とび作業																			
		コンクリートブロック・ＡＬＣ	ブロック建築 ・コンクリートブロック工事作業																			
			ＡＬＣパネル施工 ・ＡＬＣパネル工事作業																			
		防水工事	防水施工 ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法 防水工事作業																			
		石工事	石材施工 ・ＦＲＰ防水工事作業																			
		タイル工事	タイル張り ・石張り作業 ・タイル張り作業																			
		木工事	建築大工 ・大工工事作業																			
		屋根及びとい工事	建築板金 ・内外装板金作業																			
			内装仕上施工 ・鋼製下地工事作業																			
			建築板金 ・内外装板金作業																			
		左官工事	左官 ・左官作業																			
		建具工事	サッシ施工 ・ビル用サッシ施工作業																			
			ガラス施工 ・ガラス工事作業																			
			自動ドア施工 ・自動ドア施工作業																			
		カーテンウォール工事	カーテンウォール施工 ・金属製カーテンウォール工事作業																			
			サッシ施工 ・ビル用サッシ施工作業																			
			ガラス施工 ・ガラス工事作業																			
		塗装工事	塗装 ・建築塗装作業																			
		内装工事	内装仕上施工 ・プラスチック系仕上工事作業 ・カーペット系仕上作業 ・ボード仕上工事作業																			
			塗装 ・壁塗装作業																			
			配管 ・建築配管作業																			
		排水工事	配管 ・溶解ペイントマーカ－工事作業																			
		舗装工事	路面表示施工 ・加熱ペイントマシンマーカ－工事作業																			
		植栽工事	造園 ・造園工事作業																			
	その他の工事	・																				
⑤施工管理 (1.3.1)	(1.1.5)	受注者は施工管理体制を確立し、品質、工程、安全等の施工管理を行う。 ※施工体制台帳（建設業法等に従って作成し、写しを提出する。） 監理者台帳（施工体制台帳に添付） 監理技術者・主任技術者（下請を含む）及び専門技術者の写真、名前、生年月日、所属会社名を記載する。 ※施工体系図（建設業法に基づき、当該現場の見やすい場所に掲示する。）																				
⑥建築材料等 (1.4.1)	※建築材料の製造所、製品及び施工業者などは、特記されたもの又は同等のものとする。 また、同等とする場合は、監督員の承認を受ける。 また（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料、機材等を使用する場合は、評価書写しを監督員に提出する。 国等による環境負荷低減の促進等に関する法律（平成12年法律第100号「グリーン購入法」という。）により、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。 材料の選定に当たっては、採掘性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 工事に使用する材料は、アスベストを含有しないものとする。																					
	7 化学物質の濃度測定 (1.5.9) 受注者は、引渡し前に次の対象物質について室内空気中に含まれる濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告する。 対象物質 ・４項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン） ・５項目（ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン） 測定方法 ※計画書を提出し、監督員の承認を受ける。 対象室名 測定箇所数																					
⑦特別な材料の工法	建築標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。																					
⑧養生材の処理 (1.3.11)	養生材処理方法 ・引渡しを要するもの（ ） ・現場において再利用を図るもの（ ） ※再資源化を図るもの ・アスファルトコンクリート ・コンクリート ・木材 ・コンクリート及び鉄かなる建築資材 ※上記以外のものはすべて横外に搬出し、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下、「廃棄物処理法」という。）その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適正に処理する。																					
	10 工事及び完成写真 工事及び完成写真 <table><tr><th>分類</th><th>規格</th><th>撮影枚数</th><th>提出部数</th></tr><tr><td>着手前</td><td>サービス版程度（カラー）</td><td>必要に応じた数</td><td>2</td></tr><tr><td>工事中</td><td>サービス版程度（カラー）</td><td>必要に応じた数</td><td>2</td></tr><tr><td>施工後</td><td>サービス版程度（カラー）</td><td>必要に応じた数</td><td>2</td></tr><tr><td>完成時</td><td>サービス版程度（カラー）</td><td>各室４面 キャビネ版程度（カラー）外景４面</td><td>2</td></tr></table> ※工事着手に先立ち、設計図面（Ａ３版二つ折り）製本を 部提出する。 撮影用具 （ ・従来カメラ ・デジタルカメラ ） 着手前及び工事中、施工後写真 ※Ａ４版印刷。若しくはＡ４版写真帳 完成時写真 ※アルバム（Ａ４版程度） ・写真帳 （検査後１４日以内に提出する。） 原版の提出 ※する（ ※完成時のみ ・全て ） ・しない （電子データ形式等も、監督員の指示による。） 上記の工事及び完成写真と別に下記のものを指定時期に監督員に提出する。 １）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする ２）工事写真 水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及びその他監督員が指示する箇所は、工事写真を主として各検査日までに２部提出するものとする。 ３）その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真を監督員の指示により提出するものとする。			分類	規格	撮影枚数	提出部数	着手前	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2	工事中	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2	施工後	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2	完成時	サービス版程度（カラー）	各室４面 キャビネ版程度（カラー）外景４面
分類	規格	撮影枚数	提出部数																			
着手前	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2																			
工事中	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2																			
施工後	サービス版程度（カラー）	必要に応じた数	2																			
完成時	サービス版程度（カラー）	各室４面 キャビネ版程度（カラー）外景４面	2																			
⑨完成時の提出図書 (1.7.1)	速やかに次の図書を提出する。 ●竣工図面 ・承諾図 ●施工図 ） ●Ａ３版を２つ折りにして製本 部 2部																					
	(1.7.2)	●竣工図電子データ（方式 一式（竣工図電子データ作成要領による。）																				
	(1.7.3)	●ＣＡＤデータ（媒体形式ＣＤ－Ｒなど、データ形式等は監督員の指示による。）																				
		・保単に関する資料 2部																				

	項	特 記 事 項																																				
12	別契約の関連 工事との調整等	施工範囲 ※24章「工事区分表」による。 関連工事との調整 ※別契約の関連工事受注者が足場などを使用する場合は無償とする。 ※別契約の関連工事受注者と工程を含めた総合的な打合せを定期的に行い、監督員の調整に協力し、当該工事関係者とともに円滑な施工に努める。																																				
	(1.1.7)																																					
13	施工中の安全確保	安全確保 ・労働安全衛生法に基づく指名 ・本工事は、交通誘導員として 人を見込んでいる。 ・交通誘導員の配置については、実施伝票（原本）および配置状況のわかる立会写真の撮影を行い監督員に提出する。																																				
	(1.3.7)																																					
14	工事実績情報の登録	実績情報の登録 ※受注者は、次表に従い、工事実績情報を登録する。なお、登録内容について、あらかじめ監督員の承認を受けたのちに、次表の期間内に登録手続を行う。 登録後は登録されたことを証明する資料を、速やかに提出する。																																				
	(1.1.4)	<table><tr><th>積算金額</th><th>工事受注時</th><th>登録内容の変更時</th><th>工事完成時</th></tr><tr><td>500万円以上</td><td>契約後10日以内</td><td>変更契約後10日以内</td><td>工事完成後10日以内</td></tr></table> ※変更登録は、工期、技術者等に変更が生じた場合に行う。 ※変更時と工事完成時の間が10日に満たない場合は、変更時の提出を省略できる。	積算金額	工事受注時	登録内容の変更時	工事完成時	500万円以上	契約後10日以内	変更契約後10日以内	工事完成後10日以内																												
積算金額	工事受注時	登録内容の変更時	工事完成時																																			
500万円以上	契約後10日以内	変更契約後10日以内	工事完成後10日以内																																			
15	アスベスト含有 成形板の処理等	処理を行うアスベスト含有成形板の仕様及び部位（建築改修標準仕様書 9.1.5） <table><tr><th>アスベスト含有成形板の仕様</th><th>使 用 部 位</th></tr><tr><td>・石綿スレート</td><td></td></tr><tr><td>・石綿セメントけい酸カルシウム板</td><td></td></tr><tr><td>・その他（ ）</td><td></td></tr></table> ※事前に施工調査等により広く確認を行う。 安全衛生管理 ※石綿作業主事者 石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号。以下、「石綿則」という。）に基づき、石綿作業主事を指定する。なお、石綿作業主事者は、石綿作業主事者技能講習修了者、又は平成18年3月以前の特定化学物質作業主事主任者の有資格者とする。 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という。）、は、石綿則に基づく特別の教育を受けた者とする。 ・表示及び掲示 作業現場の見やすい場所に、石綿則第34条に基づく掲示をする。 除去作業者の呼吸用保護具・保護衣 ・呼吸用保護具（国家検定合格品） ・ R L 2 又は R S 2 ※その他の仕様は建築改修標準仕様書による。	アスベスト含有成形板の仕様	使 用 部 位	・石綿スレート		・石綿セメントけい酸カルシウム板		・その他（ ）																													
	アスベスト含有成形板の仕様	使 用 部 位																																				
・石綿スレート																																						
・石綿セメントけい酸カルシウム板																																						
・その他（ ）																																						
2	工事現場仮囲い	現場仮囲い ・ ナイロンロープ張り ・ 木製仮囲い ●鋼製仮囲い ・ しない																																				
	仮設																																					
3	監督員事務所	監督員事務所の概要 ・ 設ける（ ）㎡程度 ・ 備品等（ ・ 冷暖房 ・ 暖房 ・ 冷暖房 ・ 椅子、机、梯子 ・ WiFi通信 ）																																				
	(2.3.1)																																					
4	受注者事務所等	受注者事務所等 ●敷地内へ建てることのできる。 ・ できない																																				
	工事																																					
5	工事用水	構内既存の施設 ・ 有償で利用できる ・ 無償で利用できる ●利用できない (副メーター設置等)																																				
	(2.3.1)																																					
6	工事用電力	構内既存の施設 ・ 有償で利用できる ・ 無償で利用できる ●利用できない																																				
	5																																					
7	引渡しまでの 光熱水費	光熱水費 ●水引込みより引渡しまでの基本料金 ※受注者負担 ・ 別途 ●水引込みより引渡しまでの使用料金 ※受注者負担 ・ 別途																																				
	6																																					
7	安全対策	安全対策 敷地内は隣接建物利用者の安全確保に努め、仮囲い等の適切な措置を図る。 工事内の工物は必要に応じて養生を行い、被害を及ぼした場合は受注者の責任にて復旧する。																																				
	7																																					
9	足場その他	※枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（「厚生労働省平成2年4月」の手すり先行工法等に関するガイドライン）によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。																																				
	(2.2.4)																																					
9	現況確認	●工事の着手に先立ち、関係者会議のいう図面に基づいて敷地や周辺の状況及び高低差などを確認する。																																				
	9																																					
10	工事現場の表示	工事現場の表示 (2.3.1) 現場の見やすい位置に、監督員が指示する次の表示板（900mm×600mm以上）を設置する。 表示板名称、発注者を示す表示板 ・ 工事概要等の説明看板																																				
	(2.3.1)																																					
3	埋戻し及び盛土	種 別 ・ A 種 ※B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ リサイクルプラントが販売する処理土 D 種の場合は必要に応じて「セメント及びセメント系固化剤を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、監督員と協議の上、六価クロム溶出試験を行う。																																				
	(表 3.2.1)																																					
2	建設発生土の処理	●構外搬出適切処理（再資源化施設処理へ搬送する） ●構内指示の場所に敷きならし ・ 構内指示の場所に堆積																																				
	(3.2.5)																																					
3	建設発生土処分先	※当該工事により発生する建設発生土は、次の公の関与する埋立地に搬出するものとする。 搬出場所 関係法令等により、適切に処理するとの関与する埋立地に搬出するものとする。 搬出先は、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、計量伝票等を報告書にまとめて監督員に提出する。																																				
	(3.2.5)																																					
4	基礎	基礎の種類 ●ベタ基礎 ・ 布基礎 ・ 独立基礎 ・ 構造設計標準仕様書 4章 (1)直接基礎による 直接基礎 (・ 地盤改良 (・ 表層改良 ・ 鋼管改良 ●状況改良)) 支持地盤の位置及び種類 (ラッフルコンクリートの底面位置含む) ※構造図による 支持地盤の設計地耐力 KN/㎡ ・ 杭基礎 ・ 構造設計標準仕様書 4章 (2)杭基礎による 支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端位置含む) ※構造図による (試験杭位置含む)																																				
	地業 工事																																					
5	試験及び報告書	試験杭 位置、本数及び寸法 杭の載荷試験 地盤の載荷試験 ・ 最初の 1 本 ●図示による ・ 図示による ・ 図示による																																				
	(4.2～4.4.2)																																					
3	既製コンクリート	設計支持力 KN/本（φ ） 地業 支持力の算定方法 ※平成13年国土交通省告示第1113号による。 支持地盤の位置及び種類 ※図示による 杭の水平方向への位置ずれの精度 ※図示による																																				
	(4.3.2)(4.3.6)																																					
4	杭の種類	<table><tr><th>杭の種類</th><th>・ P H C 杭</th><th></th><th></th></tr><tr><td>杭 の 種 類</td><td>連心力高強度プレストレストコンクリート杭</td><td></td><td></td></tr><tr><td>規格・材質など</td><td>・ JIS規格品 ・ 評価品 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>長さ (mm)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>断面寸法 (mm)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>長期設計支持力 (KN/本)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>継 手 法</td><td>・ なし ・ あり (箇所)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>工 工</td><td>・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 ()</td><td></td><td></td></tr><tr><td>先端部形式及び形状</td><td>・ 開放形 ・ 閉鎖型平たん形</td><td></td><td></td></tr></table>	杭の種類	・ P H C 杭			杭 の 種 類	連心力高強度プレストレストコンクリート杭			規格・材質など	・ JIS規格品 ・ 評価品 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種			長さ (mm)				断面寸法 (mm)				長期設計支持力 (KN/本)				継 手 法	・ なし ・ あり (箇所)			工 工	・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 ()			先端部形式及び形状	・ 開放形 ・ 閉鎖型平たん形		
	杭の種類	・ P H C 杭																																				
杭 の 種 類	連心力高強度プレストレストコンクリート杭																																					
規格・材質など	・ JIS規格品 ・ 評価品 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種																																					
長さ (mm)																																						
断面寸法 (mm)																																						
長期設計支持力 (KN/本)																																						
継 手 法	・ なし ・ あり (箇所)																																					
工 工	・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 ()																																					
先端部形式及び形状	・ 開放形 ・ 閉鎖型平たん形																																					
(4.3.7)	杭頭部の処理 工法	※行わない ・ 行う																																				

8

鉄筋工事

4

場所打ち
コンクリート杭地業
(4.5.1) (4.5.2)
(4.5.4)

鉄筋 (4.5.3)

コンクリート
(表4.5.1)

孔壁の測定

5

砂利及び砂地業
(4.6.3) (4.6.2)

6

捨コンクリート地業
(4.6.4)

7

床下防湿層
(4.6.5)

8

断熱材

5

鉄筋の種類
(表5.2.1)

2

溶接金網
(5.2.2)

3

柱・梁の鉄筋の継手
(5.3.4)

4

貫通孔補強

5

圧接完了後の検査
(5.4.9)

6

柱の帯筋

6

コンクリートの強度
(6.2.2) (表6.2.2)

6.10.1～6.10.4

2

コンクリートの種類
(6.2.1) (表6.2.1)

3

水セメント比
(6.3.2)

4

コンクリート
中の塩化物量
(6.3.2)

5

コンクリート
のアルカリ総量
(6.5.4)

6

コンクリート
の仕上り
(6.2.5) (表6.2.3)
(6.9.6)

7

コンクリートの材料
(6.3.1)

特記事項

・セメントミルク工法
支持地盤への掘削深さ m 根入れ深さ m

・特定埋込杭工法 定められた条件に基づく責任施工とする。
・プレボリング拡大根固めの工法
・中掘り拡大根固めの工法
・回転根固めの工法

施工管理技術者 ※適用する

工法 ・アースドリル工法 ・リバース工法
・オールケーシング工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡張杭工法

鉄筋の種類 ※5章「鉄筋工事」による。
帯筋 ※図示による
最小かぶり厚さ ・100 mm ・125 mm mm

設計基準強度 N/mm²
コンクリートの種類 ・A 種 ・B 種
構造体強度補正值(S) ※図示による ・3 N/mm²

孔壁の超音波測定 ・適用する ・適用しない

厚さ (mm) 90 100 20 150 構造設計標準仕様書 4章 (4) 各部の地業による
材料 ・直接基礎 ※切込砂利又は切込砕石
・その他 ※再生クラッシャーラン
・構造設計標準仕様書 4章 (4) 各部の地業による

厚さ (mm) 50 30 構造設計標準仕様書 4章 (4) 各部の地業による

材料 ・ポリエチレンフィルム 厚さ (mm) ※0.15 mm

断熱材
※19章「内装工事」9項「断熱材」による。

※JIS G 3112 のJIS表示認証製品
鉄筋の種類 ・下記による ・構造設計標準仕様書 2章 (3) 鉄筋の表による

種 別	種 別	径 (mm)
異形鉄筋	SD295A	D16以下
	SD295B	
	SD345	D19以上
丸鋼	SR235	

※JIS G 3551 のJIS表示認証製品
溶接金網 ・下記による ・構造設計標準仕様書 2章 (3) 鉄筋の表による
網目の形状 寸法及び径 (mm)
施工場所 ()

鉄筋の継手 ・構造設計標準仕様書 2章 (3) 鉄筋の表による
継手位置 ・ガス圧接 (SD295Aは不可)
※鉄筋工事仕様書による。 ・重ね継手 ・機械式継手 ・溶接継手
・各部配筋参考図

貫通孔補強 ※鉄筋工事仕様書による。 ・各部配筋参考図

検査方法 ※超音波深層試験 ・引張試験

柱の帯筋 ●構造設計標準仕様書 5章 (2) 柱の帯筋 (H00P) の加工方法による
・組み立ての形はS P形とする。(鉄筋工事仕様書による)
・H型 (タガ型) ・W型 (溶接型) ・I形 ・H形 ・H形
・丸形

コンクリート ・下記による ●構造設計標準仕様書 2章 (1) コンクリートの表による
※普通コンクリート

設計基準強度 F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	適 用 箇 所
※ 構造図による		
・ 21	18	
・ 21	15	

※軽重コンクリート

設計基準強度 F _c (N/mm ²)	種類	スラブ (cm)	適 用 箇 所
	・ 1 種 ・ 2 種		

※構造体コンクリートの強度は、材令91日において設計基準強度以上とする。
※屋根床版のスラブは 15 cmとする。

※Ⅰ 類 ・Ⅱ 類

※最大値は65%とする (低熱ポルトランドセメント及び混合セメントB種の場合は60%)

※0.30kg/m³以下

●アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、
コンクリート中の総アルカリ量を 3.0 kg/m³以下とする。

打致仕上げの種類
※合板せき板を使用する場合

種 別	せき板の種類	表面・せき板の程度	適 用 箇 所
・ A 種	J A S (表面加工品)	表6.2.4	※ 図示
※ B 種	J A S B－C	表6.2.4	・
・ C 種	J A S B－C	表6.2.4	・

セメント ※普通ポルトランドセメント ・混合セメントA種
混和材料 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤 (J I S A6204)
※フライアッシュ (J I S A6201) I 種、II 種若しくはIV種
※高炉スラグ微粉末 (J I S A6206)
※シリカフューム (J I S A6207) 又は膨張材 (J I S A6202)

工 事 名

汐ノ津呂排水機場建屋建築

図 面 名

特 記 仕 様 書 (1)

作成年月日

令和 5 年 3 月 15 日

工 事 名	汐ノ 津呂排水機場建屋建築		
図 面 名	特 記 仕 様 書 (1)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 15 日		
縮 尺		図面番号	A-
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

建築特記仕様書(2)

6
コン
クリ
ート
工
事

⑧
コンクリート製造工場の選定
(6.4.1)

※コンクリート製造工場の選定は、監督員の承諾を受ける。

⑨
強度
(6.3.2)(表6.3.2)

構造体強度補正值 S (N/mm²)

セメント	補正值	70℃以下打ち込みから28日までの予想平均気温θの範囲(℃)	適用期間
普通ポルトランドセメント	3	8以上	2/26~6/30 9/14~11/30
早強ポルトランドセメント	6	0以上8未満	12/1~2/25
	3	5以上	1/1~6/30 9/14~12/31
	6	0以上5未満	該当なし

⑩
中コンクリート
(6.12.1~6.12.4)

※日平均気温の平均値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合
構造体強度補正值 S (N/mm²) 6.0 N/mm²

⑪
中コンクリート
(6.11.1~6.11.6)

適用期間 ()

⑫
コンクリート
(6.9.1~6.9.5)

※「建築標準仕様書」表 6.9.2 による。

⑬
外部に面する
コンクリート
打放し仕上

※打地厚さ (mm) ※20

⑭
型枠のせき板
(6.8.3)

せき板の材料 ※合板 (12mm) ・合板 (15mm)
・床型枠用鋼製デッキプレート (実績等の資料を提出)
・メッシュ型枠 (25mm以下かつ熱抵抗値 1m²℃/Kcal以上)
・断熱材兼用型枠 ()
・MCR工法用シート (気泡発泡ポリエチレンシート)

⑮
マスコンクリート
(6.13.2)

セメントの種類 ()
適用箇所 ()

⑯
水密コンクリート

水セメント比 (ノノ)	スラブ (cm)	適用箇所
※ 50	※ 15	

⑰
打継部

止水板 止水ゴムの製造所 ()
適用箇所 ()
打継ぎ目地 ※図示 ・幅20mm以上 深さ10mm以上

⑱
無筋コンクリート
(6.14.1~6.14.3)

適用箇所 ・図示 ※「建築標準仕様書」6.14.1 による
粗骨材の最大寸法 (捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合) ※25mm

⑲
流動化コンクリート
(6.15.1~6.15.3)

・適用 ()

①
鉄骨製作工場及び
施工管理技術者
(7.1.3~7.1.4)

鉄骨製作工場
・構造設計標準仕様書 6章 (2) 製作工場による
・次表による加工能力のある工場 ・監督員の承諾する工場
製作工場の加工能力
建築基準法第77条の4第5項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨鋼材センター又は(社)全国鋼材工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Mグレード」以上として国土交通大臣から認定を受けた工場又は工事現場対象地域の都道府県の鉄鋼工業会企業企業の工場
施工管理技術者 ※適用する ・適用しない

②
鋼材
(7.2.1)(表7.2.1)

鋼材の種類 ① 構造図による
・次表による鋼材 ・構造設計標準仕様書 2章 (4) 鉄骨鋼材表による

材 質	規 格	使 用 箇 所
・SS 400 ・SM 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
・SSC 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
・STK 400 ・STKR 400	※JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・
・BOR 295 ・BCP 325	※JIS規格品 ※JIS規格品以外	・図示 ・
・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・	
・JIS規格品 ・JIS規格品以外	・図示 ・	

JIS規格品以外の場合 ※試験を行う ・試験を行わない
※BOR 295 及び BCP 325 は 一般社団法人日本鉄鋼連盟の製品規定で大臣認定品とする
BOR295: 「建築構造用冷間ロール成形角形鋼管」BCRは、200mm×6mm~550mm×25mm
BCP235、325: 「建築構造用冷間プレス成形角形鋼管」BCPIは、350mm×12mm~1000mm×40mm
※BOR 295 及び BCP 325 は 監督員の承諾のもと大臣認定品の証明書類一式とメーカーのミルシートにより上記の試験を省略することができる。

③
高力ボルト
(7.2.2)

高力ボルトの種類 ① 構造図による
・下記による高力ボルト ・構造設計標準仕様書 2章 (5) ボルトによる
・トルシヤ高力ボルト (セツの種類 ※2種 (S10T))
・JISの高力ボルト (セツの種類 ※2種 (F10T))
・溶融亜鉛めっき高力ボルト (セツの種類 ※1種 (P8T相当))
ボルト径 ※図示による

④
普通ボルト
(7.2.3)

普通ボルトの種類 ① 構造図による
・下記による普通ボルト ・構造設計標準仕様書 2章 (5) ボルトによる
ボルト及びナットの材料等 ※「建築標準仕様書」表7.2.3 による
ボルト径 ※図示による

⑤
アンカーボルトの
材質及び設置
(7.2.4)(7.10.3)

アンカーボルトの種類 ① 構造図による
・下記によるアンカーボルト ・構造設計標準仕様書 2章 (5) ボルトによる
アンカーボルトの材質
構造用アンカーボルト ・S N400
建方用アンカーボルト ・S S400
構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法 ※図示による
建方用保持及び埋込み方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・その他

⑥
タンバックス
(7.2.6)

鋼の種類 ※割付式
ボルトの種類 ※羽子板ボルト

⑦
デッキプレート
(7.2.7)

デッキプレートの種類
・次表による鋼材 ・構造設計標準仕様書 2章 (6) デッキプレートによる

形 式	材 質	形 状	寸 法	備 考
・構造床				
・合成スラブ				
・				
・				

8
C
B
・
A
・
C
ハ
ネ
ル
・
押
出
成
形
セ
メ
ン
ト
板
工
事

⑧
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

ブロック
(8.3.3)

⑨
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑩
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

⑪
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑫
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

⑬
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑭
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

⑮
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑯
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

⑰
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑱
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

⑲
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

⑳
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉑
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉒
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉓
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉔
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉕
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉖
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉗
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉘
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉙
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉚
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉛
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉜
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉝
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㉞
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㉟
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊱
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊲
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊳
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊴
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊵
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊶
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊷
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊸
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊹
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊺
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊻
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊼
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊽
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊾
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

㊿
コンクリート
(8.2.2)(8.3.2)

㊿⁺
A
L
C
ハ
ネ
ル
(8.4.2~7)
(表8.4.2~4)

9
防
水
工
事

⑧
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑨
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑩
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑪
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑫
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑬
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑭
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑮
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑯
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑰
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑱
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

⑲⁺
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉑
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉒
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉓
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉔
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉕
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉖
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉗
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉘
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉙
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉚
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉛
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉜
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉝
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉞
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㉟
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊱
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊲
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊳
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊴
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊵
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊶
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊷
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊸
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊹
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊺
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊻
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊼
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊽
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊾
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊿
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

㊿⁺
防水層の種類及び工程
(9.2.2)
(表9.2.1~表9.2.10)

10
石
工
事

⑧
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑨
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑩
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑪
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑫
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑬
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑭
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑮
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑯
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑰
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑱
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

⑲⁺
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉑
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉒
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉓
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉔
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉕
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉖
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉗
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉘
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉙
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉚
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉛
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉜
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉝
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉞
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㉟
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊱
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊲
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊳
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊴
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊵
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊶
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊷
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊸
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊹
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊺
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊻
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊼
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊽
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊾
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊿
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

㊿⁺
天然石 (10.2.1)
(10.2.1)(10.2.2)

11
タ
イ
ル
工
事

⑧
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑨
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑩
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑪
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑫
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑬
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑭
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑮
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑯
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑰
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑱
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

⑲⁺
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉑
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉒
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉓
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉔
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉕
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉖
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉗
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉘
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉙
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉚
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉛
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉜
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉝
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉞
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㉟
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊱
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊲
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊳
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊴
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊵
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊶
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊷
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊸
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊹
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊺
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊻
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊼
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊽
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊾
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊿
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

㊿⁺
伸縮目地及び
ひび割れ誘発目地
(11.1.3)

12
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼
適用基準等

㊽
適用基準等

㊾
適用基準等

㊿
適用基準等

㊿⁺
適用基準等

13
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼
適用基準等

㊽
適用基準等

㊾
適用基準等

㊿
適用基準等

㊿⁺
適用基準等

14
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼
適用基準等

㊽
適用基準等

㊾
適用基準等

㊿
適用基準等

㊿⁺
適用基準等

15
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼
適用基準等

㊽
適用基準等

㊾
適用基準等

㊿
適用基準等

㊿⁺
適用基準等

16
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼
適用基準等

㊽
適用基準等

㊾
適用基準等

㊿
適用基準等

㊿⁺
適用基準等

17
工
事

⑧
適用基準等

⑨
適用基準等

⑩
適用基準等

⑪
適用基準等

⑫
適用基準等

⑬
適用基準等

⑭
適用基準等

⑮
適用基準等

⑯
適用基準等

⑰
適用基準等

⑱
適用基準等

⑲⁺
適用基準等

㉑
適用基準等

㉒
適用基準等

㉓
適用基準等

㉔
適用基準等

㉕
適用基準等

㉖
適用基準等

㉗
適用基準等

㉘
適用基準等

㉙
適用基準等

㉚
適用基準等

㉛
適用基準等

㉜
適用基準等

㉝
適用基準等

㉞
適用基準等

㉟
適用基準等

㊱
適用基準等

㊲
適用基準等

㊳
適用基準等

㊴
適用基準等

㊵
適用基準等

㊶
適用基準等

㊷
適用基準等

㊸
適用基準等

㊹
適用基準等

㊺
適用基準等

㊻
適用基準等

㊼

建築特記仕様書(3)

12

木工事

13

屋根及び土間工事

14

金属工事

15

金工

16

金工

17

金工

18

金工

19

金工

20

金工

21

金工

22

金工

23

金工

24

金工

25

金工

26

金工

27

金工

28

金工

29

金工

30

金工

31

金工

32

金工

33

金工

34

金工

35

金工

36

金工

37

金工

38

金工

39

金工

40

金工

41

金工

42

金工

43

金工

44

金工

45

金工

46

金工

47

金工

48

金工

49

金工

50

金工

51

金工

52

金工

53

金工

54

金工

55

金工

56

金工

57

金工

58

金工

59

金工

60

金工

61

金工

62

金工

63

金工

64

金工

65

金工

66

金工

67

金工

68

金工

69

金工

70

金工

71

金工

72

金工

73

金工

74

金工

75

金工

76

金工

77

金工

78

金工

79

金工

80

金工

81

金工

82

金工

83

金工

84

金工

85

金工

86

金工

87

金工

88

金工

89

金工

90

金工

91

金工

92

金工

93

金工

94

金工

95

金工

96

金工

97

金工

98

金工

99

金工

100

金工

1

鉄鋼の垂れめっき

2

鉄鋼の垂れめっきの種類

3

鉄鋼の垂れめっきの種類

4

鉄鋼の垂れめっきの種類

5

鉄鋼の垂れめっきの種類

6

鉄鋼の垂れめっきの種類

7

鉄鋼の垂れめっきの種類

8

鉄鋼の垂れめっきの種類

9

鉄鋼の垂れめっきの種類

10

鉄鋼の垂れめっきの種類

11

鉄鋼の垂れめっきの種類

12

鉄鋼の垂れめっきの種類

13

鉄鋼の垂れめっきの種類

14

鉄鋼の垂れめっきの種類

15

鉄鋼の垂れめっきの種類

16

鉄鋼の垂れめっきの種類

17

鉄鋼の垂れめっきの種類

18

鉄鋼の垂れめっきの種類

19

鉄鋼の垂れめっきの種類

20

鉄鋼の垂れめっきの種類

21

鉄鋼の垂れめっきの種類

22

鉄鋼の垂れめっきの種類

23

鉄鋼の垂れめっきの種類

24

鉄鋼の垂れめっきの種類

25

鉄鋼の垂れめっきの種類

26

鉄鋼の垂れめっきの種類

27

鉄鋼の垂れめっきの種類

28

鉄鋼の垂れめっきの種類

29

鉄鋼の垂れめっきの種類

30

鉄鋼の垂れめっきの種類

31

鉄鋼の垂れめっきの種類

32

鉄鋼の垂れめっきの種類

33

鉄鋼の垂れめっきの種類

34

鉄鋼の垂れめっきの種類

35

鉄鋼の垂れめっきの種類

36

鉄鋼の垂れめっきの種類

37

鉄鋼の垂れめっきの種類

38

鉄鋼の垂れめっきの種類

39

鉄鋼の垂れめっきの種類

40

鉄鋼の垂れめっきの種類

41

鉄鋼の垂れめっきの種類

42

鉄鋼の垂れめっきの種類

43

鉄鋼の垂れめっきの種類

44

鉄鋼の垂れめっきの種類

45

鉄鋼の垂れめっきの種類

46

鉄鋼の垂れめっきの種類

47

鉄鋼の垂れめっきの種類

48

鉄鋼の垂れめっきの種類

49

鉄鋼の垂れめっきの種類

50

鉄鋼の垂れめっきの種類

51

鉄鋼の垂れめっきの種類

52

鉄鋼の垂れめっきの種類

53

鉄鋼の垂れめっきの種類

54

鉄鋼の垂れめっきの種類

55

鉄鋼の垂れめっきの種類

56

鉄鋼の垂れめっきの種類

57

鉄鋼の垂れめっきの種類

58

鉄鋼の垂れめっきの種類

59

鉄鋼の垂れめっきの種類

60

鉄鋼の垂れめっきの種類

61

鉄鋼の垂れめっきの種類

62

鉄鋼の垂れめっきの種類

63

鉄鋼の垂れめっきの種類

64

鉄鋼の垂れめっきの種類

65

鉄鋼の垂れめっきの種類

66

鉄鋼の垂れめっきの種類

67

鉄鋼の垂れめっきの種類

68

鉄鋼の垂れめっきの種類

69

鉄鋼の垂れめっきの種類

70

鉄鋼の垂れめっきの種類

71

鉄鋼の垂れめっきの種類

72

鉄鋼の垂れめっきの種類

73

鉄鋼の垂れめっきの種類

74

鉄鋼の垂れめっきの種類

75

鉄鋼の垂れめっきの種類

76

鉄鋼の垂れめっきの種類

77

鉄鋼の垂れめっきの種類

78

鉄鋼の垂れめっきの種類

79

鉄鋼の垂れめっきの種類

80

鉄鋼の垂れめっきの種類

81

鉄鋼の垂れめっきの種類

82

鉄鋼の垂れめっきの種類

83

鉄鋼の垂れめっきの種類

84

鉄鋼の垂れめっきの種類

85

鉄鋼の垂れめっきの種類

86

鉄鋼の垂れめっきの種類

87

鉄鋼の垂れめっきの種類

88

鉄鋼の垂れめっきの種類

89

鉄鋼の垂れめっきの種類

90

鉄鋼の垂れめっきの種類

91

鉄鋼の垂れめっきの種類

92

鉄鋼の垂れめっきの種類

93

鉄鋼の垂れめっきの種類

94

鉄鋼の垂れめっきの種類

95

鉄鋼の垂れめっきの種類

96

鉄鋼の垂れめっきの種類

97

鉄鋼の垂れめっきの種類

98

鉄鋼の垂れめっきの種類

99

鉄鋼の垂れめっきの種類

100

鉄鋼の垂れめっきの種類

1

鉄鋼の垂れめっき

2

鉄鋼の垂れめっきの種類

3

鉄鋼の垂れめっきの種類

4

鉄鋼の垂れめっきの種類

5

鉄鋼の垂れめっきの種類

6

鉄鋼の垂れめっきの種類

7

鉄鋼の垂れめっきの種類

8

鉄鋼の垂れめっきの種類

9

鉄鋼の垂れめっきの種類

10

鉄鋼の垂れめっきの種類

11

鉄鋼の垂れめっきの種類

12

鉄鋼の垂れめっきの種類

13

鉄鋼の垂れめっきの種類

14

鉄鋼の垂れめっきの種類

15

鉄鋼の垂れめっきの種類

16

鉄鋼の垂れめっきの種類

17

鉄鋼の垂れめっきの種類

18

鉄鋼の垂れめっきの種類

19

鉄鋼の垂れめっきの種類

20

鉄鋼の垂れめっきの種類

21

鉄鋼の垂れめっきの種類

22

鉄鋼の垂れめっきの種類

23

鉄鋼の垂れめっきの種類

24

鉄鋼の垂れめっきの種類

25

鉄鋼の垂れめっきの種類

26

鉄鋼の垂れめっきの種類

27

鉄鋼の垂れめっきの種類

28

鉄鋼の垂れめっきの種類

29

鉄鋼の垂れめっきの種類

30

鉄鋼の垂れめっきの種類

31

鉄鋼の垂れめっきの種類

32

鉄鋼の垂れめっきの種類

33

鉄鋼の垂れめっきの種類

34

鉄鋼の垂れめっきの種類

35

鉄鋼の垂れめっきの種類

36

鉄鋼の垂れめっきの種類

37

鉄鋼の垂れめっきの種類

38

鉄鋼の垂れめっきの種類

39

鉄鋼の垂れめっきの種類

40

鉄鋼の垂れめっきの種類

41

鉄鋼の垂れめっきの種類

42

鉄鋼の垂れめっきの種類

43

鉄鋼の垂れめっきの種類

44

鉄鋼の垂れめっきの種類

45

鉄鋼の垂れめっきの種類

46

鉄鋼の垂れめっきの種類

47

鉄鋼の垂れめっきの種類

48

鉄鋼の垂れめっきの種類

49

鉄鋼の垂れめっきの種類

50

鉄鋼の垂れめっきの種類

51

鉄鋼の垂れめっきの種類

52

鉄鋼の垂れめっきの種類

53

鉄鋼の垂れめっきの種類

54

鉄鋼の垂れめっきの種類

55

鉄鋼の垂れめっきの種類

56

鉄鋼の垂れめっきの種類

57

鉄鋼の垂れめっきの種類

58

鉄鋼の垂れめっきの種類

59

鉄鋼の垂れめっきの種類

60

鉄鋼の垂れめっきの種類

61

鉄鋼の垂れめっきの種類

62

鉄鋼の垂れめっきの種類

63

鉄鋼の垂れめっきの種類

64

鉄鋼の垂れめっきの種類

65

鉄鋼の垂れめっきの種類

66

鉄鋼の垂れめっきの種類

67

鉄鋼の垂れめっきの種類

68

鉄鋼の垂れめっきの種類

69

鉄鋼の垂れめっきの種類

70

鉄鋼の垂れめっきの種類

71

鉄鋼の垂れめっきの種類

72

鉄鋼の垂れめっきの種類

73

鉄鋼の垂れめっきの種類

74

鉄鋼の垂れめっきの種類

75

鉄鋼の垂れめっきの種類

76

鉄鋼の垂れめっきの種類

77

鉄鋼の垂れめっきの種類

78

鉄鋼の垂れめっきの種類

79

鉄鋼の垂れめっきの種類

80

鉄鋼の垂れめっきの種類

81

鉄鋼の垂れめっきの種類

82

鉄鋼の垂れめっきの種類

83

鉄鋼の垂れめっきの種類

84

鉄鋼の垂れめっきの種類

85

鉄鋼の垂れめっきの種類

86

鉄鋼の垂れめっきの種類

87

鉄鋼の垂れめっきの種類

88

鉄鋼の垂れめっきの種類

89

鉄鋼の垂れめっきの種類

90

鉄鋼の垂れめっきの種類

91

鉄鋼の垂れめっきの種類

92

鉄鋼の垂れめっきの種類

93

鉄鋼の垂れめっきの種類

94

鉄鋼の垂れめっきの種類

95

鉄鋼の垂れめっきの種類

96

鉄鋼の垂れめっきの種類

97

鉄鋼の垂れめっきの種類

98

鉄鋼の垂れめっきの種類

99

鉄鋼の垂れめっきの種類

100

鉄鋼の垂れめっきの種類

1

鉄鋼の垂れめっき

2

鉄鋼の垂れめっきの種類

3

鉄鋼の垂れめっきの種類

4

鉄鋼の垂れめっきの種類

5

鉄鋼の垂れめっきの種類

6

鉄鋼の垂れめっきの種類

7

鉄鋼の垂れめっきの種類

8

鉄鋼の垂れめっきの種類

9

鉄鋼の垂れめっきの種類

10

鉄鋼の垂れめっきの種類

11

鉄鋼の垂れめっきの種類

12

鉄鋼の垂れめっきの種類

13

鉄鋼の垂れめっきの種類

14

鉄鋼の垂れめっきの種類

15

鉄鋼の垂れめっきの種類

16

鉄鋼の垂れめっきの種類

17

鉄鋼の垂れめっきの種類

18

鉄鋼の垂れめっきの種類

19

鉄鋼の垂れめっきの種類

20

鉄鋼の垂れめっきの種類

21

鉄鋼の垂れめっきの種類

22

鉄鋼の垂れめっきの種類

23

鉄鋼の垂れめっきの種類

24

鉄鋼の垂れめっきの種類

25

鉄鋼の垂れめっきの種類

26

鉄鋼の垂れめっきの種類

27

鉄鋼の垂れめっきの種類

28

鉄鋼の垂れめっきの種類

29

鉄鋼の垂れめっきの種類

30

鉄鋼の垂れめっきの種類

31

鉄鋼の垂れめっきの種類

32

鉄鋼の垂れめっきの種類

33

鉄鋼の垂れめっきの種類

34

鉄鋼の垂れめっきの種類

35

鉄鋼の垂れめっきの種類

36

鉄鋼の垂れめっきの種類

37

鉄鋼の垂れめっきの種類

38

鉄鋼の垂れめっきの種類

39

鉄鋼の垂れめっきの種類

40

鉄鋼の垂れめっきの種類

41

鉄鋼の垂れめっきの種類

42

鉄鋼の垂れめっきの種類

43

鉄鋼の垂れめっきの種類

44

鉄鋼の垂れめっきの種類

45

鉄鋼の垂れめっきの種類

46

鉄鋼の垂れめっきの種類

47

鉄鋼の垂れめっきの種類

48

鉄鋼の垂れめっきの種類

49

鉄鋼の垂れめっきの種類

50

鉄鋼の垂れめっきの種類

51

鉄鋼の垂れめっきの種類

52

鉄鋼の垂れめっきの種類

53

鉄鋼の垂れめっきの種類

54

鉄鋼の垂れめっきの種類

55

鉄鋼の垂れめっきの種類

56

鉄鋼の垂れめっきの種類

57

鉄鋼の垂れめっきの種類

58

鉄鋼の垂れめっきの種類

59

鉄鋼の垂れめっきの種類

60

鉄鋼の垂れめっきの種類

61

鉄鋼の垂れめっきの種類

62

鉄鋼の垂れめっきの種類

63

鉄鋼の垂れめっきの種類

64

鉄鋼の垂れめっきの種類

65

鉄鋼の垂れめっきの種類

66

鉄鋼の垂れめっきの種類

67

鉄鋼の垂れめっきの種類

68

鉄鋼の垂れめっきの種類

69

鉄鋼の垂れめっきの種類

70

鉄鋼の垂れめっきの種類

71

鉄鋼の垂れめっきの種類

72

鉄鋼の垂れめっきの種類

73

鉄鋼の垂れめっきの種類

74

鉄鋼の垂れめっきの種類

75

鉄鋼の垂れめっきの種類

76

鉄鋼の垂れめっきの種類

77

鉄鋼の垂れめっきの種類

78

鉄鋼の垂れめっきの種類

79

鉄鋼の垂れめっきの種類

80

鉄鋼の垂れめっきの種類

81

鉄鋼の垂れめっきの種類

82

鉄鋼の垂れめっきの種類

83

鉄鋼の垂れめっきの種類

84

鉄鋼の垂れめっきの種類

85

鉄鋼の垂れめっきの種類

86

鉄鋼の垂れめっきの種類

87

鉄鋼の垂れめっきの種類

88

鉄鋼の垂れめっきの種類

89

鉄鋼の垂れめっきの種類

90

鉄鋼の垂れめっきの種類

91

鉄鋼の垂れめっきの種類

92

鉄鋼の垂れめっきの種類

93

鉄鋼の垂れめっきの種類

94

鉄鋼の垂れめっきの種類

95

鉄鋼の垂れめっきの種類

96

鉄鋼の垂れめっきの種類

97

鉄鋼の垂れめっきの種類

98

鉄鋼の垂れめっきの種類

99

鉄鋼の垂れめっきの種類

100

鉄鋼の垂れめっきの種類

1

鉄鋼の垂れめっき

2

鉄鋼の垂れめっきの種類

3

鉄鋼の垂れめっきの種類

4

鉄鋼の垂れめっきの種類

5

鉄鋼の垂れめっきの種類

6

鉄鋼の垂れめっきの種類

7

鉄鋼の垂れめっきの種類

8

鉄鋼の垂れめっきの種類

9

鉄鋼の垂れめっきの種類

10

鉄鋼の垂れめっきの種類

11

鉄鋼の垂れめっきの種類

12

鉄鋼の垂れめっきの種類

13

鉄鋼の垂れめっきの種類

14

鉄鋼の垂れめっきの種類

15

鉄鋼の垂れめっきの種類

16

鉄鋼の垂れめっきの種類

17

鉄鋼の垂れめっきの種類

18

鉄鋼の垂れめっきの種類

19

鉄鋼の垂れめっきの種類

20

鉄鋼の垂れめっきの種類

21

鉄鋼の垂れめっきの種類

22

鉄鋼の垂れめっきの種類

23

鉄鋼の垂れめっきの種類

24

鉄鋼の垂れめっきの種類

25

鉄鋼の垂れめっきの種類

26

鉄鋼の垂れめっきの種類

27

鉄鋼の垂れめっきの種類

28

鉄鋼の垂れめっきの種類

29

鉄鋼の垂れめっきの種類

30

鉄鋼の垂れめっきの種類

31

鉄鋼の垂れめっきの種類

32

鉄鋼の垂れめっきの種類

33

鉄鋼の垂れめっきの種類

34

鉄鋼の垂れめっきの種類

35

鉄鋼の垂れめっきの種類

36

鉄鋼の垂れめっきの種類

37

鉄鋼の垂れめっきの種類

38

鉄鋼の垂れめっきの種類

39

鉄鋼の垂れめっきの種類

40

鉄鋼の垂れめっきの種類

41

鉄鋼の垂れめっきの種類

42

鉄鋼の垂れめっきの種類

43

鉄鋼の垂れめっきの種類

44

鉄鋼の垂れめっきの種類

45

鉄鋼の垂れめっきの種類

46

鉄鋼の垂れめっきの種類

47

鉄鋼の垂れめっきの種類

48

鉄鋼の垂れめっきの種類

49

鉄鋼の垂れめっきの種類

50

鉄鋼の垂れめっきの種類

51

鉄鋼の垂れめっきの種類

52

鉄鋼の垂れめっきの種類

53

鉄鋼の垂れめっきの種類

54

鉄鋼の垂れめっきの種類

55

鉄鋼の垂れめっきの種類

56

鉄鋼の垂れめっきの種類

57

鉄鋼の垂れめっきの種類

58

鉄鋼の垂れめっきの種類

59

鉄鋼の垂れめっきの種類

60

鉄鋼の垂れめっきの種類

61

鉄鋼の垂れめっきの種類

62

鉄鋼の垂れめっきの種類

63

鉄鋼の垂れめっきの種類

64

鉄鋼の垂れめっきの種類

65

鉄鋼の垂れめっきの種類

66

鉄鋼の垂れめっきの種類

67

鉄鋼の垂れめっきの種類

68

鉄鋼の垂れめっきの種類

69

鉄鋼の垂れめっきの種類

70

鉄鋼の垂れめっきの種類

71

鉄鋼の垂れめっきの種類

72

鉄鋼の垂れめっきの種類

73

鉄鋼の垂れめっきの種類

74

鉄鋼の垂れめっきの種類

75

鉄鋼の垂れめっきの種類

76

鉄鋼の垂れめっきの種類

77

鉄鋼の垂れめっきの種類

78

鉄鋼の垂れめっきの種類

79

鉄鋼の垂れめっきの種類

80

鉄鋼の垂れめっきの種類

81

鉄鋼の垂れめっきの種類

82

鉄鋼の垂れめっきの種類

83

鉄鋼の垂れめっきの種類

84

鉄鋼の垂れめっきの種類

85

鉄鋼の垂れめっきの種類

86

鉄鋼の垂れめっきの種類

87

鉄鋼の垂れめっきの種類

88

鉄鋼の垂れめっきの種類

89

鉄鋼の垂れめっきの種類

90

鉄鋼の垂れめっきの種類

91

鉄鋼の垂れめっきの種類

92

鉄鋼の垂れめっきの種類

93

鉄鋼の垂れめっきの種類

94

鉄鋼の垂れめっきの種類

95

鉄鋼の垂れめっきの種類

96

鉄鋼の垂れめっきの種類

97

鉄鋼の垂れめっきの種類

98

鉄鋼の垂れめっきの種類

99

鉄鋼の垂れめっきの種類

100

鉄鋼の垂れめっきの種類

1

鉄鋼の垂れめっき

2

鉄鋼の垂れめっきの種類

3

鉄鋼の垂れめっきの種類

4

鉄鋼の垂れめっきの種類

5

鉄鋼の垂れめっきの種類

6

鉄鋼の垂れめっきの種類

7

鉄鋼の垂れめっきの種類

8

鉄鋼の垂れめっきの種類

9

鉄鋼の垂れめっきの種類

10

鉄鋼の垂れめっきの種類

11

鉄鋼の垂れめっきの種類

12

鉄鋼の垂れめっきの種類

13

鉄鋼の垂れめっきの種類

14

鉄鋼の垂れめっきの種類

15

鉄鋼の垂れめっきの種類

16

鉄鋼の垂れめっきの種類

17

鉄鋼の垂れめっきの種類

18

鉄鋼の垂れめっきの種類

19

鉄鋼の垂れめっきの種類

20

鉄鋼の垂れめっきの種類

21

鉄鋼の垂れめっきの種類

22

鉄鋼の垂れめっきの種類

23

鉄鋼の垂れめっきの種類

24

鉄鋼の垂れめっきの種類

25

鉄鋼の垂れめっきの種類

26

鉄鋼の垂れめっきの種類

27

鉄鋼の垂れめっきの種類

28

鉄鋼の垂れめっきの種類

29

鉄鋼の垂れめっきの種類

30

鉄鋼の垂れめっきの種類

31

鉄鋼の垂れめっきの種類

32

鉄鋼の垂れめっきの種類

33

鉄鋼の垂れめっきの種類

34

鉄鋼の垂れめっきの種類

35

鉄鋼の垂れめっきの種類

36

鉄鋼の垂れめっきの種類

37

鉄鋼の垂れめっきの種類

38

鉄鋼の垂れめっきの種類

39

鉄鋼の垂れめっきの種類

40

鉄鋼の垂れめっきの種類

41

鉄鋼の垂れめっきの種類

42

鉄鋼の垂れめっきの種類

43

鉄鋼の垂れめっきの種類

44

鉄鋼の垂れめっきの種類

45

鉄鋼の垂れめっきの種類

46

鉄鋼の垂れめっきの種類

47

鉄鋼の垂れめっきの種類

48

鉄鋼の垂れめっきの種類

49

鉄鋼の垂れめっきの種類

50

鉄鋼の垂れめっきの種類

51

工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事
-----	----------------

図面名	特記仕様書 (3)
-----	-----------

作成年月日	令和5年3月15日
-------	-----------

比例	S=1:100	圖名	圖號
----	---------	----	----

比例尺	1:200	图例	

会社名	株式会社 若 鈴
-----	----------

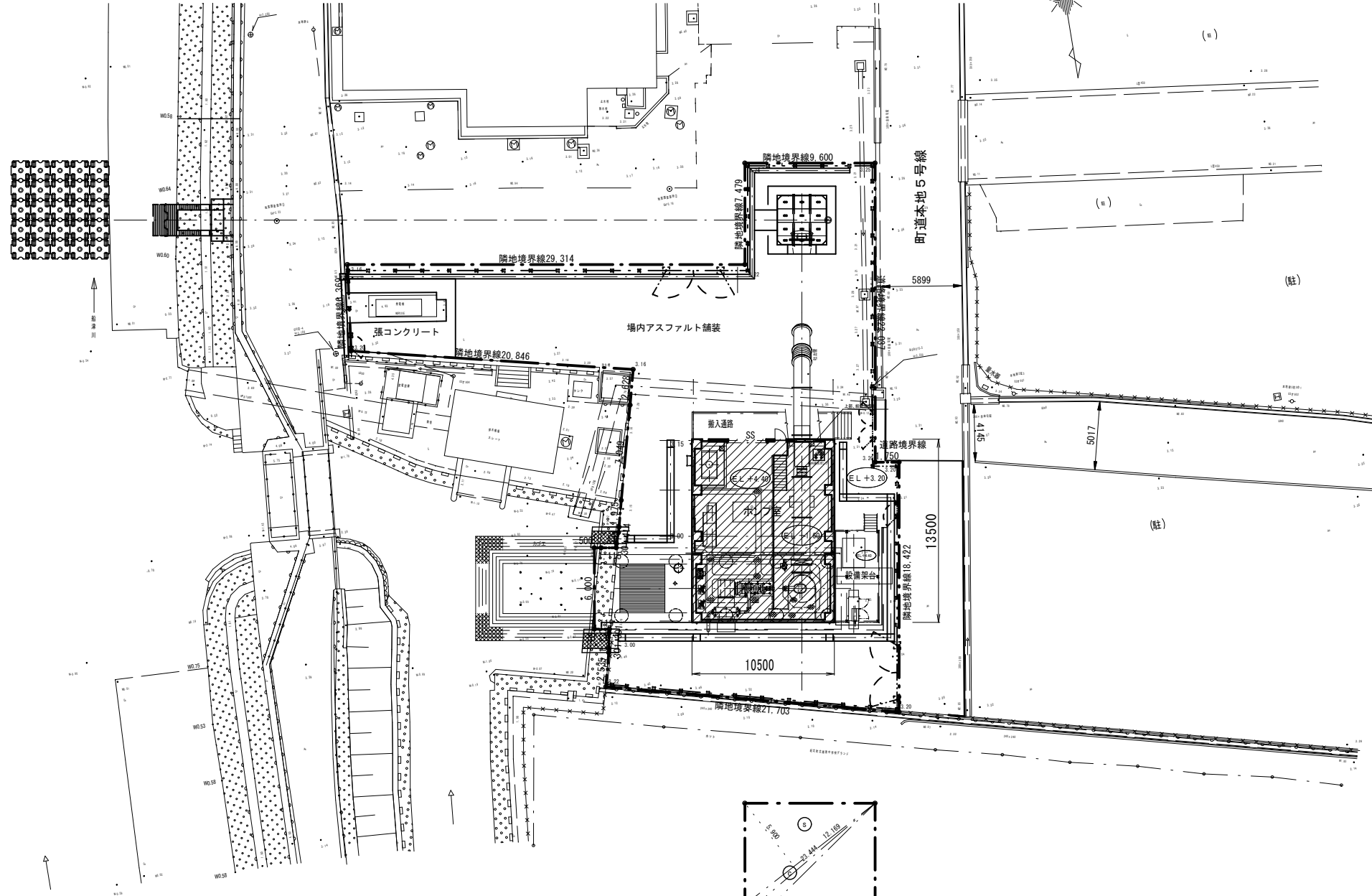
事務所名	紀北町役場
------	-------

建築特記仕様書 (4)										章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項											
章		項		特記事項						章		項		特記事項						章		項		特記事項					
19 内 装 工 事	7	せっこうボード その他ボード 及び合板張り (19.7.2) (表19.7.1～表19.7.5)	※天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。 ・せっこうボード製品																										
			材種・規格		施工箇所		張 り 方		厚さ (mm) 等		材 種		規格等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等								
			・せっこうボード (JIS A6901)		・壁		・下張り ・上張り ・突付け ・直張り ・目通し ・隠目処理		・ 9.5 (準不燃) ※ 12.5 (不燃)		・普通板 (JIS A5430)		・壁 ・天井		・目通し ・突付け ・直張り ・隠目処理		・ 6.0 (不燃) ・ 8.0 (不燃) ・ 10.0 (不燃) ・ 12.0 (不燃)		・ラウン ・シナ		・防虫・難燃 ・防虫・難燃		種 別 ・ 5.5 ・ 12.0 ・ 15.0 ・ 4.0 ・						
			・化粧せっこうボード (トライブーチン模様) (JIS A6901)		・天井		・直張り		※ 9.5 (準不燃) ・ 9.5 (不燃)		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・吸音用穴あきせっこう ボード (JIS A6301)		・天井		・直張り		・ 9.5 (準不燃) ・ 突付け		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・ロックウール化粧吸音板 (JIS A6301)		・天井		・上張り ・直張り		・ 9.0 (不燃) ・ 12.0 (不燃) ・ 15.0 (不燃)		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・繊維強化セメント板								・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・けい酸カルシウム板		・壁		・目通し		・ 6.0 (不燃)		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・普通板 (JIS A5430)		・天井		・目通し (シーリング)		・ 6.0 (不燃) ・ 8.0 (不燃) ・ 10.0 (不燃) ・ 12.0 (不燃)		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
			・化粧ボード (JIS A5430)		・壁		・目通し (シーリング)		・ 6.0 (不燃) ・ 8.0 (不燃) ・ 10.0 (不燃) ・ 12.0 (不燃)		・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り														
・その他ボード								・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り																	
・木毛セメント板 (JIS A5404)								・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り																	
・								・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り																	
・								・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り																	
(19.7.2～3)		・合板						・化粧せっこうボード (プリント) (JIS A6901)		・天井		・直張り																	
		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		・普通合板		ラウン		・防虫・難燃		種 別 ・ 5.5 ・ 12.0 ・ 15.0		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		・天然化粧合板		シナ		・防虫・難燃		種 別 ・ 4.0 ・		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		・								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		・								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		合板のホルムアルデヒド放散量等								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		※F☆☆☆☆、非ホルムアルデヒド系接着剤使用 (普通合板及び天然化粧合板に限る)。非ホルムアル								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		デヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 (天然化粧合板に限る) 並びに非ホルム								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		アルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 (特殊加工化粧合板に限る) とする。								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		・								材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		下地の工法		※図示による						材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
		8 壁紙張り (19.8.2)		建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの						材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
				施工箇所		品質 (製造所)		防火性能の種類		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					
										材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等		材 料		樹種名		処理		耐水性・厚さ (mm) 等					

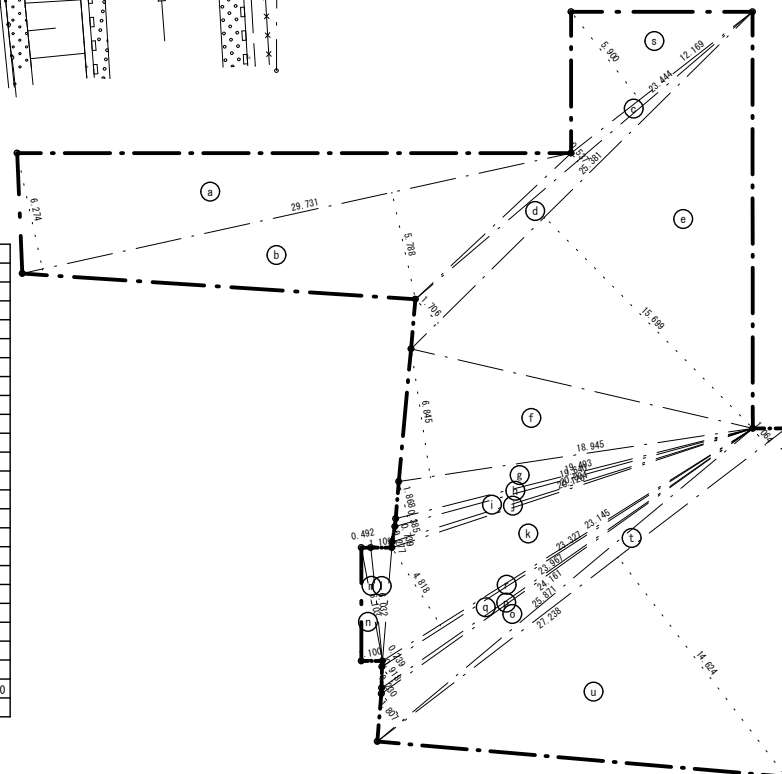
工 事 名	汐ノ 津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	特 記 仕 様 書 (4)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 15 日		
縮 尺	S=1:100 S=1:200	図面番号	A-04
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

配置図

S=1 : 200 (A1)

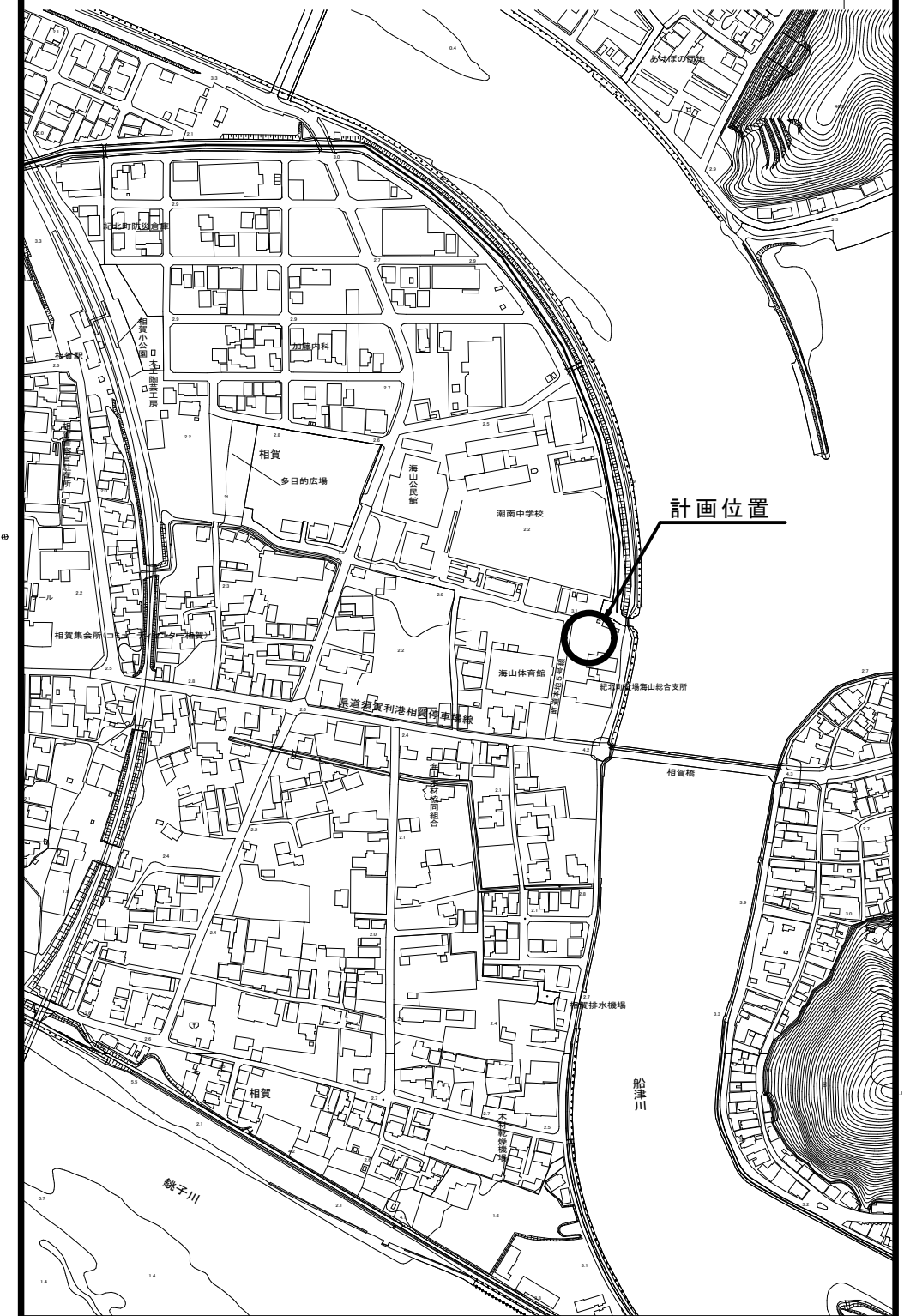


符号	底辺	高さ	倍面積
a	29.731	6.274	186.532294
b	29.731	5.788	172.083028
c	23.444	0.537	12.589428
d	25.381	1.706	43.299866
e	25.381	15.699	398.456319
f	18.945	6.845	129.678525
g	19.493	1.868	36.412924
h	19.640	0.385	7.561400
i	20.004	0.739	14.782956
j	20.120	0.277	5.573240
k	23.145	4.818	111.512610
l	6.032	1.109	6.689488
m	6.103	0.492	3.002676
n	6.103	1.100	6.713300
o	25.871	1.807	46.748897
p	24.161	0.230	5.557030
q	23.967	0.918	22.001706
r	23.327	0.239	5.575153
s	12.189	5.900	71.797100
t	27.238	1.064	28.981232
u	27.238	14.624	398.328512
		合計	1713.877804
		1/2	856.9389020
		面積	856.94



付 近 見 取 図

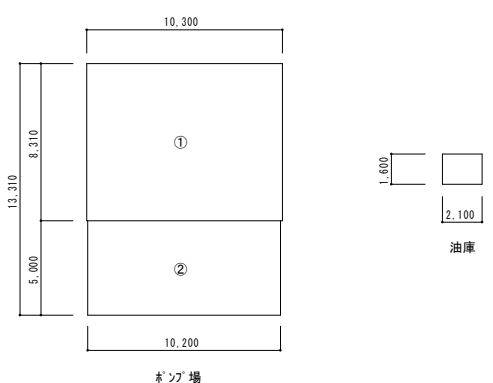
S=1 : 2500 (A1)



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	付 近 見 取 図 ・ 配 置 図		
作成年月日	令和 5 年 3 月 15 日		
縮 尺	S=1:2500 S=1:200	図面番号	A-05
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 耕太

○ 建物概要		○ 外部仕上表		○ 内部仕上表	
建設場所	北牟婁郡紀北町相賀 地内	屋根	アスファルト露出防水D-1 (コンクリート金ツ下地)	床	コンクリート金ツ仕上げ (シタ-コンクリート金ツ下地) 防油堤内：鉄金ツ仕上げ
用途地域等	都市計画区域外	外壁	コンクリート打放し補修の上複層塗材E吹付	巾木	鉄金ツ巾木H=200
敷地面積	856.94 m ²	巾木	コンクリート打放し補修	壁	コンクリート打放し補修
主要用途	排水ポンプ場	搬入通路	床：ウレタン系塗膜防水X-2 (鉄金ツ下地) ノンスリップタイル ステンレス製手摺H=1150	天井	コンクリート打放し補修
構造	鉄筋コンクリート造 平屋建て	樋	給-VP管φ100 掘み金物：SUS#900以内 ステンレス製コーナーレシ	備考	ステンレス手摺H=1100 スチ-ル製ピ-ト蓋
建築面積	136.59 m ²	EXP・J	ステンレス クリアス200	EXP・J	壁・天井：ステンレス クリアス200 床：ステンレス クリアス100 EL+1.6部 床・壁：ビ-ーシ-ジョイントBE0型 クリアス100
床面積	136.59 m ²	タタツ	ステンレス		

○ 求積図 (1/200)		○ 求積計算		○ 無窓階の算定	
		床面積	建築面積	床面積	136.59 m ²
		給-ツツ場 ① 10.300 × 8.310 = 85.59	給-ツツ場 ① 10.300 × 8.310 = 85.59	必要開口面積	136.59 m ² × 1/30 = 4.55 m ²
		② 10.200 × 5.000 = 51.00	② 10.200 × 5.000 = 51.00	有効開口面積	AD-1 0.800 × 2.000 = 1.60 m ²
		計 136.59 m ²	計 136.59 m ²		AW-1 1.650 × 1.500 × 1/2 = 1.24 m ²
		油庫 2.100 × 1.600 = 3.36 m ²	油庫 2.100 × 1.600 = 3.36 m ²		
		全体 139.95 m ²	全体 139.95 m ²	合計	
				判定	2.84 < 4.55 ∴ 無窓階

平面図 1/100

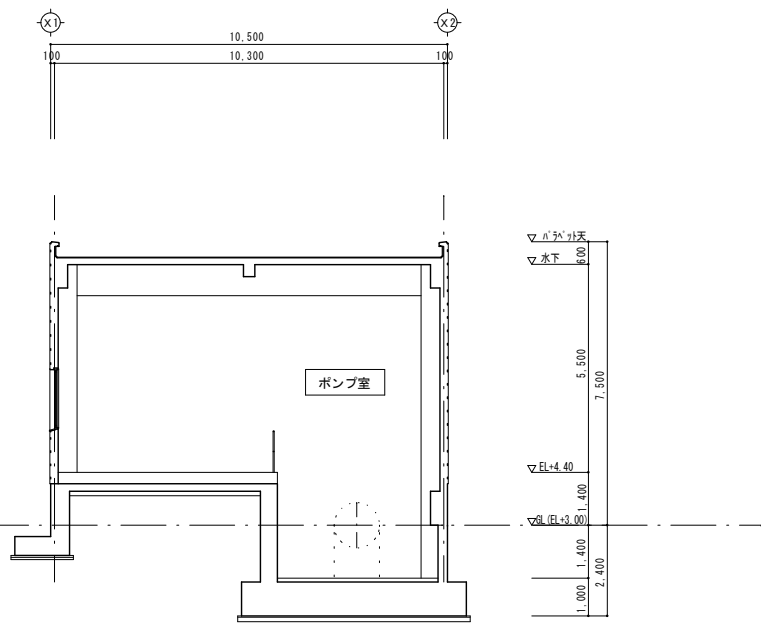
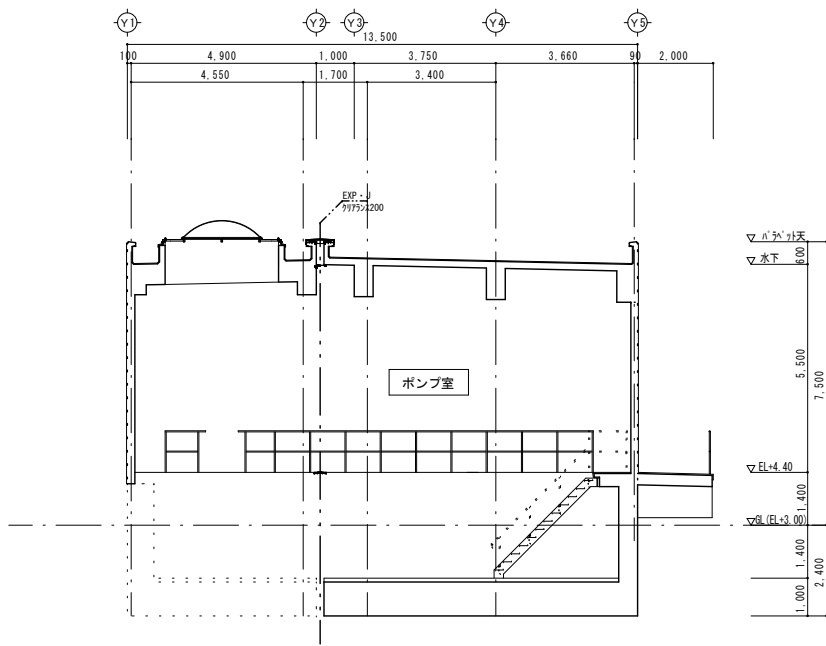
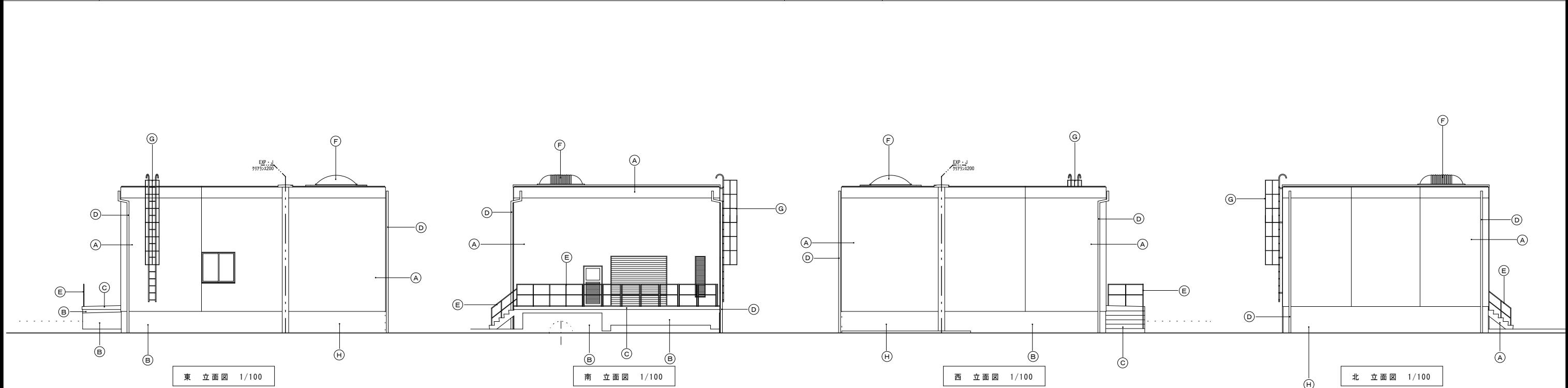
屋根伏図 1/100

※ 設計GL=EL+3.00
⊕ 消火器ABC10型を示す
(給-ツツ：エニオUFB-3F-420)

一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太

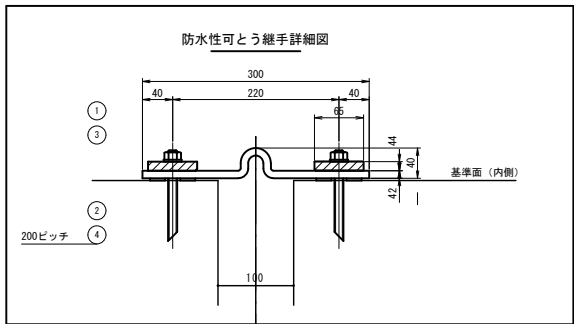
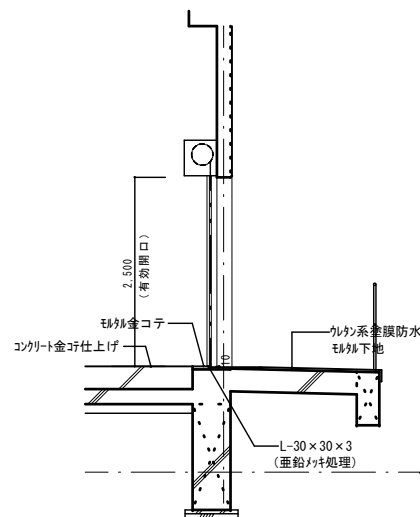
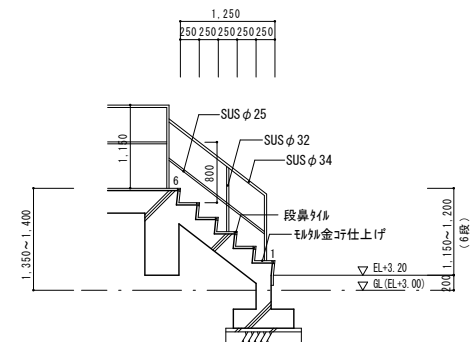
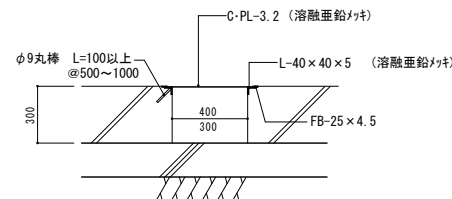
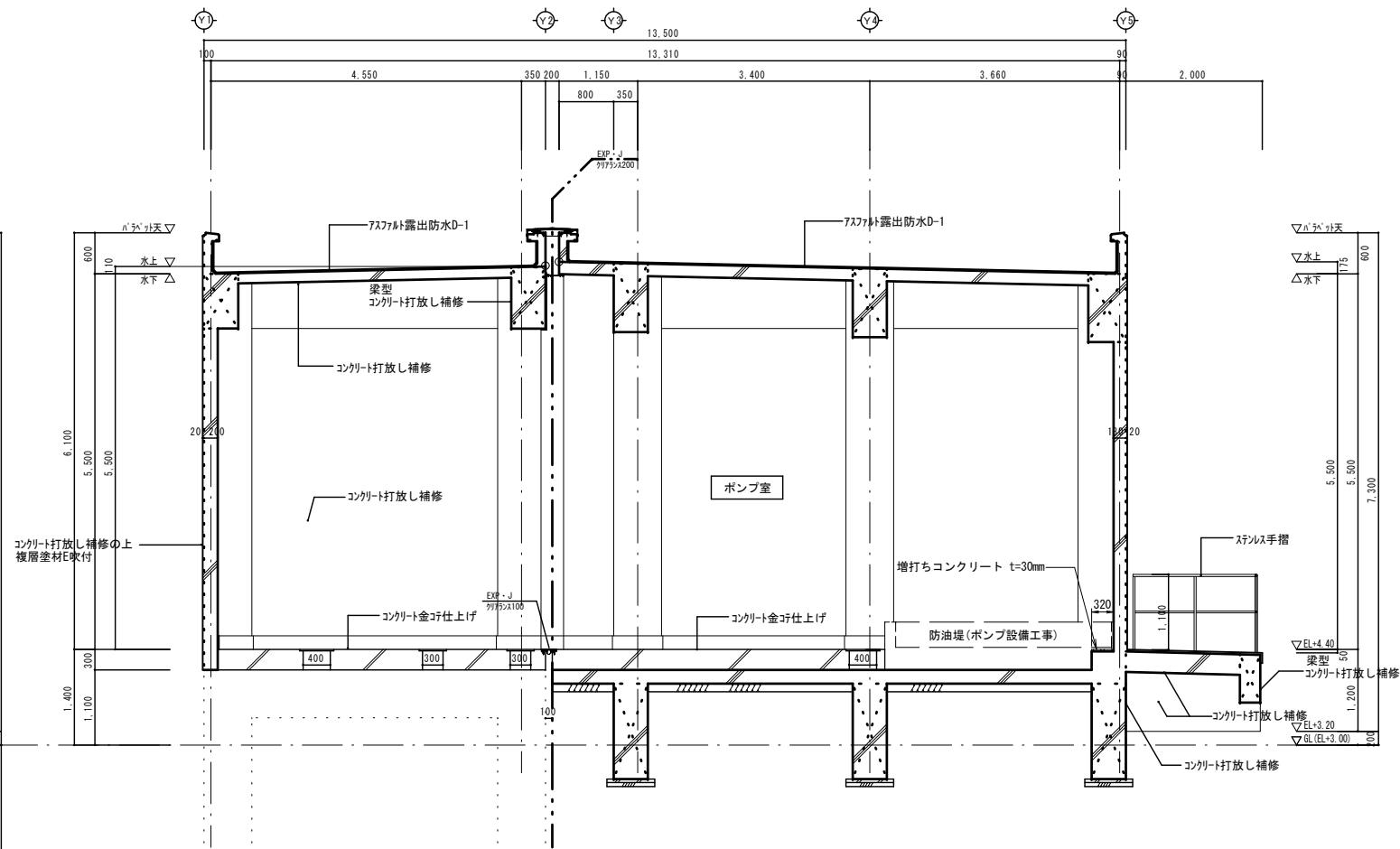
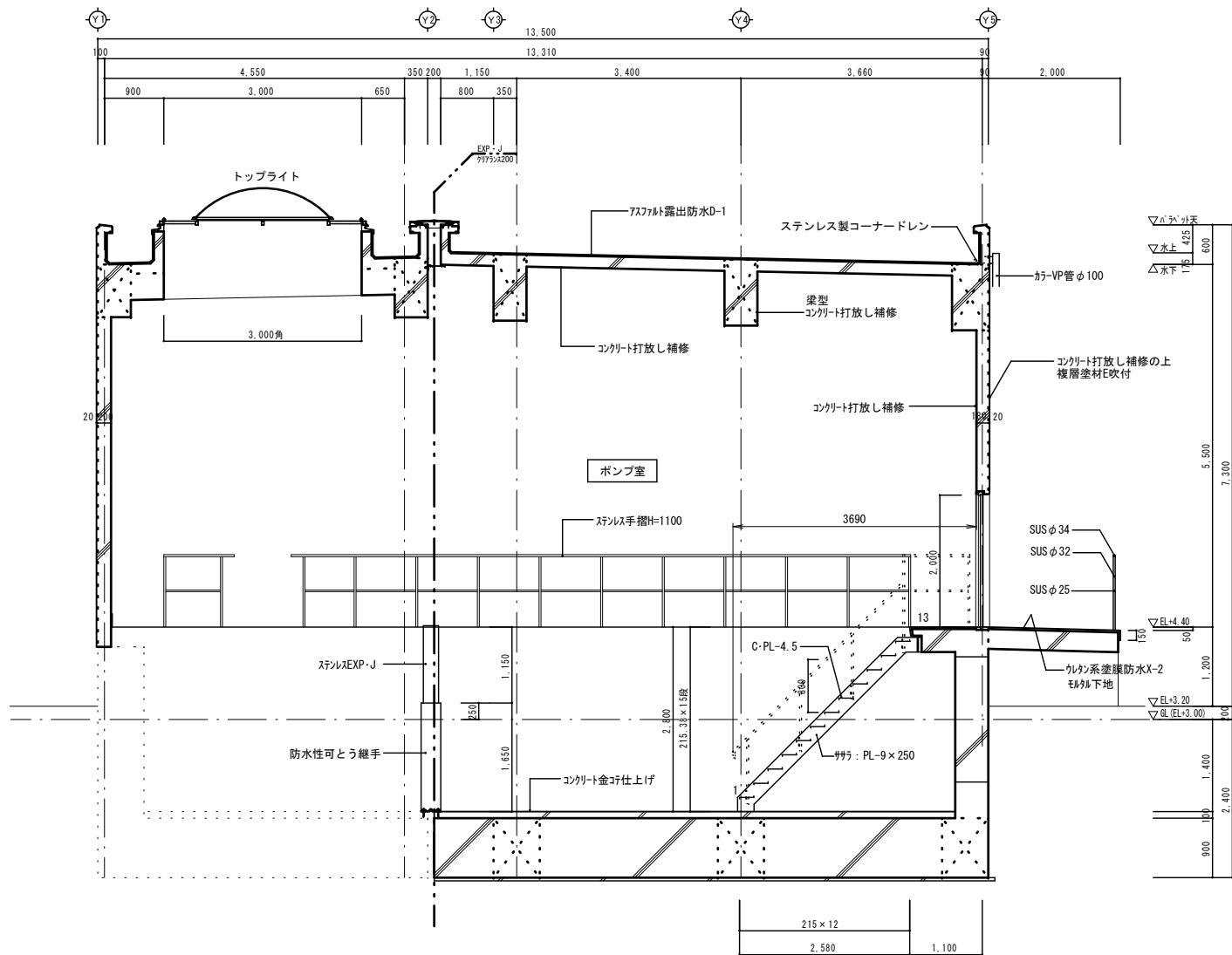
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場概要・仕上表 求積図・平面図・屋根伏図		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	S=1:100 S=1:200	図面番号	A-06
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

外部仕上表			
Ⓐ	コンクリート打放し補修の上複層塗材E吹付	Ⓔ	ステンレスすりＨ＝1150（階段：Ｈ＝800）
Ⓑ	コンクリート打放し補修	Ⓕ	トップライト
Ⓒ	床：ウレタン系塗膜防水X-2（EPバル金下地）	Ⓖ	ステンレスラップ
Ⓓ	おろしVP管φ100 掘り金物：SUSφ900以内	Ⓗ	土木工事



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排 水 機 場 立 面 図 ・ 断 面 図		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-07
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太

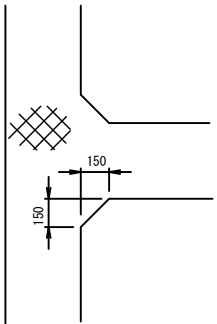


EL+1600レベルEXP・J詳細図 1/5

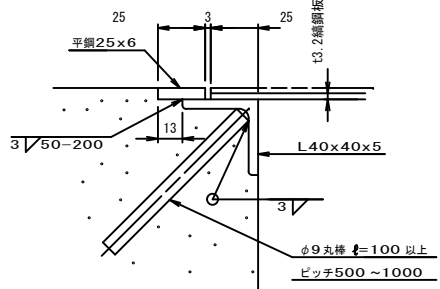
品番	品名	材質	備考
1	伸縮部材	C R	RE30型
2	止水材	ポリゴム	t3×20
3	押え板	SUS304	t12×65
4	ケミカルアンカー	〃	M12×120 (N.W.付)

使用条件	
外水圧 (W.P.)	0.05MPa以下 (0.5kgf/cm2以下)
内水圧 (W.P.)	0.05MPa以下 (0.5kgf/cm2以下)
沈下量 (偏心量)	30 mm
伸び量	20 mm

※上記の使用条件を維持する為に
コンクリート面の仕上を十分に
行う。



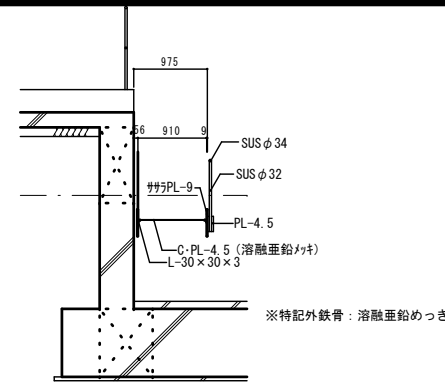
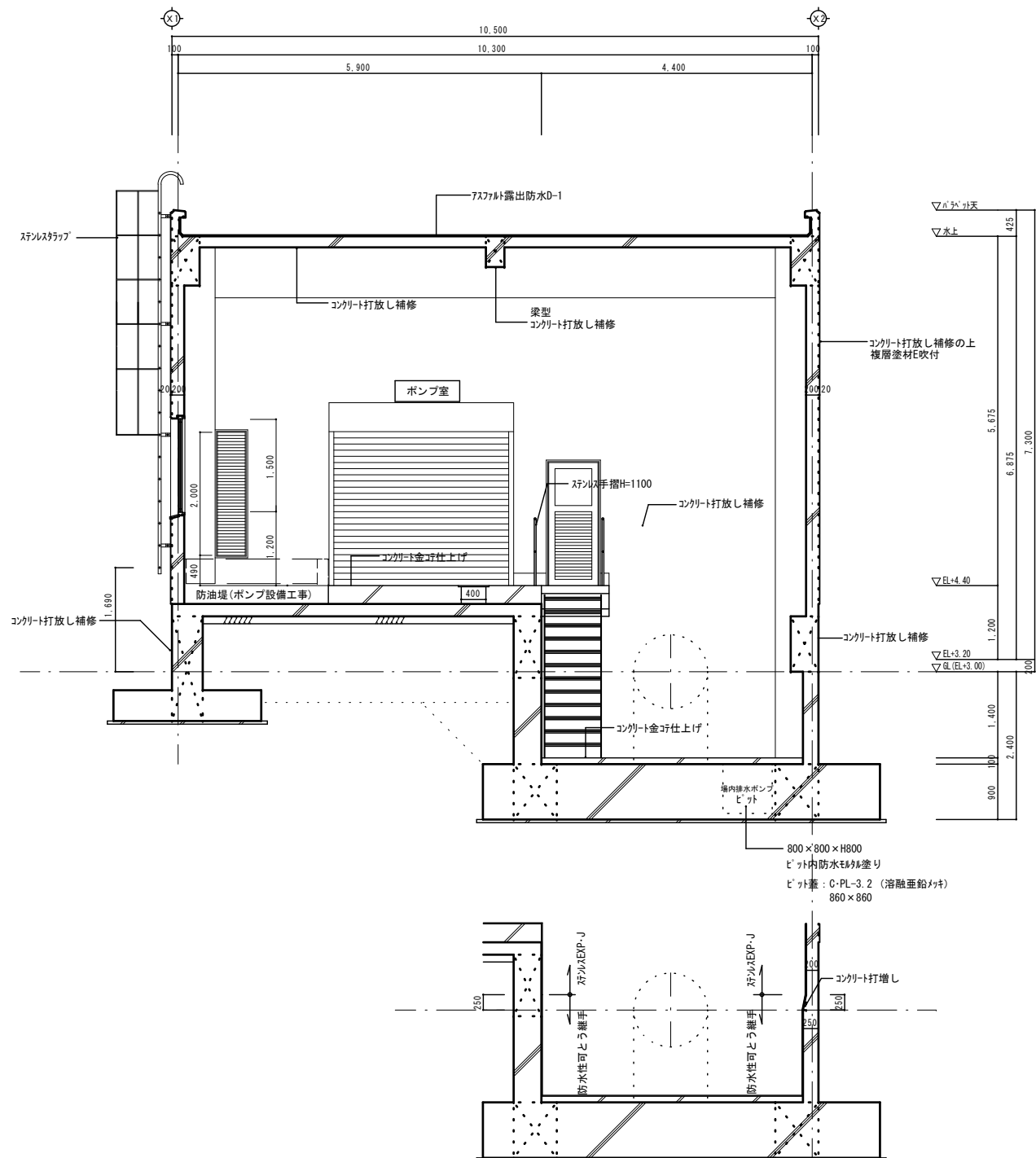
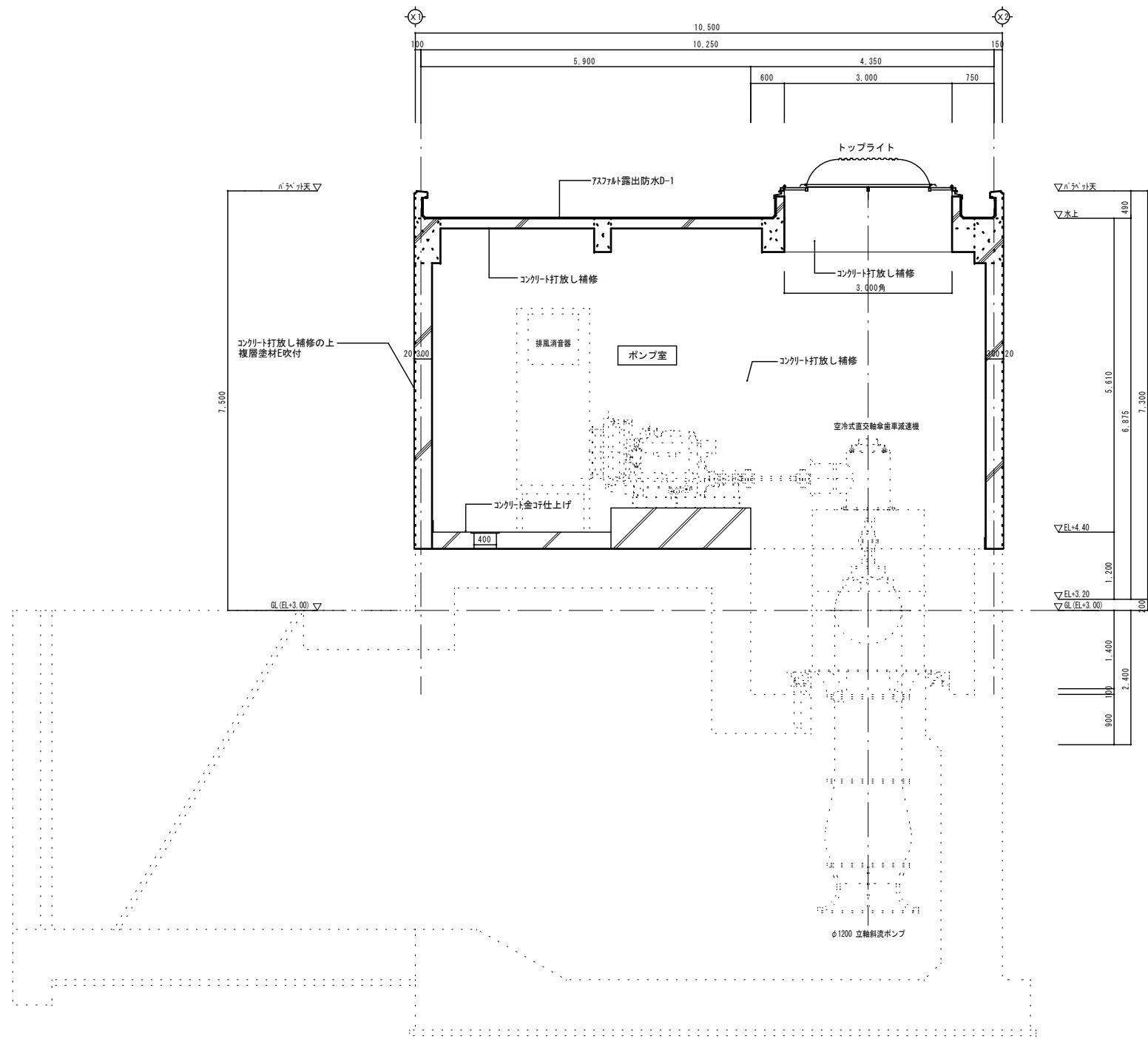
電気配管ビット詳細図 1/20



ビットフチ金具詳細図 1/2

工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水機場断面詳細図 (1)		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮尺	S=1:50	図面番号	A-08
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

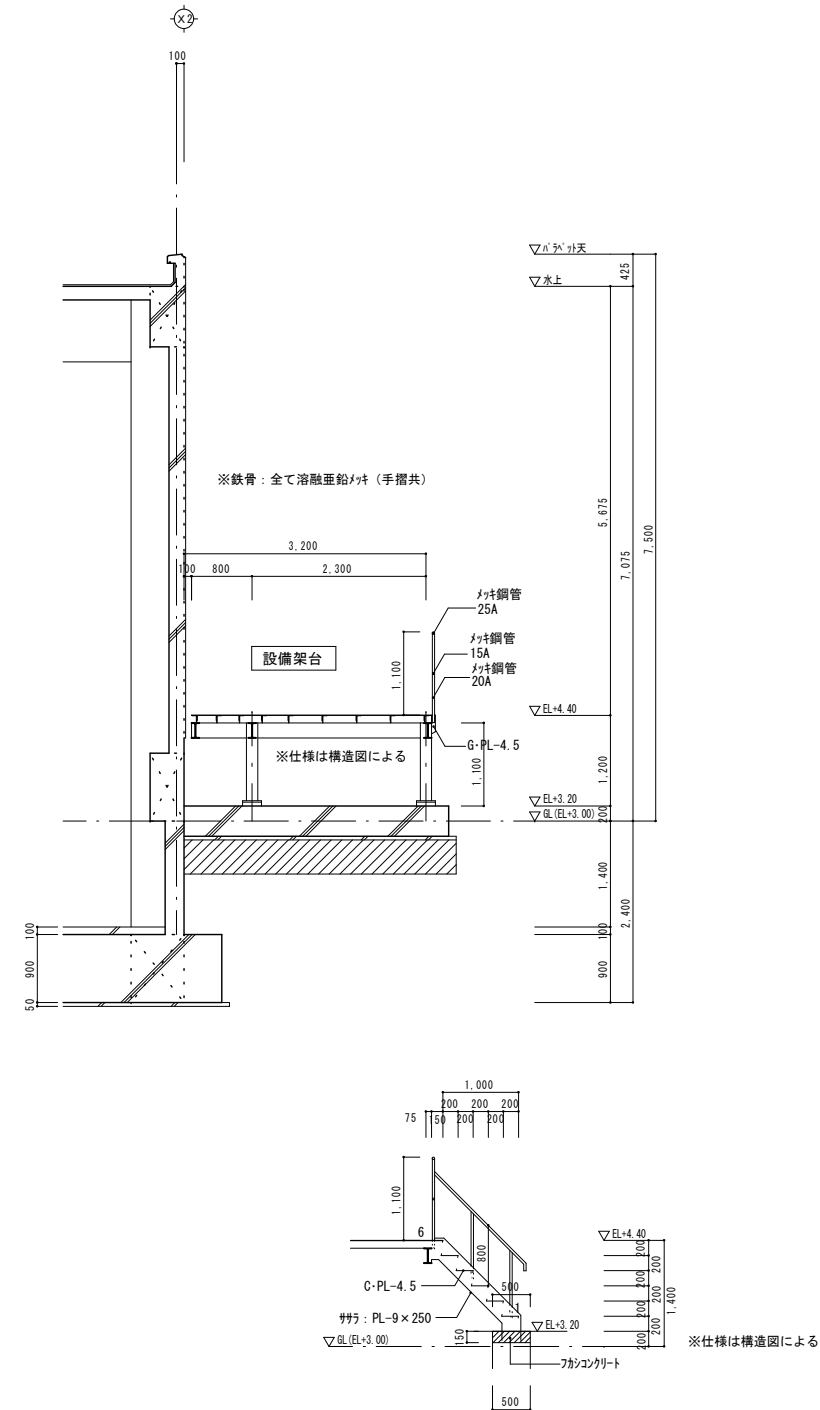
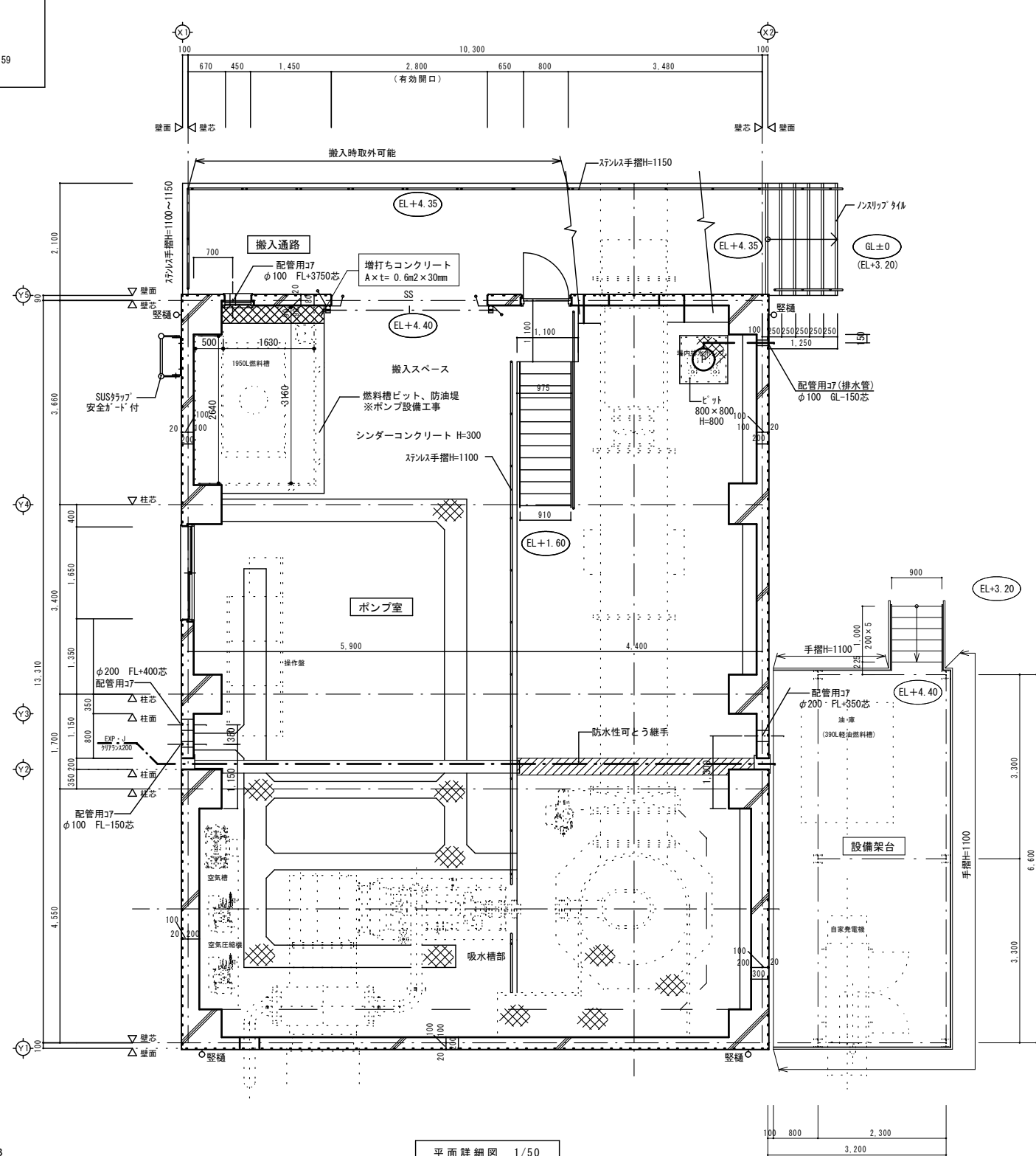
一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太



工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水機場断面詳細図(2)		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮尺	S=1:50	図面番号	A-09
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀北町役場		

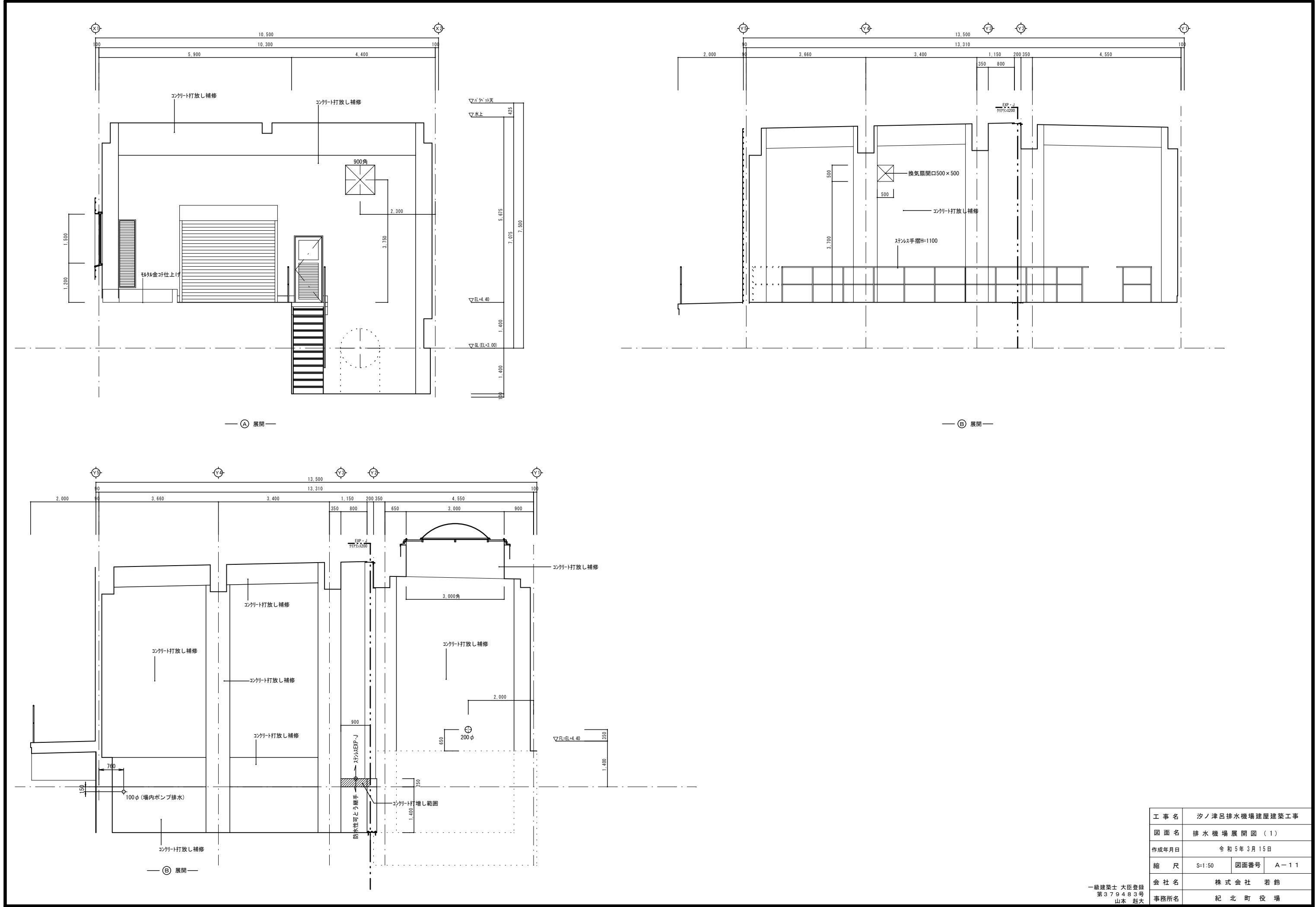
一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太

○防油堤の容量計算
3.16×1.63=5.15
2.64×0.50=1.32
計 6.47
※ 6.47×0.40=2.59



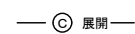
工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水機場平面詳細図 断面詳細図		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮尺	S=1:50	図面番号	A-10
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀北町役場		

一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太

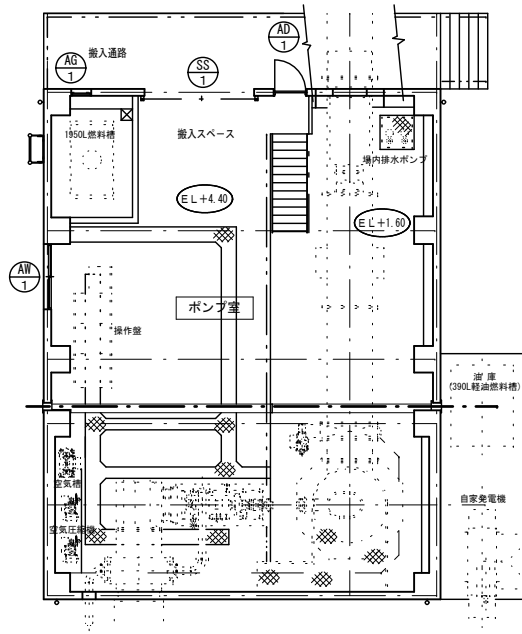


工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水機場展開図(1)		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮尺	S=1:50	図面番号	A-11
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀北町役場		

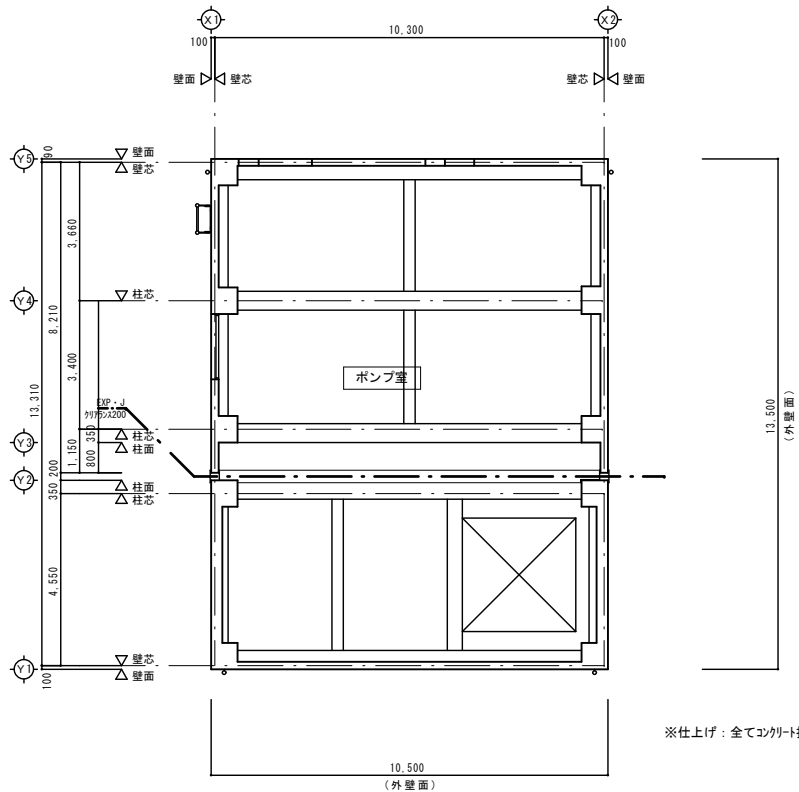
一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水 機 場 展 開 図 (2)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 15 日		
縮 尺	S=1:50	図面番号	A-12
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		



建具指示図



天井伏図

符号	名称	SS-1	管理用スチールシャッター（手動式）	見込：	AW-1	引違い窓	見込：70	AG-1	7&固定ガラス	見込：70	AD-1	7&片開きフッパドア	見込：70
姿図													
位置	数量	ポンプ室			1	ポンプ室			1	ポンプ室			1
硝子						網入り型ガラス=6.8				網入り型ガラス=6.8			
塗装・仕上げ		ST-1.6 SOP塗装				7&ガラス				7&ガラス			
金物		SUSアイドレール、SUS座板、標準金物一式				クレセント、7&水切り、7&額縁				レバーハンドル、丁番、シリンダー錠、7&額縁			
備考						SUS網戸				7&ガラス (SUS防虫網)、SUSフット番留			
符号	名称												
姿図													
位置	数量												
硝子													
塗装・仕上げ													
金物													
備考													

工 事 名

汐ノ津呂排水機場建屋建築工事

図 面 名

排水機場概要 建具指示図
天井伏図・建具表

作成年月日

令和5年3月15日

縮 尺

S=1:100
S=1:200

図面番号

A-13

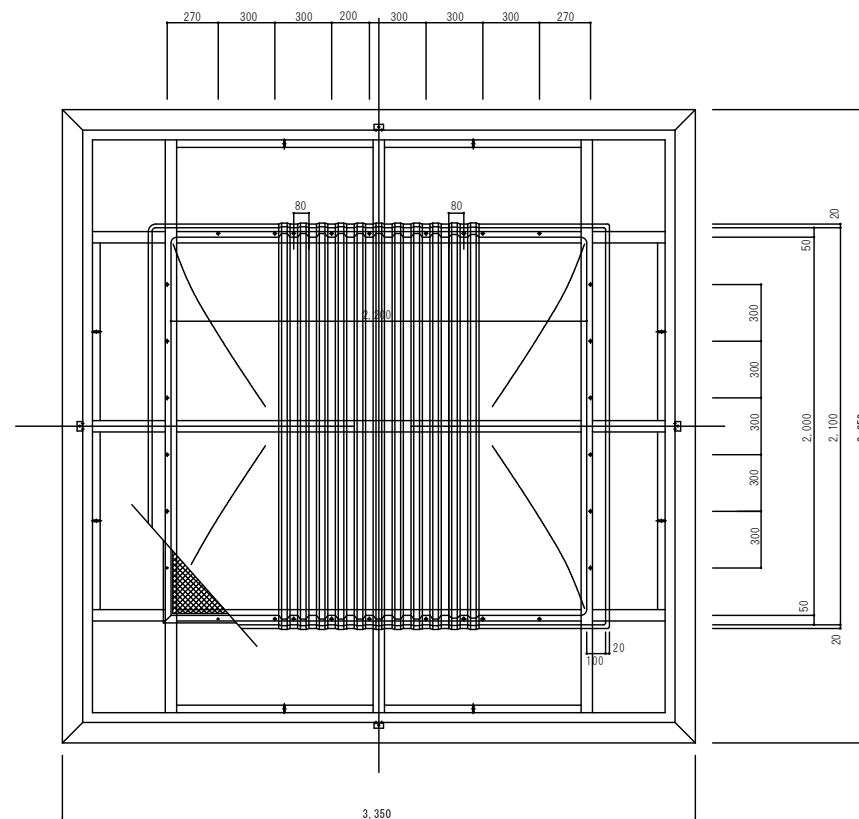
会 社 名

株式会社 若 鈴

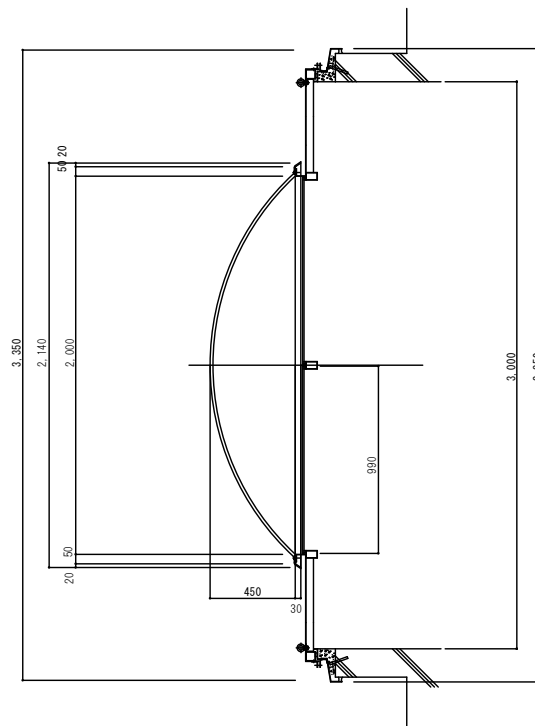
事務所名

紀 北 町 役 場

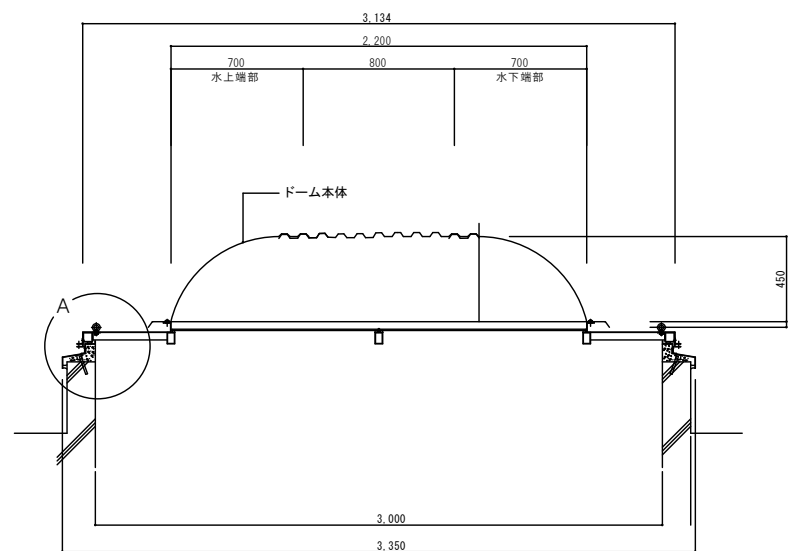
一級建築士 大臣登録
第379483号
山本 超太



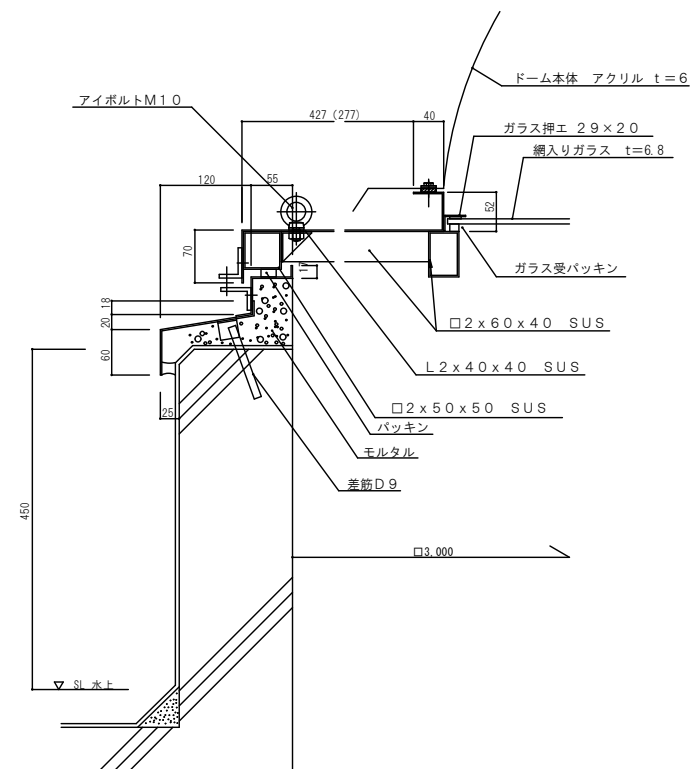
ドーム伏図 1/20



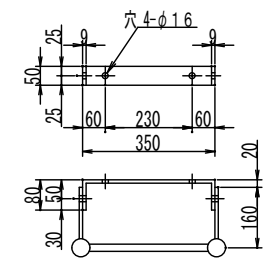
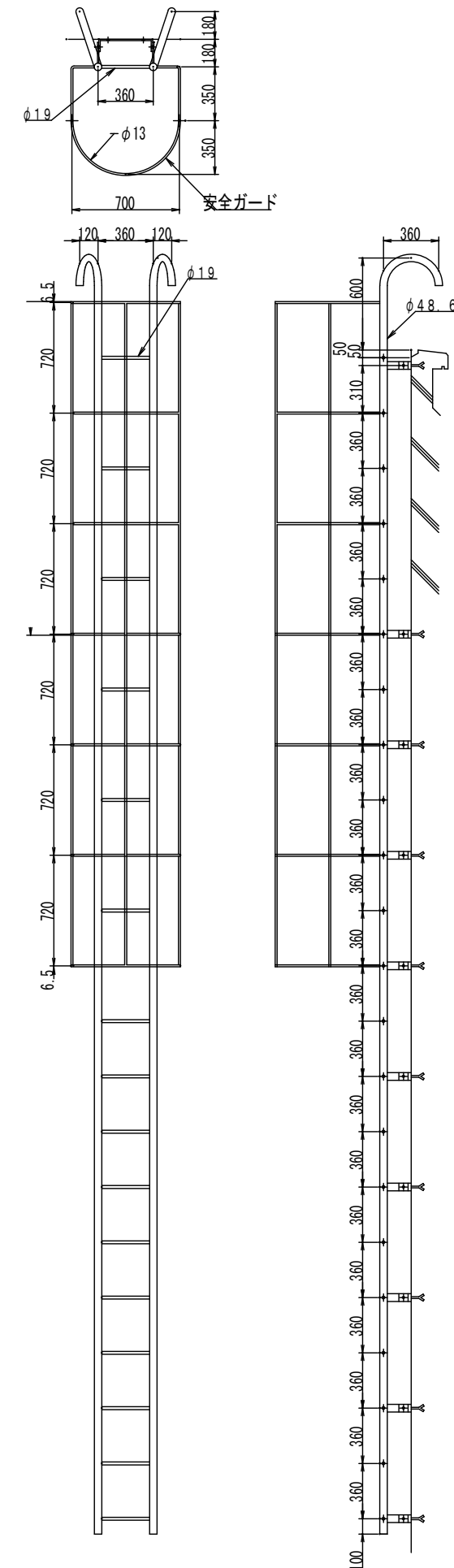
断面图 1/20



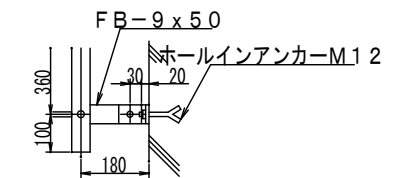
断面图 1/20



A 部 詳 細 図 1 / 5



後付け用金具 (1 : 20)

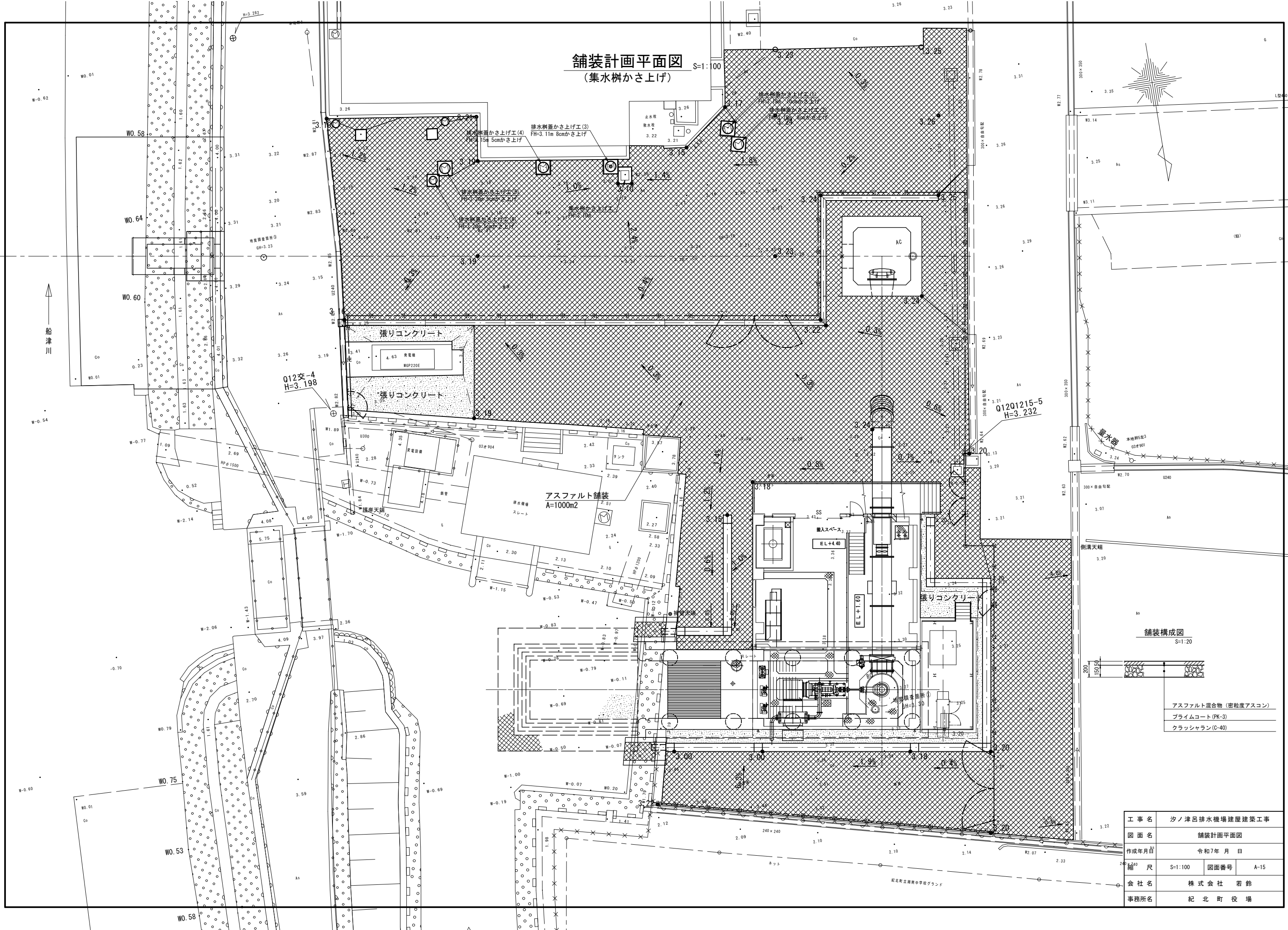


アンカー詳細部 (1 : 20)

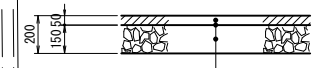
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水 機場 雑詳細図		
作成年月日	令和 5 年 3 月 15 日		
縮 尺	S=1:20	図面番号	A-14
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

舗装計画平面図
(集水桝かさ上げ)

S=1:100

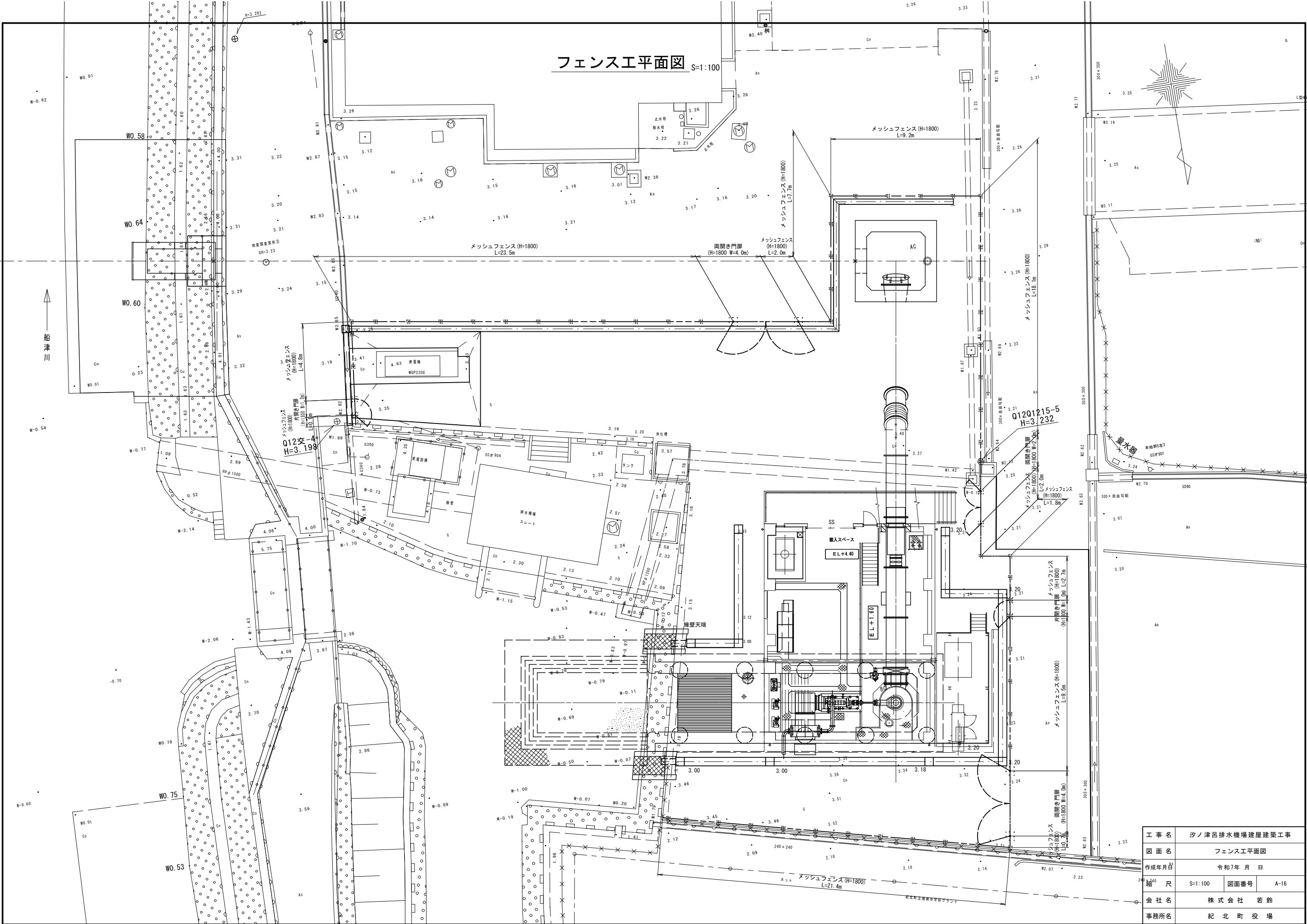


舗装構成図
S=1:20



- アスファルト混合物 (密粒度アスコン)
- プライムコート (PK-3)
- クラッシャーラン (C-40)

工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	舗装計画平面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮尺	S=1:100	図面番号	A-15
会社名	株式会社 若 飾		
事務所名	紀 北 町 役 場		



工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	フェンス工平面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮尺	S=1:100	図面番号	A-16
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

排水施設計画平面図

S=1:100

D-1

A1= -

A2=0.011

Σ A=0.011

D-2

A1= -

A2=0.030

Σ A=0.030

A=297.374m²

D-3

A1=0.006

A2=0.010

Σ A=0.016

D-4

A1=0.013

A2=0.020

Σ A=0.033

凡 例

色塗り	D-4	流域(路線)番号
	A1=0.013	屋根面積
	A2=0.020	舗装面積
	Σ A=0.033	流域面積合計

工 事 名 汐ノ津呂排水機場建屋建築工事

図 面 名 排水施設計画平面図

作成年月日 令和7年 月 日

縮 尺 S=1:100 図面番号 A-17

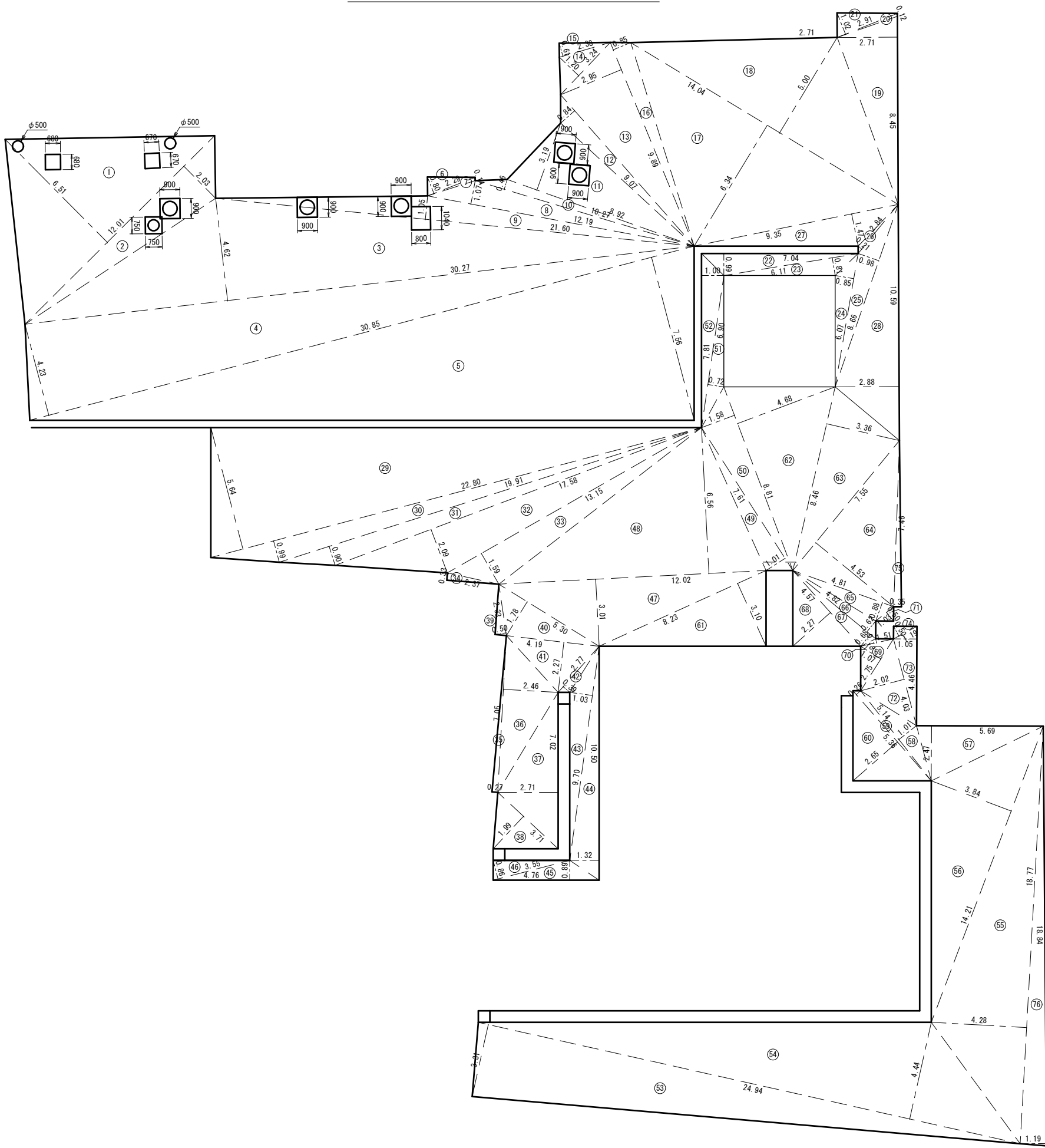
会 社 名 株 式 会 社 若 錦

事務所名 紀 北 町 役 場

アスファルト舗装面積求積図 S=1:100

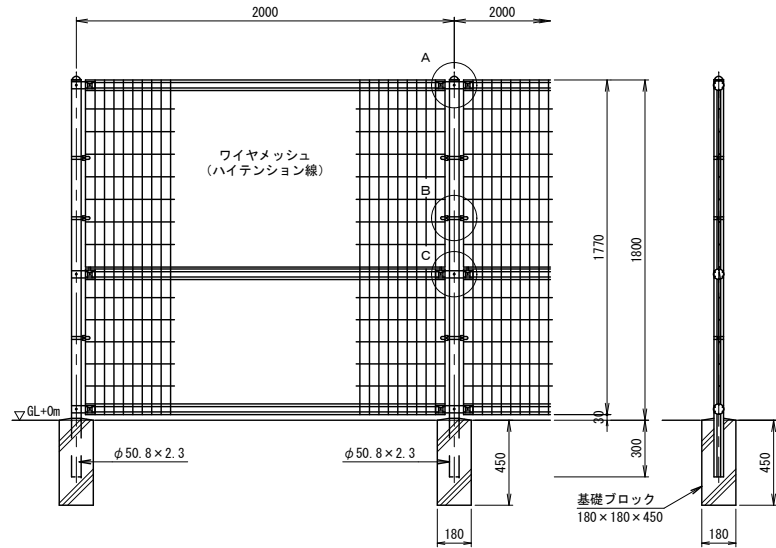
符号	底辺	高さ	倍面積
①	12.01	6.51	78.1851
②	12.01	2.03	24.3803
③	30.27	4.62	139.8474
④	30.85	4.23	130.4955
⑤	30.85	7.56	233.2260
⑥	2.29	0.80	1.8320
⑦	2.29	0.14	0.3206
⑧	12.19	1.07	13.0433
⑨	21.60	1.05	22.6800
⑩	10.27	0.46	4.7242
⑪	8.92	3.19	28.4548
⑫	9.07	0.84	7.6188
⑬	9.89	2.95	29.1755
⑭	3.24	1.20	3.8880
⑮	2.38	0.61	1.4518
⑯	9.89	0.85	8.4065
⑰	14.04	6.34	89.0136
⑱	14.04	5.00	70.2000
⑲	8.45	2.71	22.8995
⑳	2.91	0.12	0.3492
㉑	2.91	1.02	2.9682
㉒	7.04	0.99	6.9696
㉓	6.11	0.81	4.9491
㉔	6.07	0.85	5.1595
㉕	8.66	0.98	8.4868
㉖	2.84	0.21	0.5964
㉗	9.35	1.47	13.7445
㉘	10.59	2.88	30.4992
合計			983.5654
1 / 2			491.7827
面積			491.78

符号	底辺	高さ	倍面積
㉙	22.80	5.64	128.5920
㉚	22.80	0.99	22.5720
㉛	19.91	0.90	17.9190
㉜	17.58	2.09	36.7422
㉝	13.15	1.59	20.9085
㉞	2.37	0.33	0.7821
㉟	7.05	0.27	1.9035
㊱	7.05	2.46	17.3430
㊲	7.02	2.71	19.0242
㊳	3.71	1.99	7.3829
㊴	2.33	0.50	1.1650
㊵	5.30	1.78	9.4340
㊶	4.19	2.27	9.5113
㊷	2.77	0.39	1.0803
㊸	9.70	1.03	9.9910
㊹	10.50	1.32	13.8600
㊺	4.76	0.89	4.2364
㊻	3.55	0.86	3.0530
㊼	12.02	3.01	36.1802
㊽	12.02	6.56	78.8512
㊾	7.61	1.01	7.6861
㊿	8.81	1.58	13.9198
1	6.90	0.72	4.9680
2	7.81	1.00	7.8100
3	24.94	3.31	82.5514
4	24.94	4.44	110.7336
5	18.77	4.28	80.3356
6	14.21	3.84	54.5664
7	5.69	2.47	14.0543
8	5.14	1.01	5.1914
9	5.36	0.26	1.3936
10	5.36	2.65	14.2040
11	8.23	3.10	25.5130
12	8.81	4.68	41.2308
13	8.46	3.36	28.4256
14	7.55	4.53	34.2015
15	4.81	0.88	4.2328
16	4.82	0.62	2.9884
17	4.82	0.68	3.2776
18	4.57	2.27	10.3739
19	2.75	1.07	2.9425
20	1.51	0.18	0.2718
21	1.03	0.50	0.5150
22	4.03	2.02	8.1406
23	4.46	1.05	4.6830
24	1.19	0.50	0.5950
25	7.46	0.35	2.6110
26	18.84	1.19	22.4196
合計			1030.3681
1 / 2			515.1841
面積			515.18

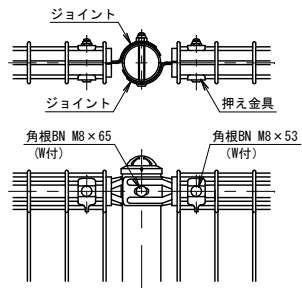


工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	アスファルト舗装面積求積図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-18
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

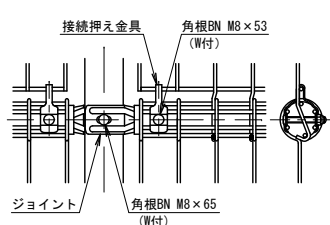
UN-A1800S-50 S=1:20
(昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 GL+0m に依る)



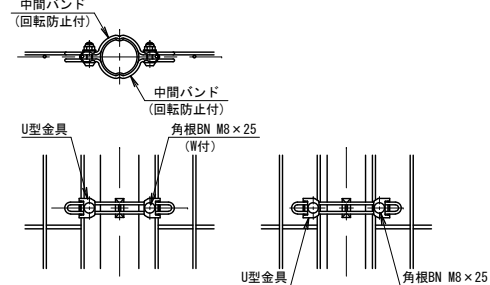
A部取付図 S=1:5



C部取付図 S=1:5



B部取付図 S=1:5

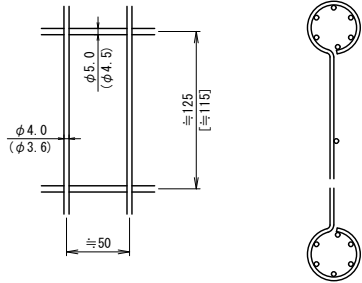


標準的な取付図

パネルと柱のすきまがせまい場合の取付図

ワイヤメッシュ図

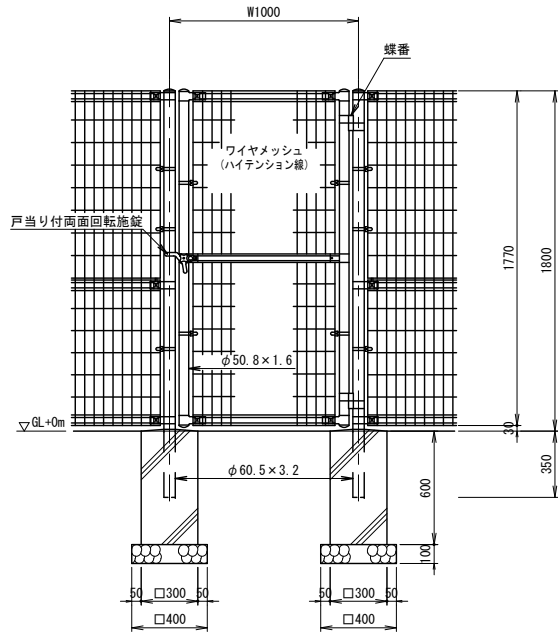
() 内は芯径を示す。
[] 内は下部パネルを示す。



パネル断面図

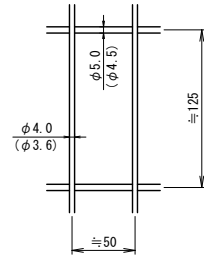


UN片開き門扉
H1800-50 x W1000 S=1:20
(昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 GL+0m に依る)

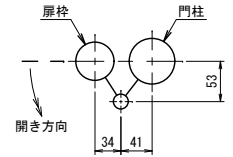


ワイヤメッシュ図

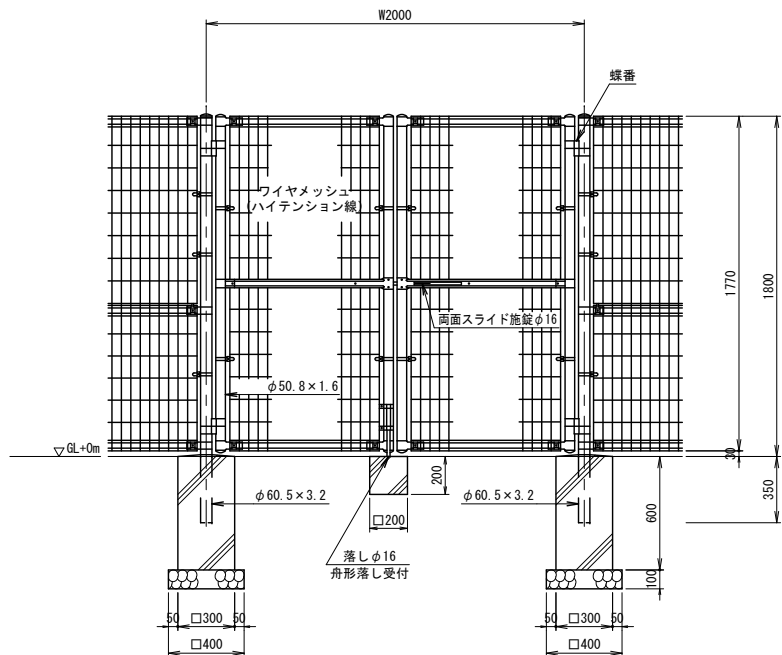
() 内は芯径を示す。



門柱・扉枠位置関係図

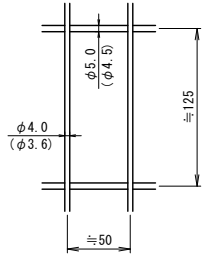


UN両開き門扉
H1800-50 x W2000 S=1:20
(昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 GL+0m に依る)

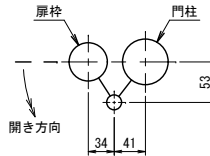


ワイヤメッシュ図

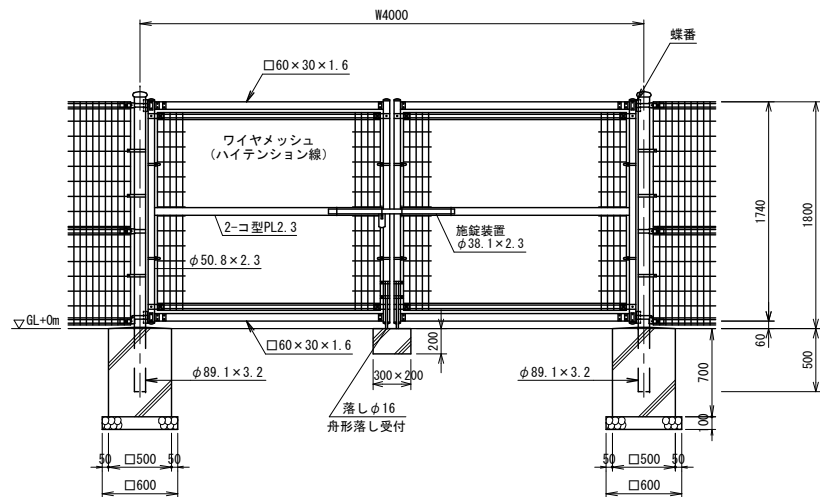
() 内は芯径を示す。



門柱・扉枠位置関係図

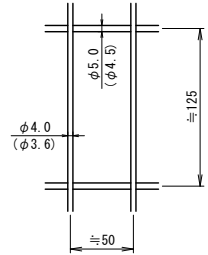


UN両開き門扉
H1800-50 x W4000 S=1:30
(昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 GL+0m に依る)

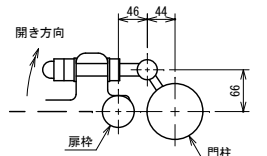


ワイヤメッシュ図

() 内は芯径を示す。



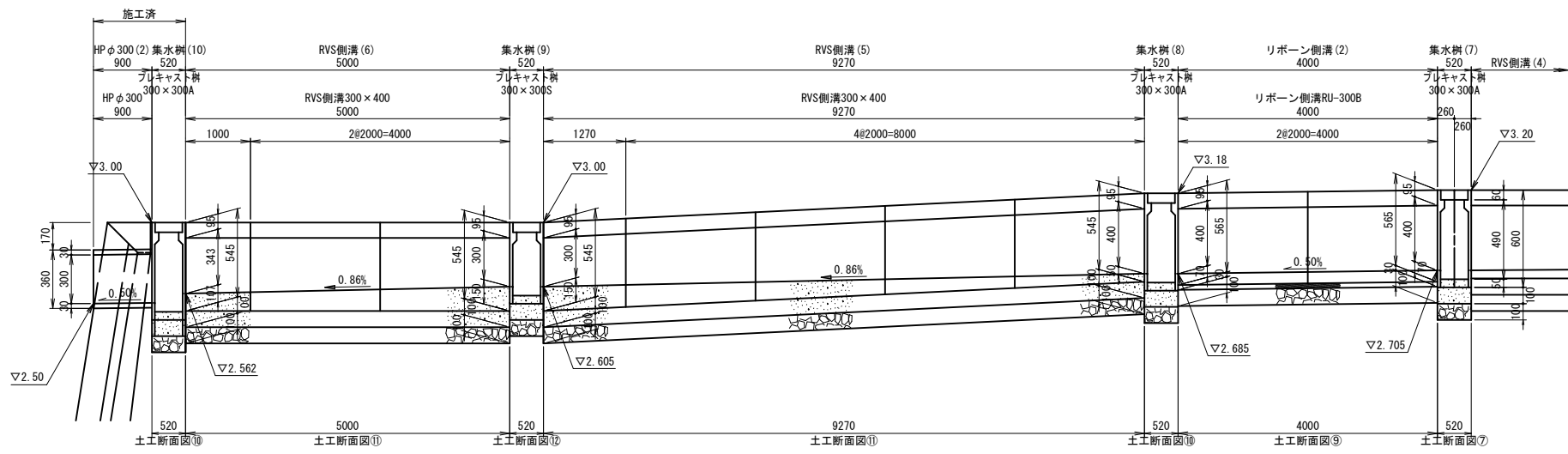
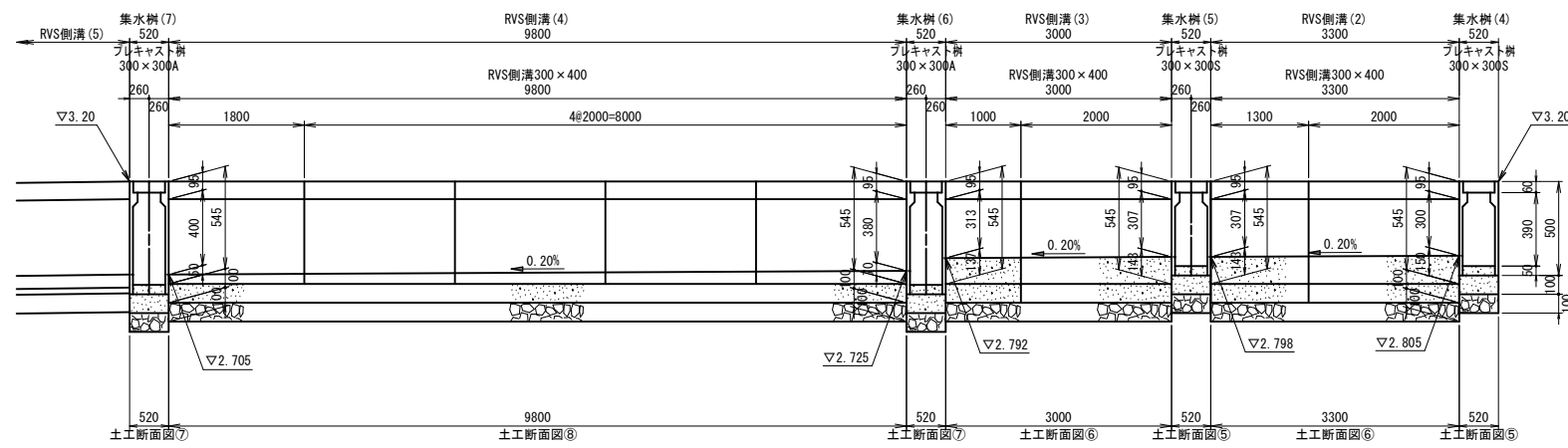
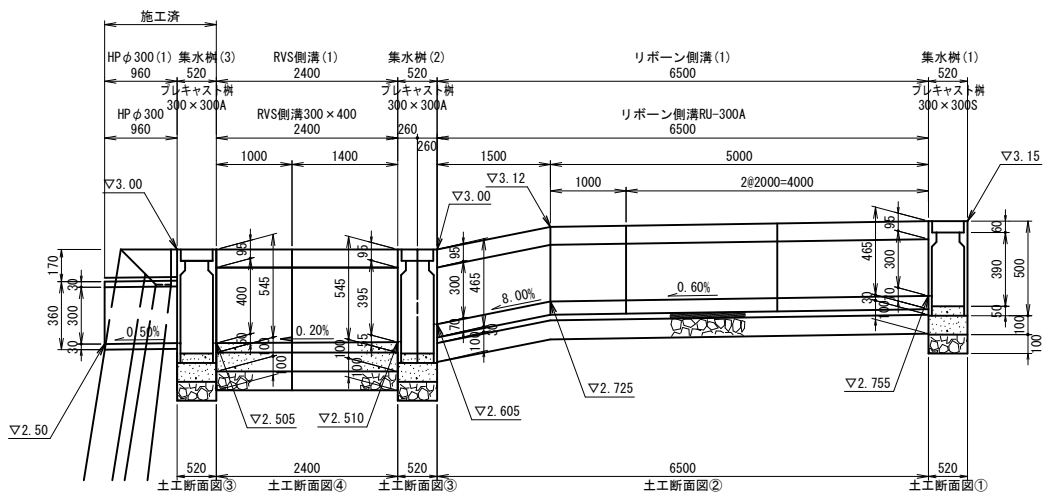
門柱・扉枠位置関係図



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	フェンス参考図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	図示	図面番号	A-19
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

排水施設縦断面図

V=1:20
H=1:50

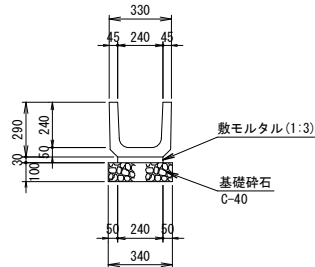


工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水施設 縦断面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	図示	図面番号	A-20
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

排水施設 標準断面図

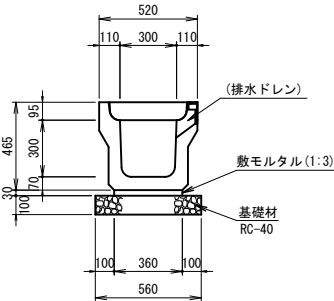
S=1:20

U形側溝 240
(U-240)



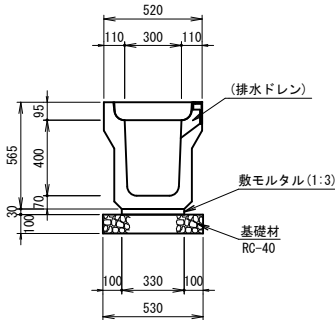
U形側溝 240 (U-240)		10m当たり材料表		
名 称	規 格	単位	数 量	
鉄筋コンクリートU形	240	m	10.0	
モルタル	1:3	m ³	0.07	
基礎砕石	クラッシュC-40, t=100	m ²	3.40	
基面整正		m ²	3.40	

リボーン側溝
RU-300A



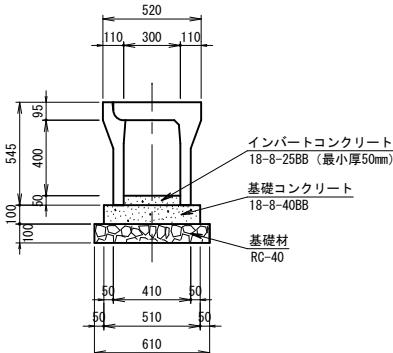
リボーン側溝 (RU-300A)		10m当たり材料表		
名 称	規 格	単位	数 量	
RU側溝	RU-300A	m	10.0	
コンクリート蓋	ノスキッド仕様 300用	枚	16.0	
グレーチング蓋	300用	枚	4.0	
敷モルタル	1:3BB	m ³	0.11	
基礎材	RC-40, t=100	m ²	5.60	
基面整正		m ²	5.60	

リボーン側溝
RU-300B



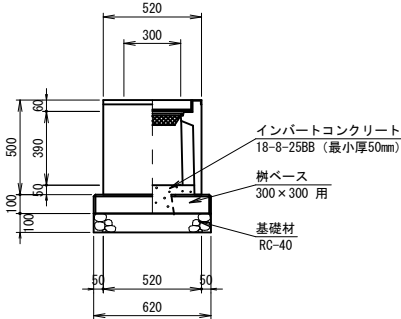
リボーン側溝 (RU-300B)		10m当たり材料表		
名 称	規 格	単位	数 量	
RU側溝	RU-300B	m	10.0	
コンクリート蓋	ノスキッド仕様 300用	枚	16.0	
グレーチング蓋	300用	枚	4.0	
敷モルタル	1:3BB	m ³	0.10	
基礎材	RC-40, t=100	m ²	5.30	
基面整正		m ²	5.30	

RVS側溝
300×400



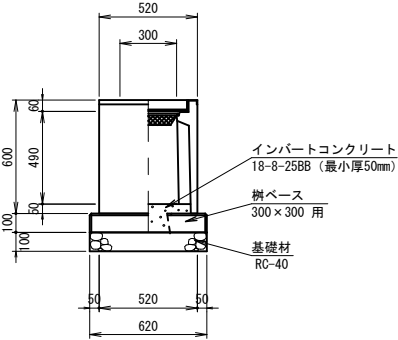
RVS側溝 (300×400)		10m当たり材料表			
名 称	規 格	単位	数 量	備 考	
RVS側溝	300×400	m	10.0		
コンクリート蓋	ノスキッド仕様 300 用	枚	8.0		
グレーチング蓋	300 用	枚	2.0		
インバートコンクリート	18-8-25BB	m ³	0.15	厚さ50mmの場合	
基礎コンクリート	18-8-40BB	m ³	0.51		
同上型枠		m ²	2.00		
基礎材	RC-40, t=100	m ²	6.10		
基面整正		m ²	6.10		

集水樹
プレキャスト樹
300×300S



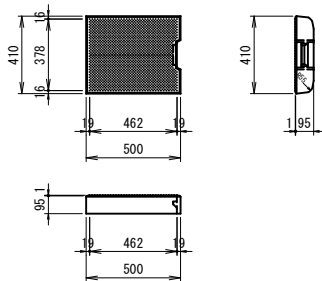
集水樹 (プレキャスト樹300×300S)		10基当たり材料表		
名 称	規 格	単位	数 量	備 考
プレキャスト樹	300×300S	基	10.0	
グレーチング蓋	300×300 用	枚	10.0	
インバートコンクリート	18-8-25BB	m ³	0.15	
樹ベース	300×300 用	枚	10.0	
基礎材	RC-40, t=100	m ²	3.84	
基面整正		m ²	3.84	

集水樹
プレキャスト樹
300×300A

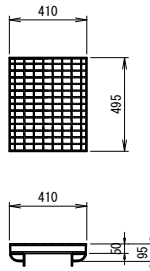


集水樹 (プレキャスト樹300×300A)		10基当たり材料表		
名 称	規 格	単位	数 量	備 考
プレキャスト樹	300×300A	基	10.0	
グレーチング蓋	300×300 用	枚	10.0	
インバートコンクリート	18-8-25BB	m ³	0.15	
樹ベース	300×300 用	枚	10.0	
基礎材	RC-40, t=100	m ²	3.84	
基面整正		m ²	3.84	

コンクリート蓋
ノスキッド仕様
300用



グレーチング蓋
300用

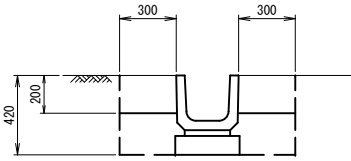


工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水施設 標準断面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	1:20	図面番号	A-21
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

排水施設 土工断面図

1:20

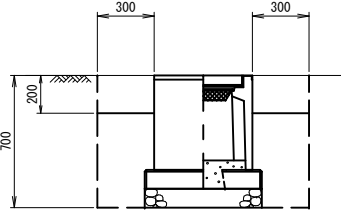
U-240土工断面図
S=1:20



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.39
埋戻し	0.14

土工断面図①
S=1:20

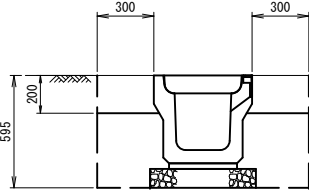
プレキャスト樹300×300S



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.78
埋戻し	0.28

土工断面図②
S=1:20

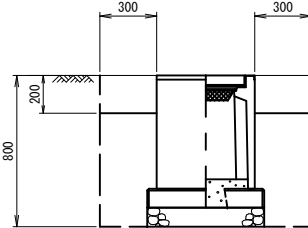
リボーン側溝RU-300A



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.67
埋戻し	0.26

土工断面図③
S=1:20

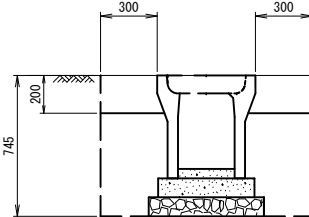
プレキャスト樹300×300A



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.90
埋戻し	0.34

土工断面図④
S=1:20

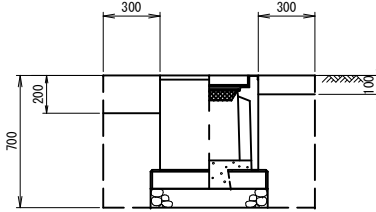
RVS側溝300×400



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.83
埋戻し	0.36

土工断面図⑤
S=1:20

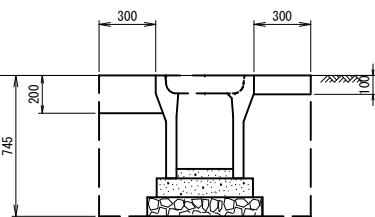
プレキャスト樹300×300S



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.78
埋戻し	0.31

土工断面図⑥
S=1:20

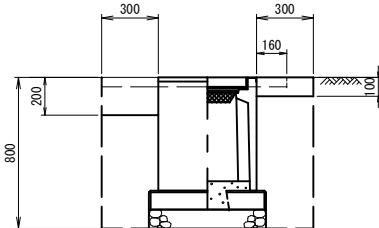
RVS側溝300×400



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.83
埋戻し	0.39

土工断面図⑦
S=1:20

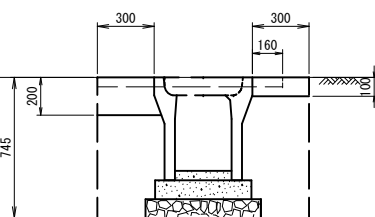
プレキャスト樹300×300A



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.85
埋戻し	0.37

土工断面図⑧
S=1:20

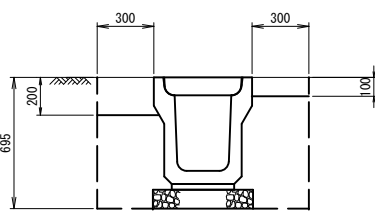
RVS側溝300×400



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.79
埋戻し	0.39

土工断面図⑨
S=1:20

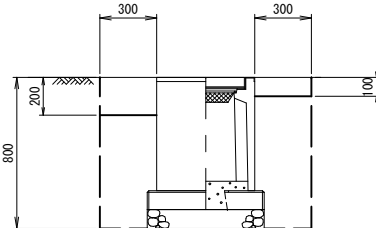
リボーン側溝RU-300B



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.78
埋戻し	0.37

土工断面図⑩
S=1:20

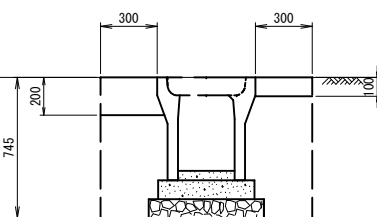
プレキャスト樹300×300A



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.90
埋戻し	0.37

土工断面図⑪
S=1:20

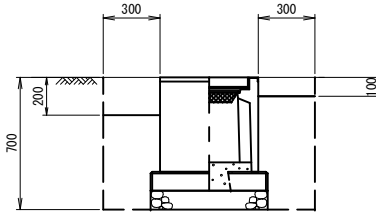
RVS側溝300×400



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.83
埋戻し	0.39

土工断面図⑫
S=1:20

プレキャスト樹300×300S

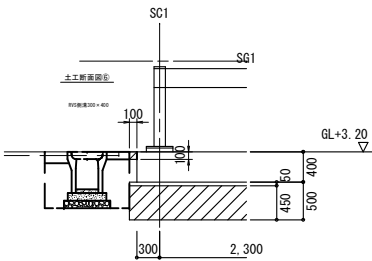


断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床掘り	0.78
埋戻し	0.31

張りコンクリートエ 土工断面図

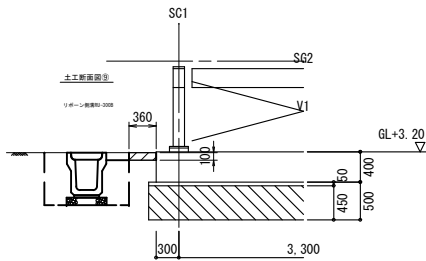
1:50

床掘 (1)



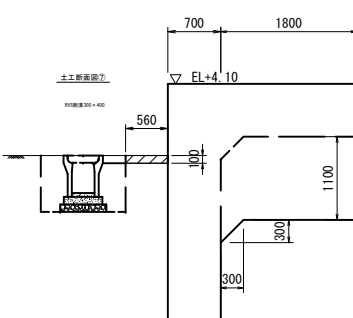
断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床 掘	0.01
埋戻し	-

床掘 (2)



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床 掘	0.04
埋戻し	-

床掘 (3)



断面数量表 (m3/m)	
名 称	数 量
床 掘	0.06
埋戻し	-

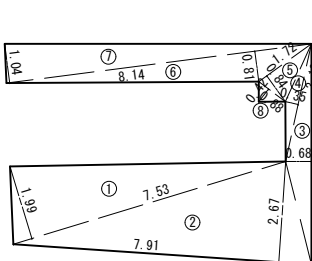
張りコンクリート 面積求積図

1:100

排水機場外周

符号	底辺	高さ	倍面積
1	16.03	0.20	3.2060
2	16.04	0.86	13.7944
3	19.83	0.66	13.0878
4	3.86	0.58	2.2388
5	9.80	0.40	3.9200
6	9.15	0.31	2.8365
7	1.98	0.54	1.0692
8	1.96	0.47	0.9212
9	3.52	0.98	3.4496
10	2.67	0.66	1.7622
11	2.67	1.61	4.2987
12	6.29	0.26	1.6354
13	6.50	0.38	2.4700
14	0.93	0.12	0.1116
15	0.93	0.21	0.1953
16	1.02	0.34	0.3468
合計			55.3435
1/2			27.6718
面積			27.67

既設発電機外周



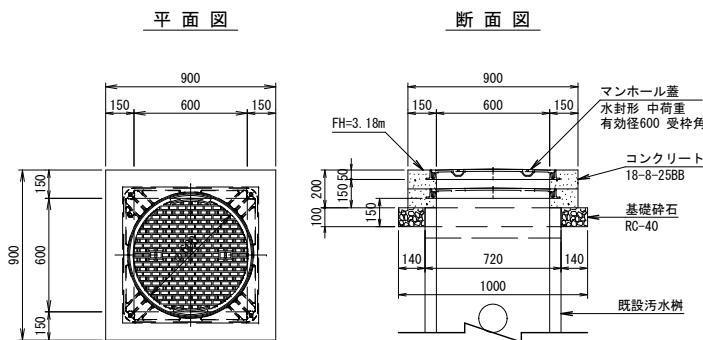
符号	底辺	高さ	倍面積
1	7.53	1.99	14.9847
2	7.91	2.67	21.1197
3	5.84	0.68	3.9712
4	3.19	0.35	1.1165
5	1.72	0.84	1.4448
6	8.14	0.81	6.5934
7	8.14	1.04	8.4656
8	0.88	0.42	0.3696
合計			58.0655
1/2			29.0328
面積			29.03

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水施設 土工断面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	図示	図面番号	A-22
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

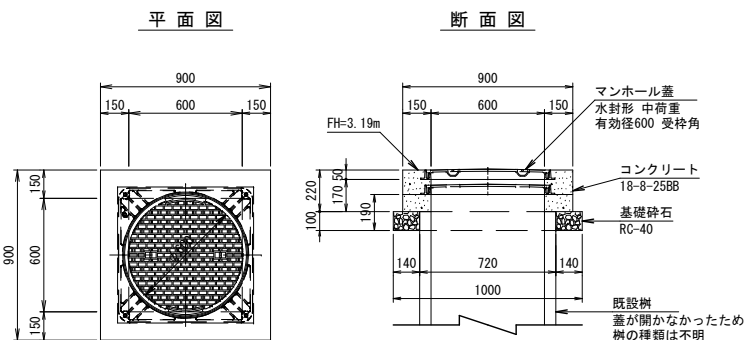
排水柵蓋かさ上げ工構造図

S=1:20

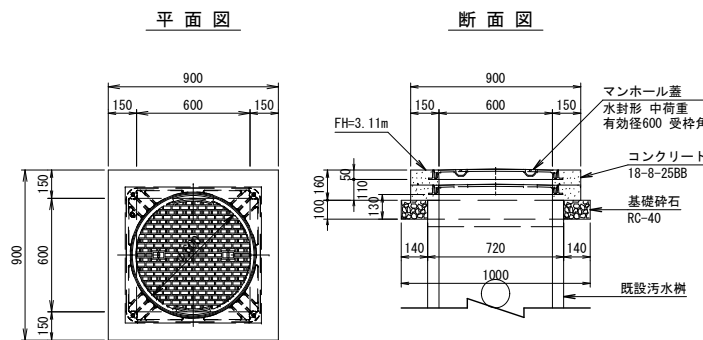
排水柵蓋かさ上げ工(1)



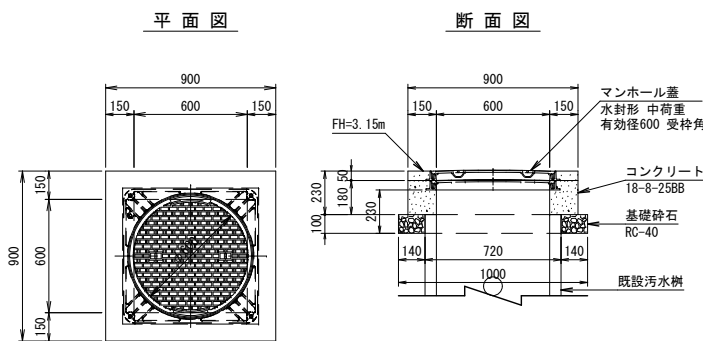
排水柵蓋かさ上げ工(2)



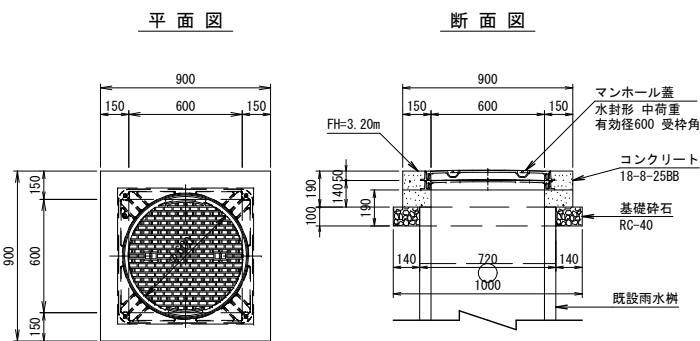
排水柵蓋かさ上げ工(3)



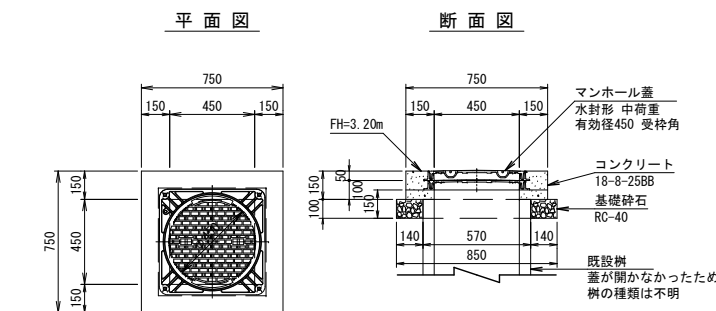
排水柵蓋かさ上げ工(4)



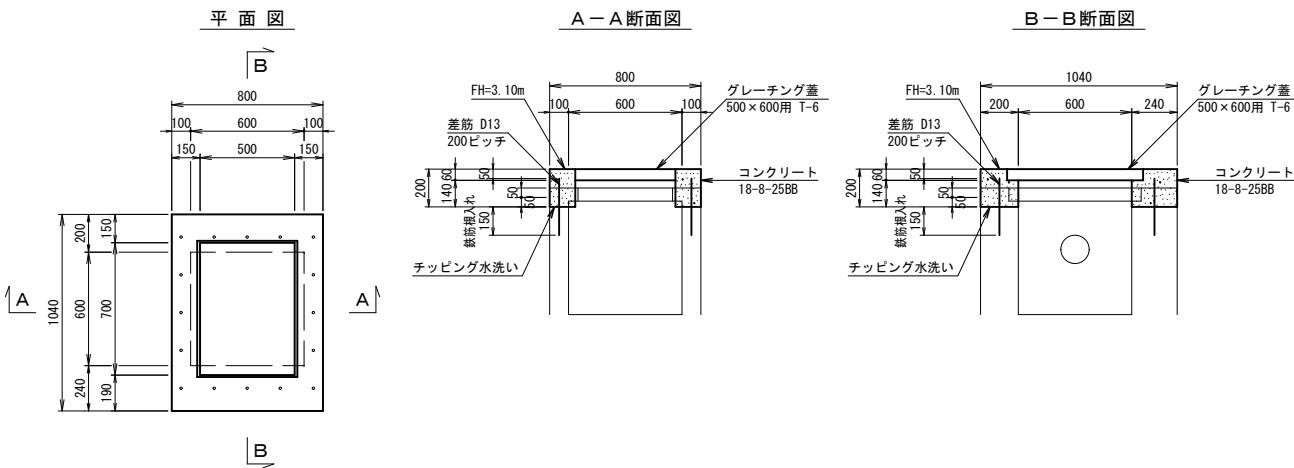
排水柵蓋かさ上げ工(5)



排水柵蓋かさ上げ工(6)

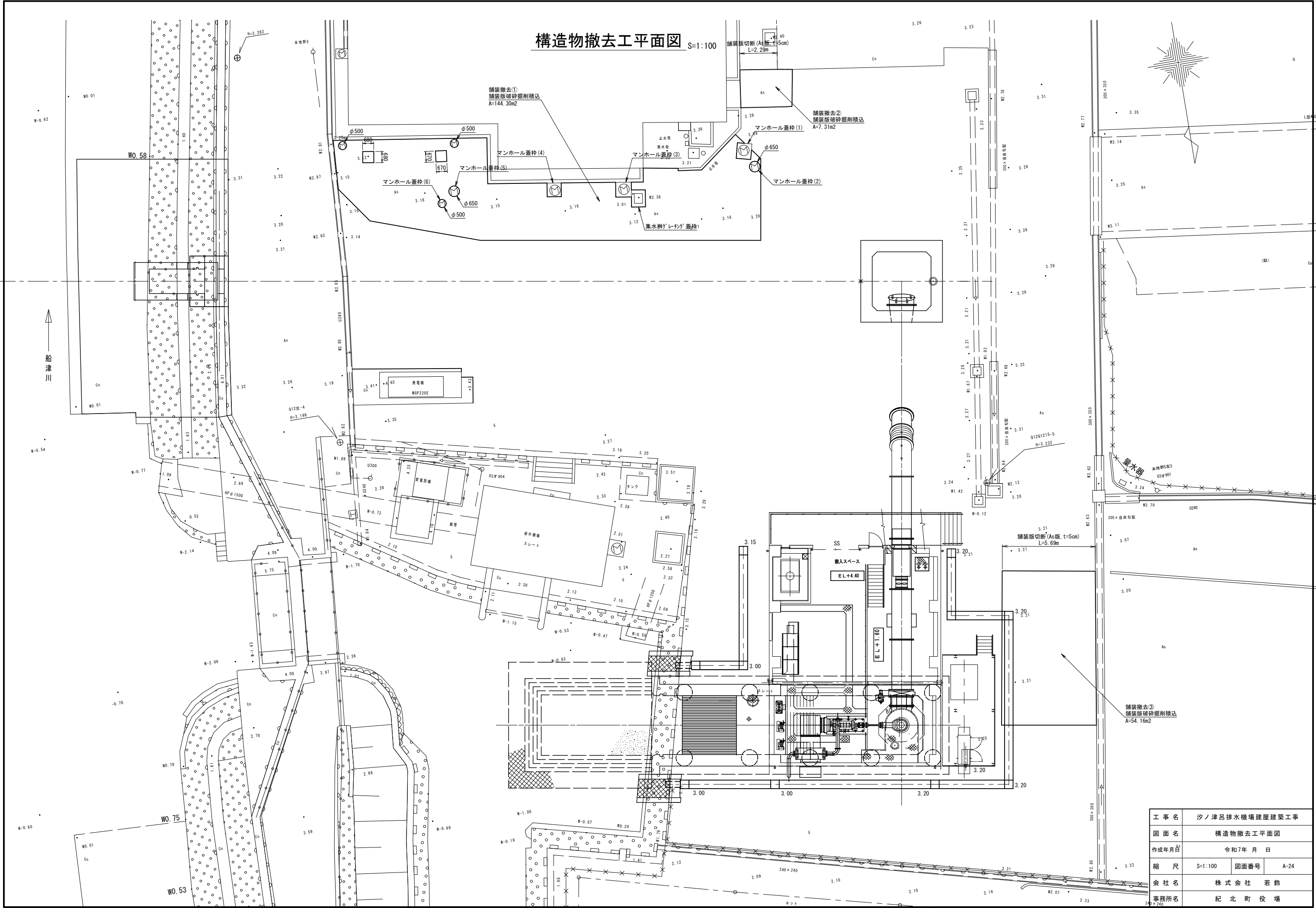


集水柵かさ上げ工



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水柵蓋かさ上げ工構造図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	1:20	図面番号	A-23
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

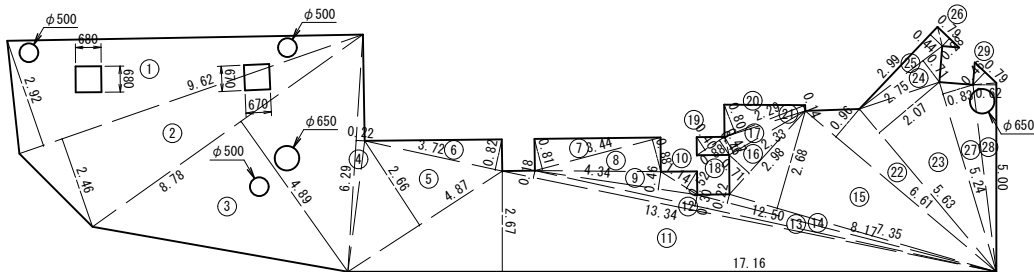
構造物撤去工平面図 S=1:100



工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	構造物撤去工平面図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮尺	S=1:100	図面番号	A-24
会社名	株式会社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

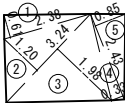
舗装撤去面積求積図 S=1:100

舗装撤去①面積求積図
S=1:100



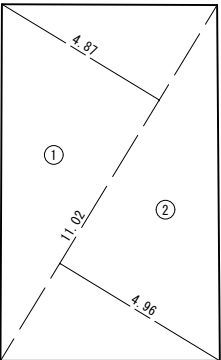
符号	底辺	高さ	倍面積
①	9.62	2.92	28.0904
②	9.62	2.46	23.6652
③	8.78	4.89	42.9342
④	6.29	0.22	1.3838
⑤	4.87	2.66	12.9542
⑥	3.72	0.82	3.0504
⑦	3.44	0.81	2.7864
⑧	3.44	0.88	3.0272
⑨	4.34	0.46	1.9964
⑩	1.14	0.52	0.5928
⑪	17.16	2.67	45.8172
⑫	13.34	0.18	2.4012
⑬	12.50	0.30	3.7500
⑭	8.17	0.22	1.7974
⑮	7.35	2.68	19.6980
⑯	2.98	0.71	2.1158
⑰	2.33	0.47	1.0951
⑱	0.88	0.46	0.4048
⑲	0.88	0.40	0.3520
⑳	2.29	0.80	1.8320
㉑	2.29	0.14	0.3206
㉒	6.61	0.96	6.3456
㉓	5.63	2.07	11.6541
㉔	2.75	0.71	1.9525
㉕	2.99	0.44	1.3156
㉖	0.79	0.28	0.2212
㉗	5.24	0.83	4.3492
㉘	5.00	0.62	3.1000
㉙	0.79	0.46	0.3634
合計			229.3667
1 / 2			114.6833
面積			114.68

舗装撤去②面積求積図
S=1:100



符号	底辺	高さ	倍面積
①	2.38	0.61	1.4518
②	3.24	1.20	3.8880
③	3.24	1.98	6.4152
④	2.43	0.33	0.8019
⑤	2.43	0.85	2.0655
合計			14.6224
1 / 2			7.3112
面積			7.31

舗装撤去③面積求積図
S=1:100



符号	底辺	高さ	倍面積
①	11.02	4.87	53.6674
②	11.02	4.96	54.6592
合計			108.3266
1 / 2			54.1633
面積			54.16

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	舗装撤去面積求積図		
作成年月日	令和7年 月 日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-25
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

構造設計特記仕様(2)

9.鉄筋コンクリート工事

(1)コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載なきは、JASS 5 2018 による。

(a)コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm2以下のコンクリートについてはJASS5の3部～11部を適用し、36N/mm2を超えるコンクリートについてはJASS5の17部（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める割合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大匠認定を受けた製品を用いる必要がある。軽量コンクリートについてはJASS 5 の14節によること。

表9.1コンクリート圧縮強度(N/mm2)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2レディーミクストコンクリートのJIS規格品

割合管理強度(N/mm2)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
---------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

呼び強度(JIS規格品)

	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※
--	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

※印は規格外

(b)品質と施工

構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。

標準口長期口超長期

コンクリートはJIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認定工場の製品とする。

設計基準強度が36N/mm2を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

施工者は、工事に先立ち、コンクリートの割合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の確認及び承認を得ること。

フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランブフローで表し、設計基準強度が36N/mm2以下33N/mm2以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm2未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準強度が39N/mm2超45N/mm2未満以上の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm2以上2の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m3以下とする。

コンクリートの練混ぜから打ち込み終了までの時間は、外気温が25℃以下の場合は120分以内とし、25℃を超える場合は90分以内とする。

コンクリート打ち込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打ち込み前十分な水湿しを行う。

打ち込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて5日以上とする。

(c)割合および構造体コンクリート強度

1)高強度コンクリート

割合強度を定めるための基準とする材料は、特記による。特記のない場合は28日とする。

構造体コンクリート強度を保証する材料は、特記による。特記のない場合は91日とする。

構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。

①標準養生した供試体による場合、割合強度を定めるための基準とする材料において割合管理強度以上とする。

②標準養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材料において設計基準強度に3N/mm2加えた値以上とする。

割合管理強度は、以下による。

μFm = Fc + αSn (N/mm2)

μFm：高強度コンクリートの割合管理強度 (N/mm2)

Fc：コンクリートの設計基準強度 (N/mm2)

αSn：高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。

割合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

μF ≥ μFm + 1.73σ (N/mm2)

μF ≥ 0.85 μFm + 3σ (N/mm2)

μF：高強度コンクリートの割合強度 (N/mm2)

σσ：高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm2) で、レディーミクストコンクリートコンクリート工場の実績による。実績が無い場合は、0.1(Fc + αSn)とする。

ii)普通コンクリート

割合を定めるための基準とする材料は、原則として28日とする。

構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材料	判定基準
標準養生	28 日	X ≥ Fm
コア	91 日	X ≥ Fq

ただし、X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm2)

Fm：コンクリートの割合管理強度 (N/mm2)

Fq：コンクリートの品質基準強度 (N/mm2)

[注](1)早い材料において試験を行い、合格判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2)工事監理者の確認及び承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

*標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温は20℃以上の場合、3個の供試体の圧縮強度の平均値が割合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

*コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日の圧縮強度試験の1回の試験の結果が、設計基準強度に0.7を乗じた値以上であり、かつ、現場封かん養生供試体の材齢28日を超え91日以内の3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

割合管理強度は、以下による。

Fm = Fq + αSn (N/mm2)

Fm：コンクリートの割合強度 (N/mm2)

Fq：コンクリートの品質基準強度 (N/mm2)

αSn：標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm2)

割合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。割合強度を定める材料 m 日は、原則として28日とする。

F ≥ Fm + 1.73σ (N/mm2)

F ≥ 0.85 Fm + 3σ (N/mm2)

F：コンクリートの割合強度(N/mm2)

σ：使用するコンクリートの圧縮の標準偏差 (N/mm2)で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は2.5N/mm2、または0.1Fmの大きい方の値とする。

(d)検査

フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し、工事監理者の確認及び承認を得る。測定検査の回数は、コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上とし、打ち込み当初及び1日の計画打ち込み量が150㎥を超える場合は150㎥以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回以上とする。

1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。

高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150㎥以下にほぼ均等に分割した単位ごとに3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成する。

高強度コンクリートでは、打込み日かつ300㎥ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあげた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150㎥以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。

高強度コンクリートでは打込み日、打込み区かつ300㎥ごとに行う。検査には適当な間隔をあげた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、公共建築工事標準仕様書（平成31年）による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(C)割合および構造体コンクリート強度による。

(2)鉄筋

(a)施工

鉄筋はJIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551(溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを用いる。

高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径	使用箇所	
	(1)引張力最小部位	(2)(1)以外の部位(注)				
		A級	B級	SA級		
■重ね継手	標準図による				■D(D16)以下	
■圧接継手	■告示1463号第2項各号	■			■D(D19)以上	
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□		□D()以上	
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□	□D()以上	

注)(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用率(建築物の構造関係技術基準解説書 2015)』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■機械式継手および圧接継手および溶接継手は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の確認及び承認を受ける。

■ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の確認及び承認を得て作業を行うことが出来る。

■圧接技量資格者は、(公社)日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、確認を受け、承認を受ける。

□機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b)検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5継手の検査

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■外観検査	全数	目視又は計測
	■超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり(30)箇所又は()%	JIS Z 3062:2014による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり(5)箇所又は()%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□外観検査	全数	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり()箇所又は()%	JIS Z 0005:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり()箇所又は()%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□外観検査	全数	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり()箇所又は()%	JIS Z 0003:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり()箇所又は()%	JIS Z 2241:2011による

注) 1 抜取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。

(3)かぶり厚さ

■鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋かぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

■柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

■鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

表9.6最小かぶり厚さ(単位:mm)

構造部分の種別			最小かぶり厚さ(mm)		
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20		
		仕上げなし	30		
	柱、梁、耐力壁	屋 内	仕上げあり	30	
			仕上げなし	30	
		屋 外	仕上げあり	30	
			仕上げなし	40	
	擁壁、耐圧スラブ			40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			60	
煙突等高熱を受ける部分				60	

注) 1.この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2.「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(土上塗材、塗装等)のものを除く。
3.スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
4.杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

(4)型枠

■型枠および支保工の存在期間は、昭63年建告第1655号に基づき下表による。

表9.7型枠存置日数昭和46年建設省告示第110号(昭和63年改正建設省告示第1655号)

種類 部位	せき板		支柱			
	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下	スラブ下		
	単独ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント 高引セメント A種 シリカセメント A種	単独ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント 高引セメント A種 シリカセメント A種	単独ボルト ランドセメント 高引セメント A種 シリカセメント A種	梁下
コンクリートの 材名 (E)	15℃以上	2	3	4	6	8
	5℃～15℃	3	5	6	10	12
	5℃未満	5	8	10	16	15
コンクリートの 圧縮強度	※ 5N/mm2		設計基準強度の50%			
			85%		100%	

※JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては5N/mm2以上、長期及び超長期の場合は10N/mm2、また高強度コンクリートの場合は10N/mm2以上。

注)1片持ち梁、梁、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の確認及び承認による。

注)2大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注)3支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注)4盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注)5支柱の盛替えは、小屋が壊ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。

注)6直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛替えを行わないこと。

注)7支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらずそのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

工 事 名

図 面 名

作成年月日

縮 尺

構 造 設 計 者

シグマ構造システム有限会社
一級建築士 第79432号 木村 猛

会 社 名

事務所名

汐ノ 津呂排水機場建屋建築工事

排水機場
構造設計特記仕様(2)

令和5年3月15日

NO SCALE 図面番号 S-02

株 式 会 社 若 鈴

紀 北 町 役 場

5 1 一般事項

1. 本配筋標準図(2020年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
2. 本配筋標準図は、
- ・「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」
(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
 - ・「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説(2018版)」
(日本建築学会)
 - ・「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2018年版)」
(日本建築学会)
 - ・「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(平成22年版)」
(日本建築学会)
- を参考に作成している。
3. 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。
高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の
図面を示す)による。
4. 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
5. 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者
が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
6. 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。
(～程度、～以下、◎、Pと表記しているものを除く)
7. 本配筋標準図に ☒ 印を記した項目は、適用しない。
8. 杭に関する事項は、構造図による。

表1-1 適用範囲

1. コンクリート	普通 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 60N/mm^2 以下 軽量 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 36N/mm^2 以下 SD390の鉄筋を使用する場合は $F_c=21\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する場合は $F_c=24\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。		
	規格番号	規格名称	種類の記号
2. 鉄筋	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A, SD295B
			SD345, SD390
			SD490
異形鉄筋はD41以下とする。			
3. 溶接金網 および鉄筋格子	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

5 2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状・寸法

1. 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
2. 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を
実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
3. SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験
を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状・寸法

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)	
180° フック 	180° 135° 90°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上	
			D19～D41	4d以上	
135° フック 		SD390	D41以下	5d以上	
			D25以下	5d以上	
90° フック 		SD490	D29～D41	6d以上	
			D29～D41	6d以上	

▽は折り曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

▽は折り曲げ開始点を示す。

この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは、135°フックを用い
る場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の
90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

1. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中 ◎印)

- (1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね手とする場合
(フックの形状は180°フックとする)

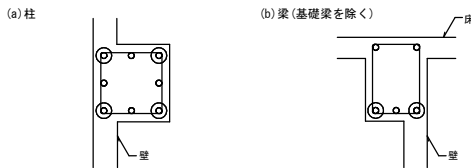


図2-2-1 フックが必要な重ね手

- (2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部
(フックの形状は180°フックとする)

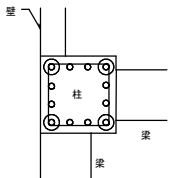


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭でフックが必要な主筋

- (3) あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)



図2-2-3 幅止め筋の形状

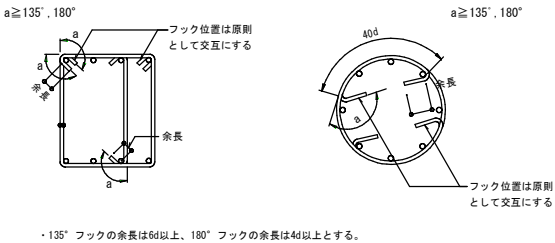
- (4) 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)

- (5) 杭基礎のベース筋

単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

1. あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状・寸法は、図3-3-4による。



・135°フックの余長は6d以上、180°フックの余長は4d以上とする。

図2-3-1 あばら筋・帯筋の形状(末端部がフックの場合)

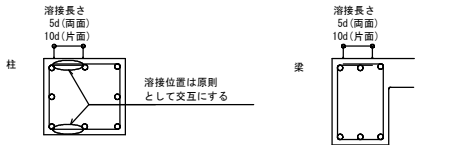
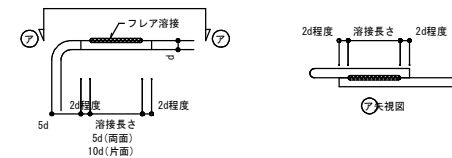


図2-3-2 あばら筋・帯筋の形状(末端部が溶接の場合)



・フレア溶接を採用する場合は監理者と協議すること。

・ビード形状は表3-1-3Iによる。

図2-3-3 あばら筋・帯筋の溶接要領

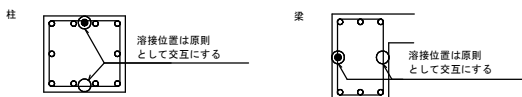
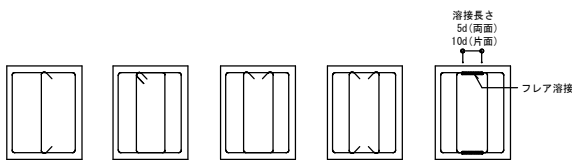


図2-3-4 あばら筋・帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



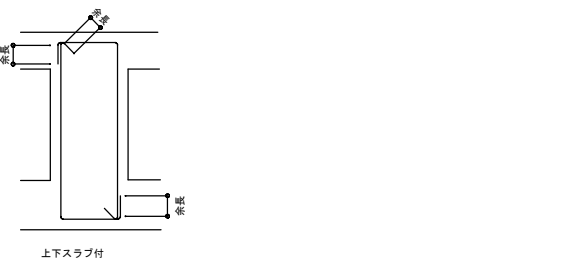
- ・スラブと同時に打ち込むT形・L形梁のキャップタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャップタイ末端部は、90°フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャップタイに90°フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)



・鉄筋末端部フックは、図2-3-1Iによる。

図2-3-6 副あばら筋・副帯筋の形状



※L1h(フック付重ね手)は、表3-1-2Iによる。

- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい11.5m以上の場合、使用可能とする。
原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

図2-3-7 梁せいの大きな基礎梁など、あばら筋を分割する場合の
あばら筋・副あばら筋の形状

2-4 主筋のあき・2段筋の間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍
以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
4. 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4Iによる。
5. 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名 (d)	最外径	主筋のあき aの最小値	2段筋の間隔 P2の最小値
D10	11	32	43
D13	14	32	46
D16	18	32	50
D19	21	32	53
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	108

- (注) 1. 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に
合わせて適宜判断すること。

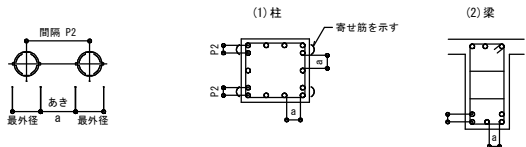


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1Iにならい取り付けること。

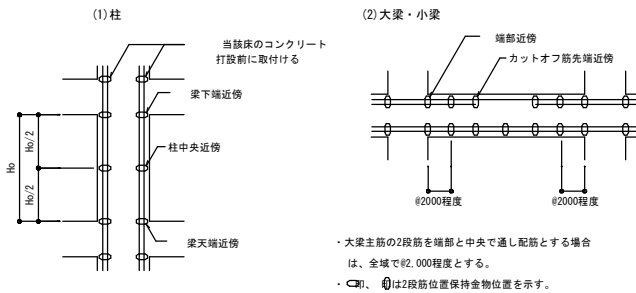


図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

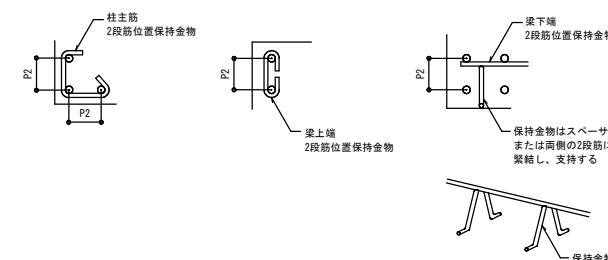


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-03
構 造 設 計 者	シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

5.3 継手および定着

3-1 継手

1. 対象とする継手は重ね継手・ガス圧接継手・フレア溶接継手とし、その他(機械式継手・突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。

2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。

3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。
(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示覧	構造計算方法	直線重ね継手長さ
□	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
■	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

4. D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。

5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。

6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋に適用する。
その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき寸法は、0.2L1かつ150mm以下とする。(図3-1-3)

7. 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

梁

床

継手位置

あきaを確保する

水平重ね継手

梁

床

継手位置

あきaを確保する

上下重ね継手

図3-1-1 梁主筋の重ね継手

8. ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。

9. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。

10. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。

11. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。

12. 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。

13. 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h		Fc (N/mm ²)						
重ね継手長さ L1: フックなし L1h: フック付	鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
		18	21	24	30	39	48	
直線重ね継手の長さ L1	SD295A SD295B	45d	40d	35d	35d	30d	30d	
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d	
	SD390		50d	45d	40d	40d	35d	
	SD490			55d	50d	45d	40d	
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※	SD295A SD295B	35d	30d	25d	25d	20d	20d	
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d	
	SD390		35d	35d	30d	30d	25d	
	SD490 <90° フックのみ>			40d	35d	35d	30d	

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

ふくらみの直径・長さ

1. 4d以上
(1. 5d以上)

1. 1d以上
(1. 2d以上)

片ふくらみ

圧接面

Δh=h1-h2≤d/5以下

ガス圧接

()内は、SD490の場合に適用する

圧接面のずれ

d/4以下

折れ曲がり

θ≤2°

片面の場合

2d程度 10d以上 2d程度

両面の場合

2d程度 5d以上 2d程度

フレア溶接

原則として鉄筋は、D16以下とする

溶接のビード幅

鉄筋径d

最小値

10 6

13 7

16 8

(ビード幅)

表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ		
溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15 SD345 YGW16 YGW18 SD390 YGW19
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	

圧接の場合

400

主筋のあきが確保できる場合の重ね継手の場合

L1/2程度

L1h

L1h/2程度

主筋のあきの確保が困難な場合の重ね継手の場合

L1/2

L1

L1h

L1h/2

L1h

図3-1-2 隣り合う継手位置

0.4L1以上

L1

あき重ね継手を使用する場合は、監理者に確認の上使用する。

3-2 定着

1. 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。
ただし、小梁・スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。

2. 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。

3. 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。

4. 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長は8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。

5. 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長は8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h		Fc (N/mm ²)						
定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
		18	21	24	30	39	48	
直線定着長さ L2	SD295A SD295B	40d	35d	30d	30d	25d	25d	
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d	
	SD390		40d	40d	35d	35d	30d	
	SD490			45d	40d	40d	35d	
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※	SD295A SD295B	30d	25d	20d	20d	15d	15d	
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d	
	SD390		30d	30d	25d	25d	20d	
	SD490 <90° フックのみ>			35d	30d	30d	25d	

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h		18～60	
下端筋定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着	鉄筋の種類	小梁	スラブ
		20d <25d>	10dかつ 150mm <25d>
直線定着長さ L3	SD295A SD295B SD345 SD390		
フック付定着長さ L3h	SD295A SD295B SD345 SD390	10d	—

(注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「—」は適用範囲外を示す。
3. < >は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb		Fc (N/mm ²)						
折曲げ定着長さ	鉄筋の種類	18	21	24	30	39	48	
		18	21	24	30	39	48	
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD295A SD295B	20d	15d	15d	15d	15d	15d	
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d	
	SD390		20d	20d	20d	15d	15d	
	SD490			25d	25d	20d	20d	
小梁及びスラブの上端筋の 梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD295A SD295B	15d	15d	15d	15d	15d	15d	
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d	
	SD390		20d	20d	15d	15d	15d	
	SD490							

(注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ
(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

1. 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。
溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。

2. 溶接金網の定着は、図3-3-3による。

3. 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着・継手要領は、図3-3-4による。

4. 鉄筋椅子については、3-1 継手、3-2 定着による。

1. 5Pかつ150

P

(a) 応力伝達用

Pかつ100

P

(b) ひび割れ幅制御用

図3-3-1 溶接金網の重ね継手

タイプA

タイプB

図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

1. 5Pかつ150

50

異形鉄筋

2本以上

L3

L1

P

図3-3-3 溶接金網の定着

135° 折曲げ
余長6d

90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d

余長6d

余長12d
余長6d

重ね継手50d

1. 5巻

末端定着

重ね継手

(a) 円形スパイラル筋

135° 折曲げ
余長6d

90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d

余長6d

余長12d
余長6d

重ね継手50d

1. 5巻

末端定着

重ね継手

(b) 角形スパイラル筋

図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

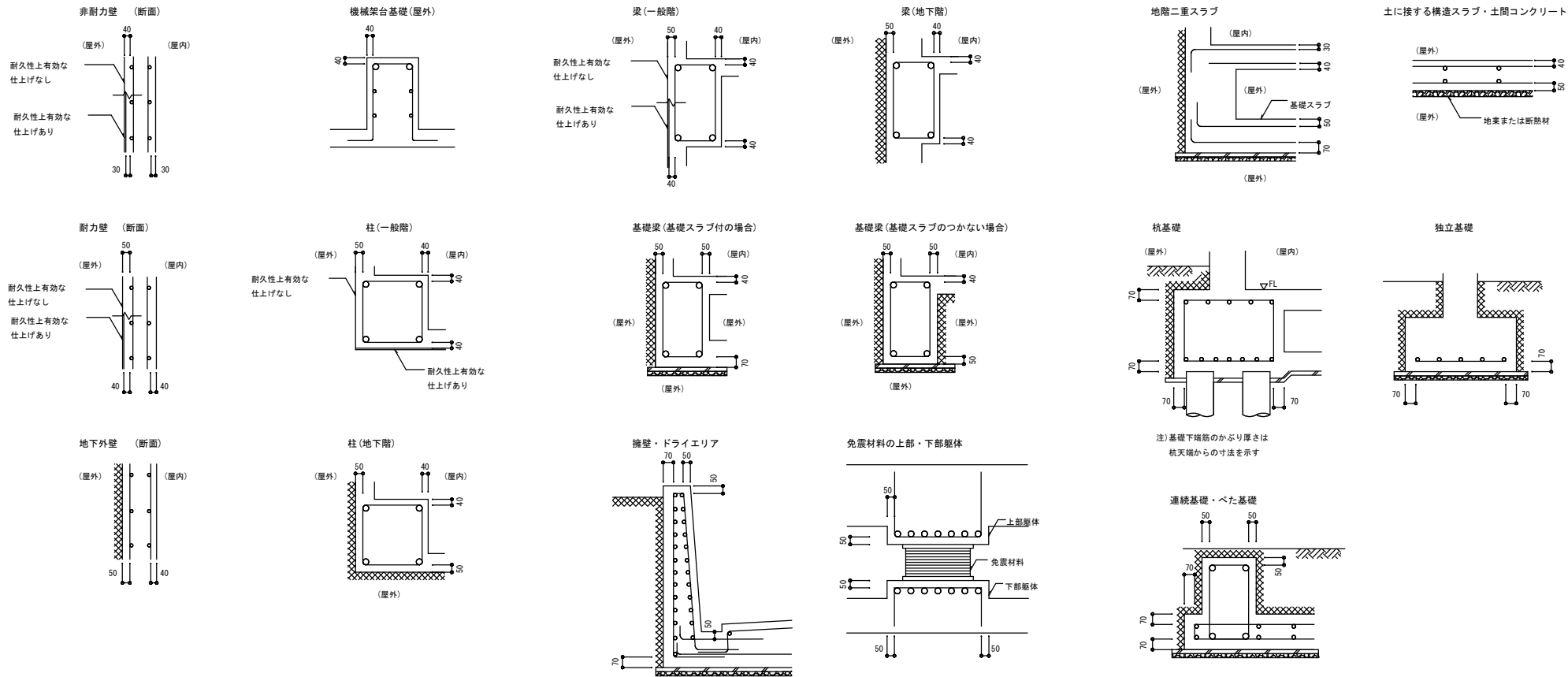
工 事 名				汐ノ津呂排水機場建屋建築工事					
図 面 名				排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)					
作成年月日				令和5年3月15日					
縮 尺				NO SCALE	図面番号	S-04			
構 造 設 計 者				会 社 名 株 式 会 社 若 鈴					
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛				事務所名 紀 北 町 役 場					

- 5 4 かぶり厚さ
- 4-1 鉄筋のかぶり厚さ
- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
 - 柱・梁かぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
 - 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置に行う。
 - 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性有効な仕上がり例
・タイル張り
・モルタル塗り(10mm以上)
・打増し(10mm以上)
 - ひび割れ誘発目地・打継ぎ目地・化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。
 - 柱・梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4により、耐久性上有効な仕上がりと考えることができる。
 - 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
 - 軽量コンクリートを用いる場合は表4-1の※2の値に10mmを加えた値とする。

表4-1 鉄筋のかぶり厚さ						(単位mm)
部 位			設計 かぶり厚さ ※3	最小 かぶり厚さ ※4	分類記号	
土に接し ない部分	スラブ	屋内	30	20	a	
		屋外	40 ※1	30 ※1	b	
	柱・梁	屋内	40	30	c	
		耐力壁	屋外	50 ※1	40 ※1	d
	非耐力壁	屋内	30	20	e	
		屋外	40 ※1	30 ※1	f	
	煙突内面		60	50	g	
	擁壁・基礎スラブ		50	40	h	
土に接す る部分	柱・梁・壁・スラブ		50 ※2	40 ※2	i	
	連続基礎の立上り部分					
	基礎スラブ・擁壁		70 ※2	60 ※2	j	
基礎			70 ※2	60 ※2	k	

※3 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

※4 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

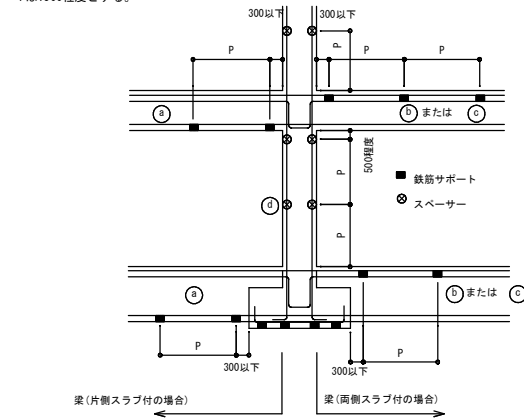


・図中の [hatched box] 土に接する部分を示す。

図4-1 部位別設計かぶり厚さ

- 4-2 鉄筋サポート・スぺーサー・結束線
- 鉄筋サポート・スぺーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
 - 鉄筋サポート・スぺーサーの種類は設計基準強度以上のコンクリート製または鋼製を使用する。柱・梁・基礎・基礎梁・壁・地下外壁の側面のスぺーサーはプラスチック製でもよい。
 - 鉄筋サポート・スぺーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
 - スぺーサー(ドーナツ形)は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スぺーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かぬよう緊結させる。
 - 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品(プレート付き)を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パットを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
 - 鋼製鉄筋サポートは在来型枠との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
 - 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

柱・梁
Pは1500程度とする。



- (a) 梁(片側スラブ付の場合)
- (b) 梁(両側スラブ付の場合)
- (c) 柱

図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スぺーサーの取付け要領

壁
Pは縦・横共1500程度とする。
壁前後のスぺーサー位置は、縦方向・横方向のいずれかの間隔を200程度とすればよい。

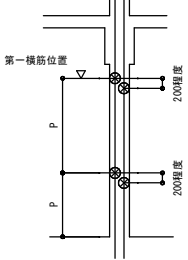


図4-2-2 壁のスぺーサーの取付け要領

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
	排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)		
	作成年月日 令和5年3月15日		
	縮 尺	NO SCALE	図面番号 S-05
構 造 設 計 者		会 社 名 株 式 会 社 若 鈴	
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		事務所名 紀 北 町 役 場	

基礎

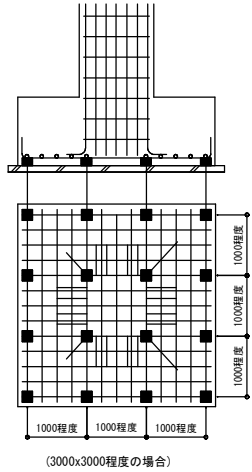


図4-2-3 基礎の鉄筋サポートの取付け要領

スラブ

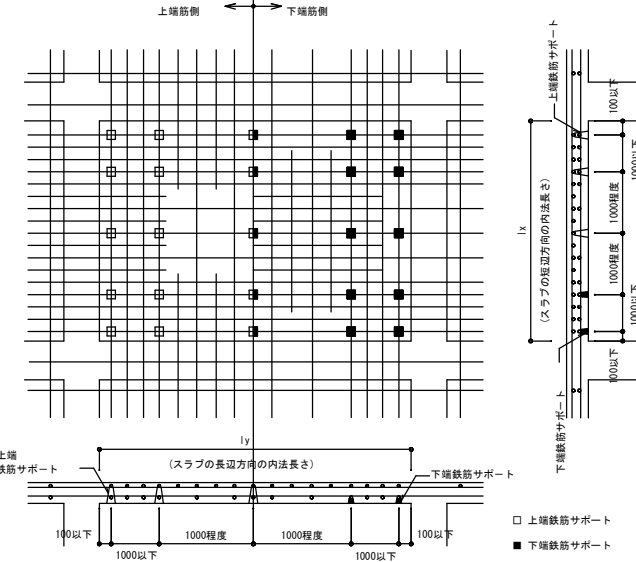


図4-2-4 スラブの鉄筋サポートの取付け要領

5 基礎

5-1 独立基礎

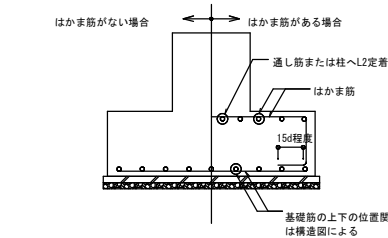


図5-1 独立基礎

5-2 連続基礎

1. 連続基礎の側柱交差部は、外周部の基礎主筋を連続して配置する。
2. 中柱交差部における基礎主筋を連続する方向は構造図による。
3. 隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

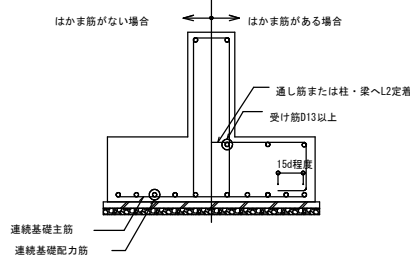


図5-2-1 連続基礎

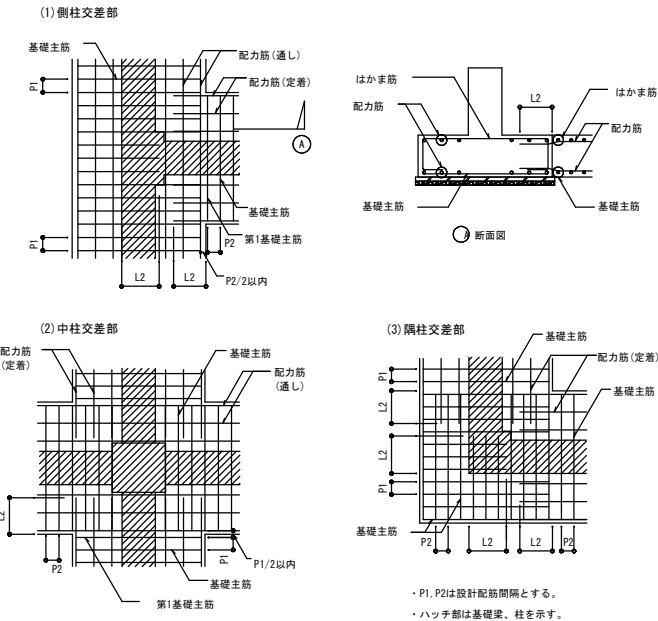


図5-2-2 連続基礎(交差部)

5-3 杭基礎

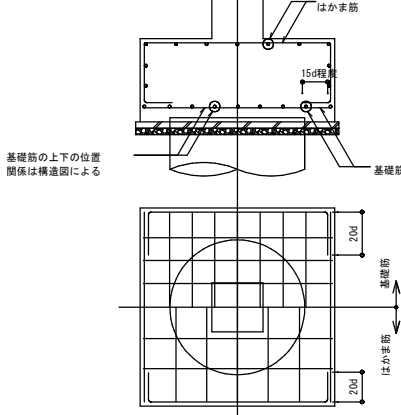


図5-3-1 1本杭の場合

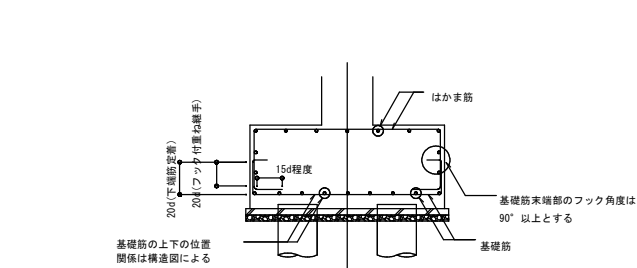
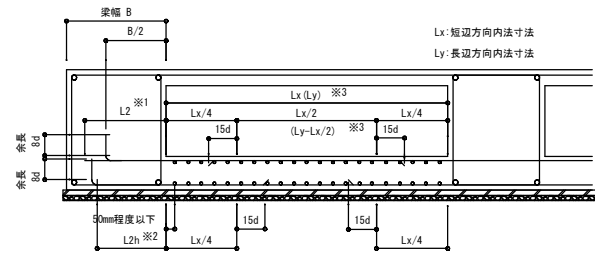


図5-3-2 2本杭以上の場合

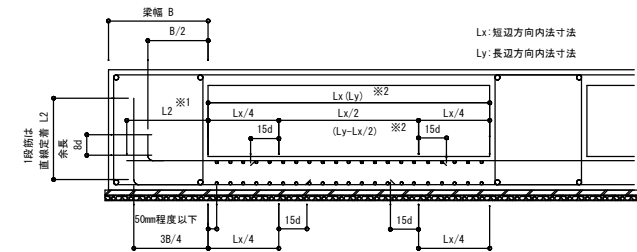
5-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、浮き上がりが生じる場合はA2とし、配置は構造図による。
2. 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。



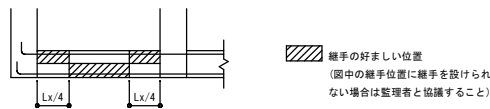
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)



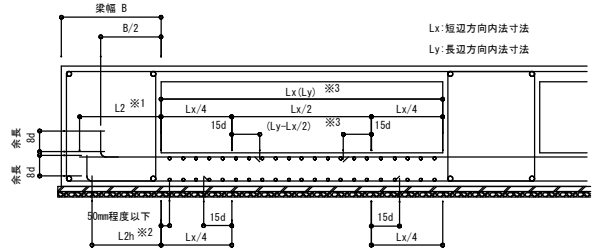
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)



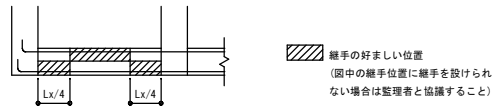
(c) 継手位置

図5-4-1 ベタ基礎の耐圧スラブなどの場合(タイプA1・タイプA2)



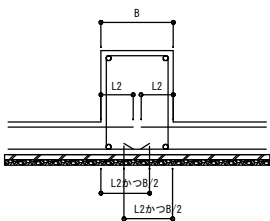
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図5-4-2 その他の基礎スラブの場合(タイプB1)



・基礎スラブの配筋が左右で同じ場合、通し配筋としてよい。

図5-4-3 基礎スラブが梁下で連続する場合の定着

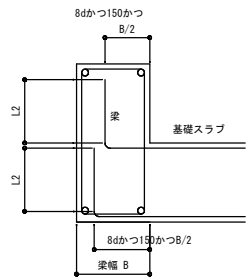


図5-4-4 幅の小さい梁への定着要領
(L2hが確保できない場合)

工 事 名 汐ノ津呂排水機場建屋建築工事

図 面 名 排水機場
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)

作成年月日 令和5年3月15日

縮 尺 NO SCALE 図面番号 S-06

構 造 設 計 者	会 社 名	株 式 会 社 若 鈴
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	事務所名	紀 北 町 役 場

- 5 6 基礎梁
- 6-1 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置
- 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はB2、C2とし、配置は構造図による。
 - 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さをとって反対側の梁内に定着する。
 - カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-1-1、図6-1-2、図6-1-3による。

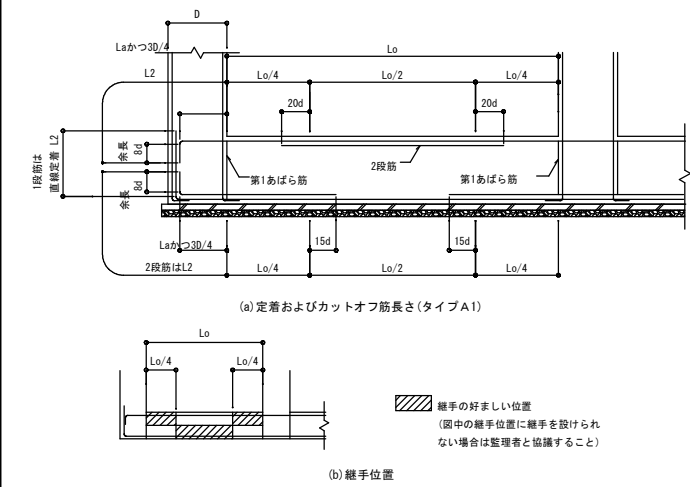
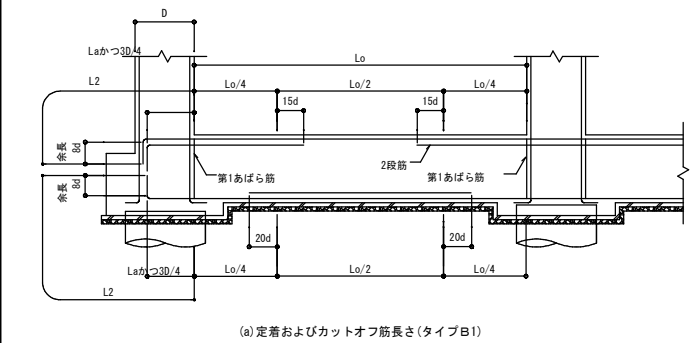


図6-1-1 ベた基礎・連続基礎の場合(タイプA1)



(a)定着およびカットオフ筋長さ(タイプB1)

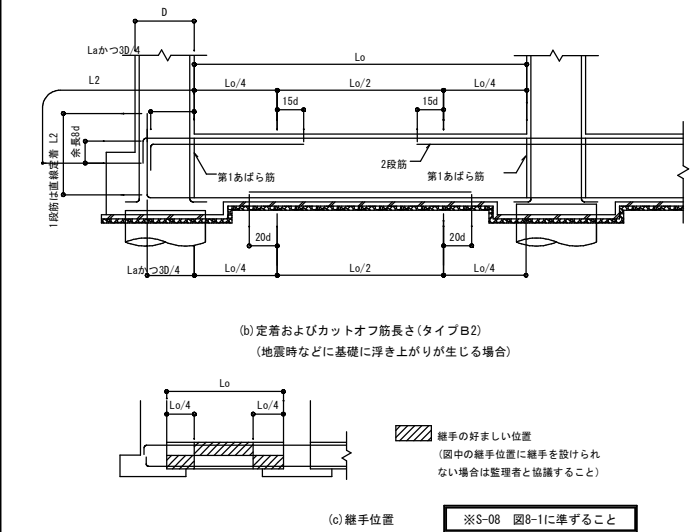
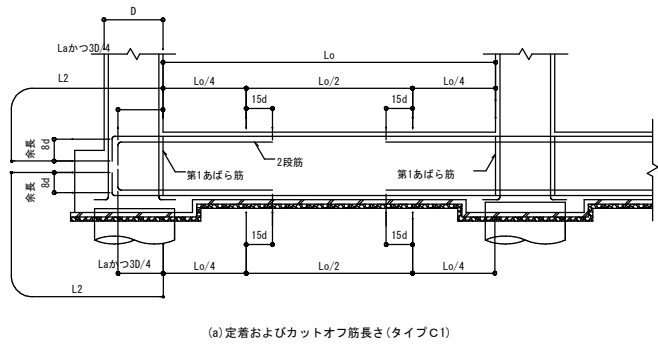


図6-1-2 杭基礎・独立基礎の場合(タイプB1・タイプB2)



(a)定着およびカットオフ筋長さ(タイプC1)

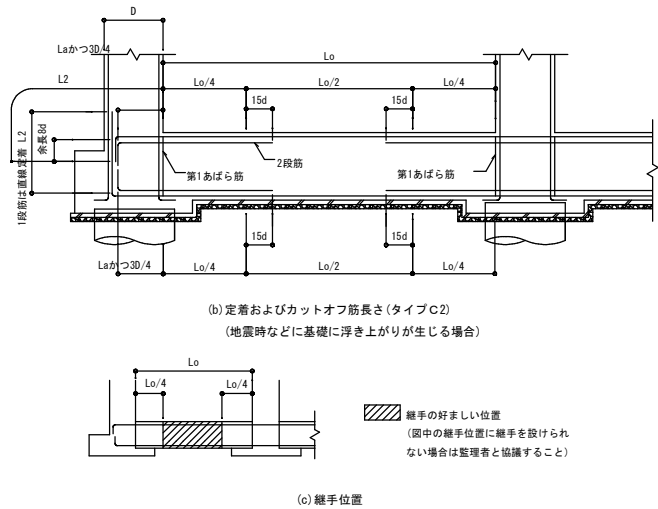
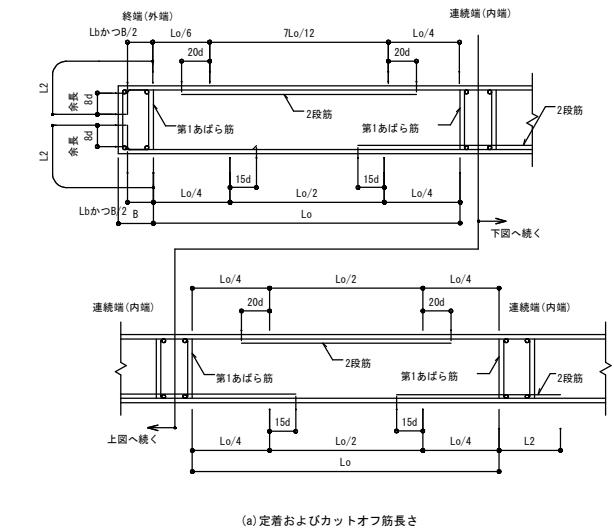


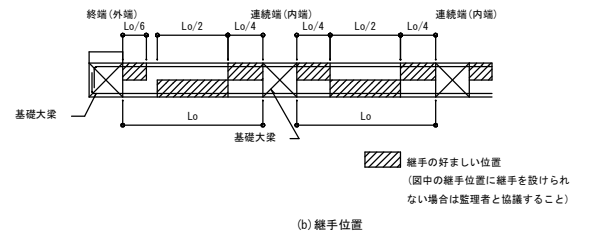
図6-1-3 杭基礎・独立基礎の場合(タイプC1・タイプC2)

6-2 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とし、配置は構造図による。

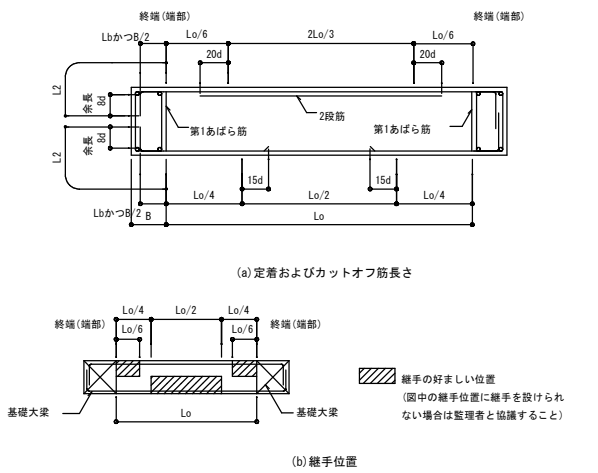


(a)定着およびカットオフ筋長さ

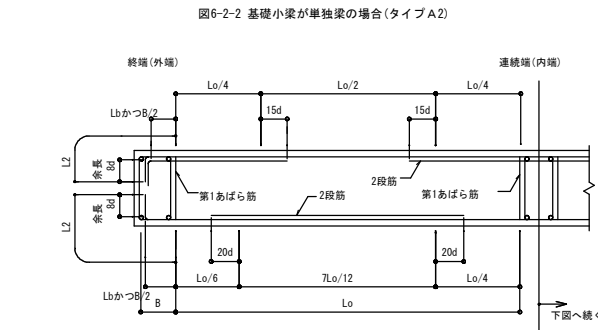


(b)継手位置

図6-2-1 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

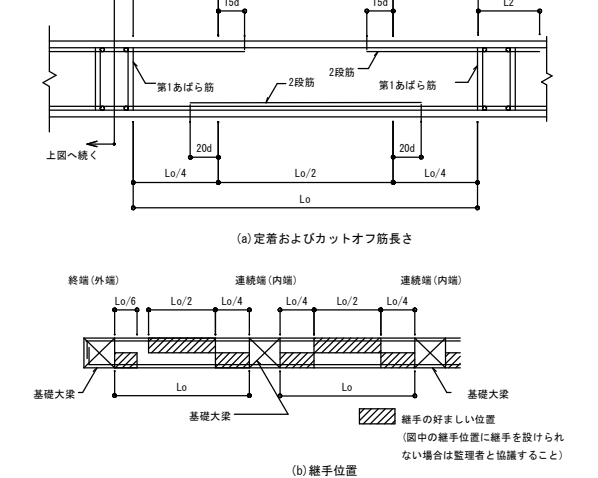


(a)定着およびカットオフ筋長さ

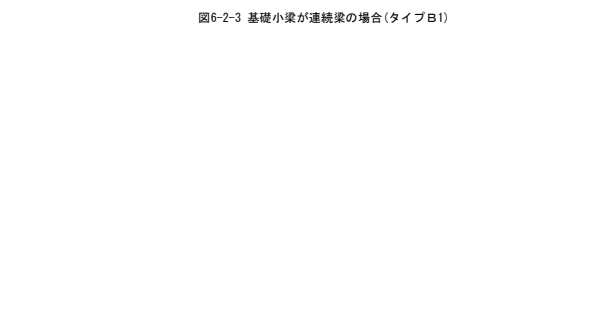


(b)継手位置

図6-2-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

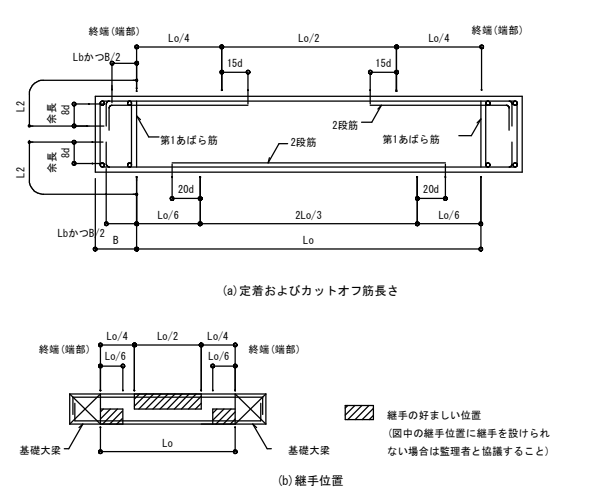


(a)定着およびカットオフ筋長さ

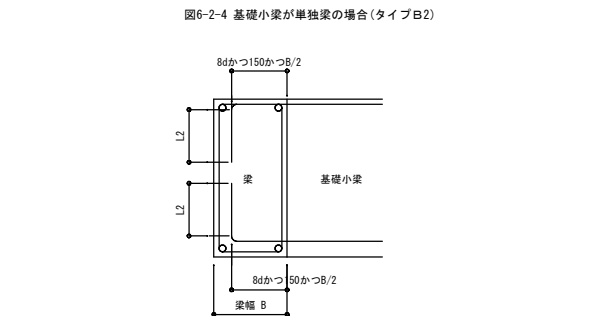


(b)継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)



(a)定着およびカットオフ筋長さ



(b)継手位置

図6-2-5 幅の小さい梁への定着要領

6-3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

- 基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-3Iによる。
- 取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。

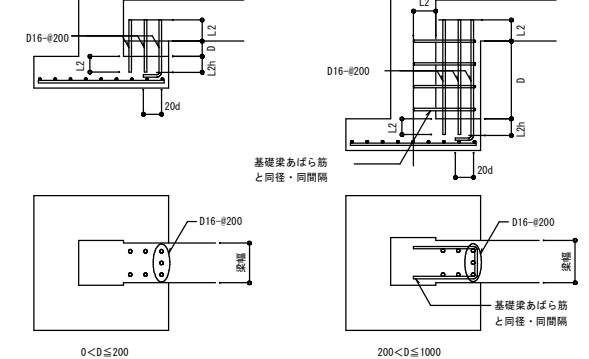


図6-3 取合い部補強要領

6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

- 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-4による。

- 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合
- 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

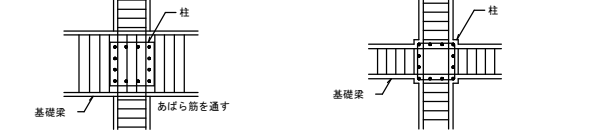


図6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

工 事 名				汐ノ 津呂排水機場建屋建築工事
図 面 名				排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（5）
作成年月日				令和5年3月15日
縮 尺				NO SCALE 図面番号 S-07
構 造 設 計 者				会 社 名 株式会社 若 鈴
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛				事務所名 紀 北 町 役 場

- §7 柱
- 7-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置
- 継手はガス圧接、重ね継手を示し、それ以外の継手の仕様は構造図による。
 - Hoは柱の最大内法高さとする。
 - 柱主筋の定着は以下による。
 - 柱頭主筋の定着：柱に取り付け最も高い梁下端からL2以上かつ最も高い梁天端から15d以上とする。
 - 柱脚主筋の定着：柱に取り付け最も低い梁天端からL2以上かつ最も低い梁下端から15d以上とする。
 - カットオフ筋長さは以下による。
 - 柱頭カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も低い梁下端からHo/2+15d以上とする。
 - 柱脚カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も高い梁天端からHo/2+15d以上とする。

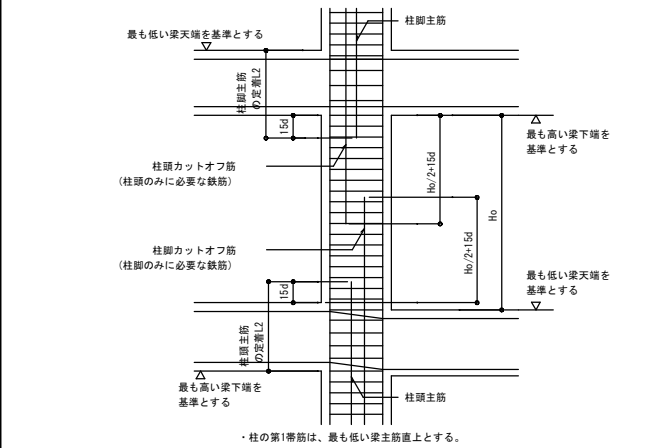


図7-1-1 柱主筋の定着およびカットオフ筋長さ

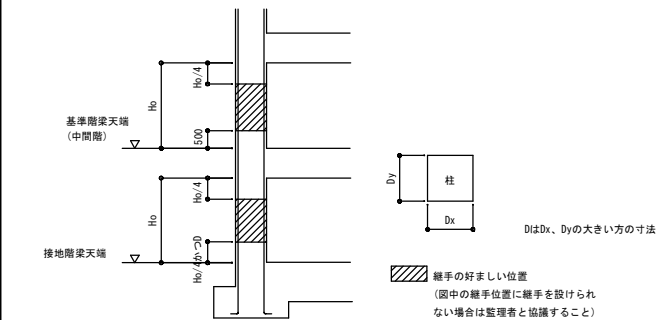


図7-1-2 継手位置

- 7-2 柱の仕口部(柱・梁接合部)
- 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。(図7-2-1)
 - 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。(図7-2-2)
 - 柱の仕口部帯筋の範囲は、図7-2-3による。
 - 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

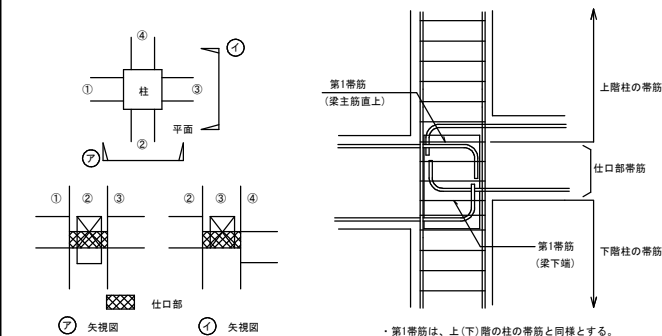


図7-2-1 柱の仕口部の範囲

図7-2-3 仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

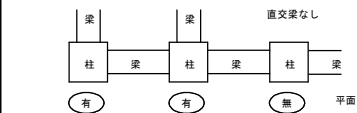


図7-2-2 柱仕口部範囲の有無

- 7-3 定着
- 柱部の定着は図7-3-1による。
 - 柱脚部の定着は図7-3-2、図7-3-3による。

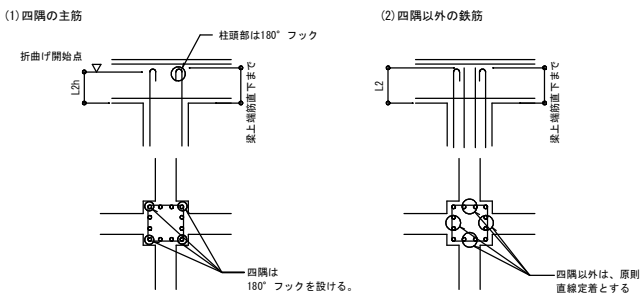


図7-3-1 最上階の柱の場合(中間階に上に柱のない場合)

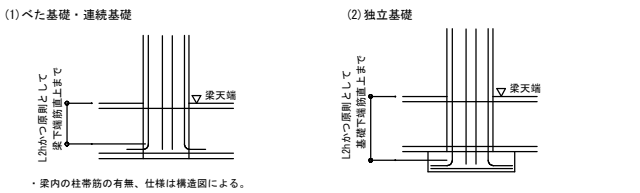


図7-3-2 最下階の柱の場合

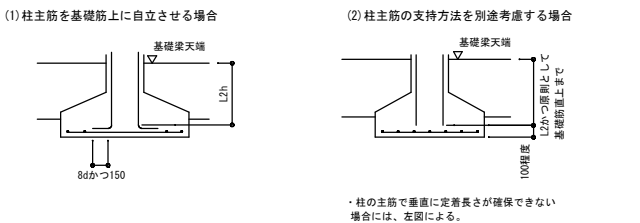


図7-3-3 最下階の柱主筋の定着と支持方法

- 7-4 柱主筋の折曲げ位置および帯筋
- 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内とする。(図7-4-1)
 - 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(図7-4-1)の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。

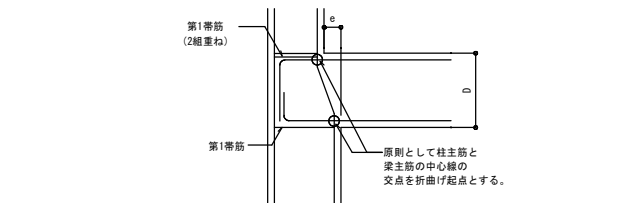


図7-4-1 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(柱のしぼり勾配 e/D≤1/6の場合)

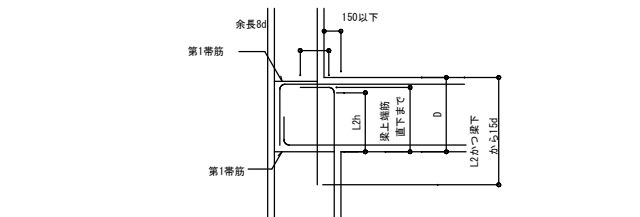


図7-4-2 柱主筋を通し筋としない場合(柱のしぼり寸法が150mm以下の場合)

- §8 大梁
- 8-1 大梁カットオフ筋長さおよび継手位置
- カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-1による。
 - 大梁継手位置は、図8-1による。

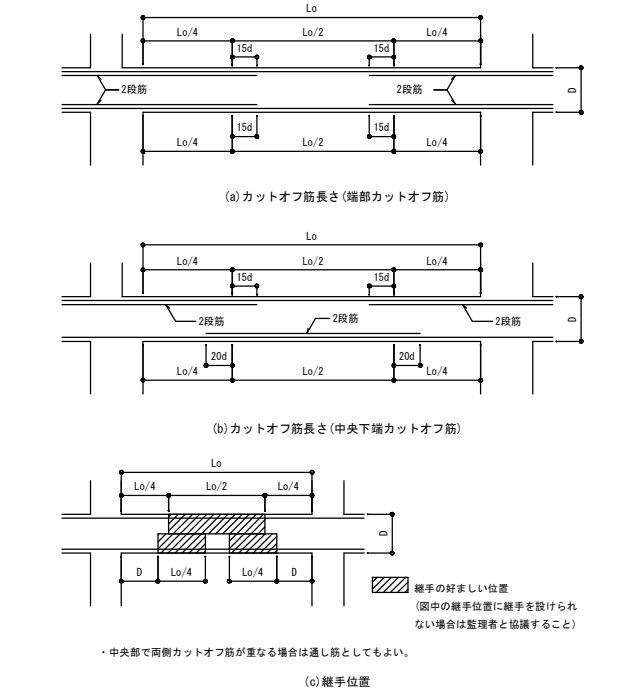


図8-1 大梁のカットオフ筋長さおよび継手位置

- 8-2 梁主筋の柱への定着
- 梁主筋の柱への定着は原則として折曲げ定着とし、定着要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-2-1、図8-2-2による。
 - 下端筋の定着は、曲上げを原則とする。曲上げ筋がおさまらず、曲下げとする場合(図中の破線)は、監理者と協議すること。

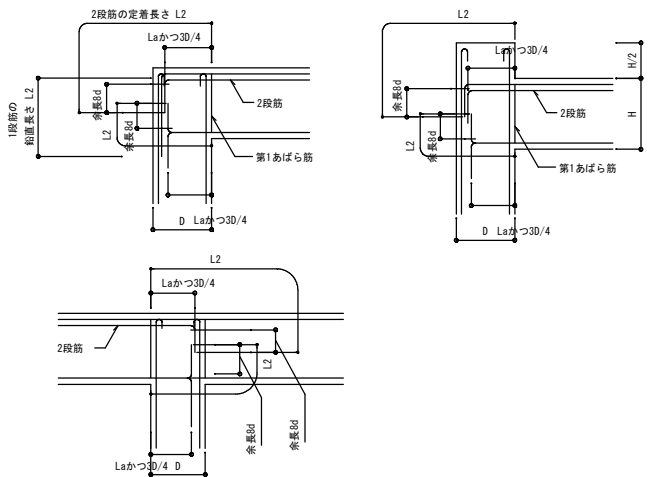


図8-2-1 最上階の場合(上に柱のない場合)

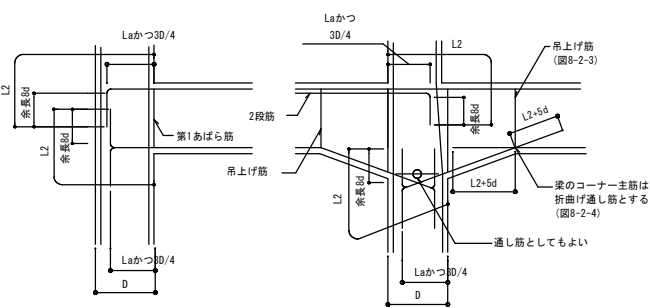


図8-2-2 中間階の場合

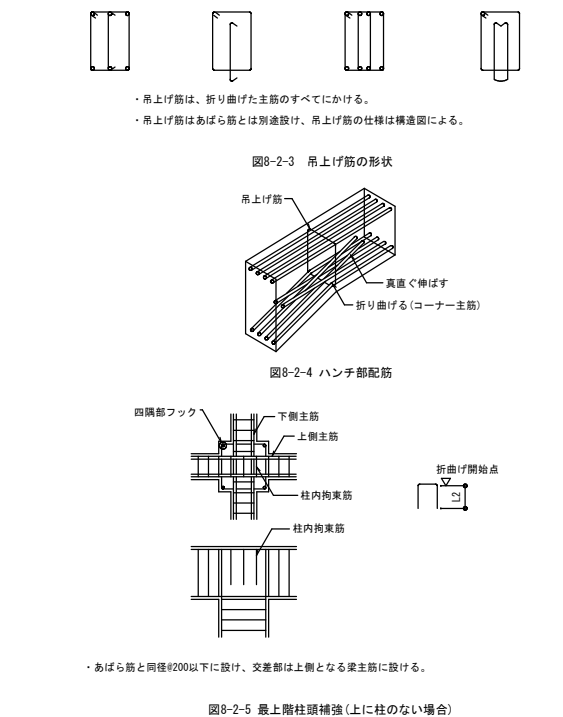


図8-2-5 最上階柱頭補強(上に柱のない場合)

- 8-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり
- 梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

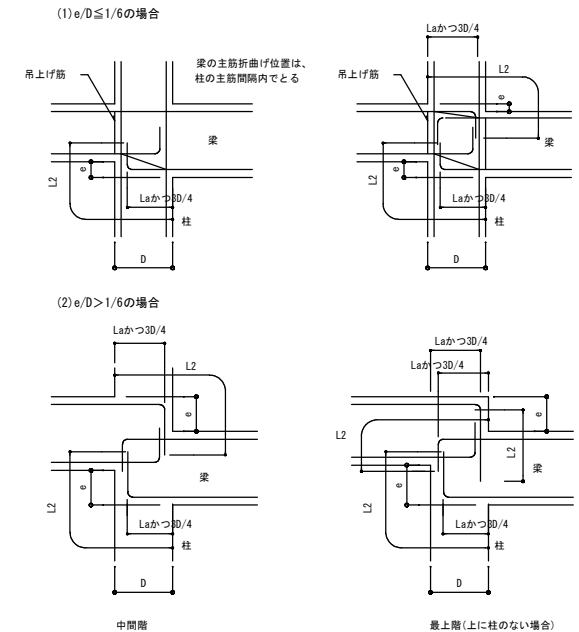


図8-3-1 鉛直方向にずれのある場合

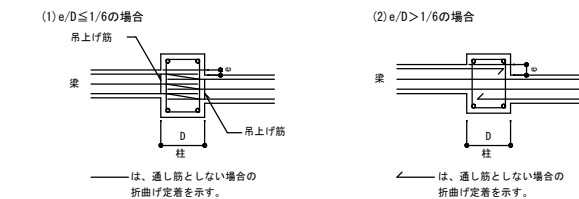


図8-3-2 水平方向にずれのある場合

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-08
構 造 設 計 者	シグマ構造システム株式会社		
会 社 名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

- 8-4 柱梁配筋概要図
1. 本図は §6～8に示す規定をラメン形に集約したものである。
 2. 最上階大梁は中央カットオフ筋、中間階大梁は端部カットオフ筋、基礎梁は端部カットオフ筋(タイプD)の配筋を示す。
 3. 柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。

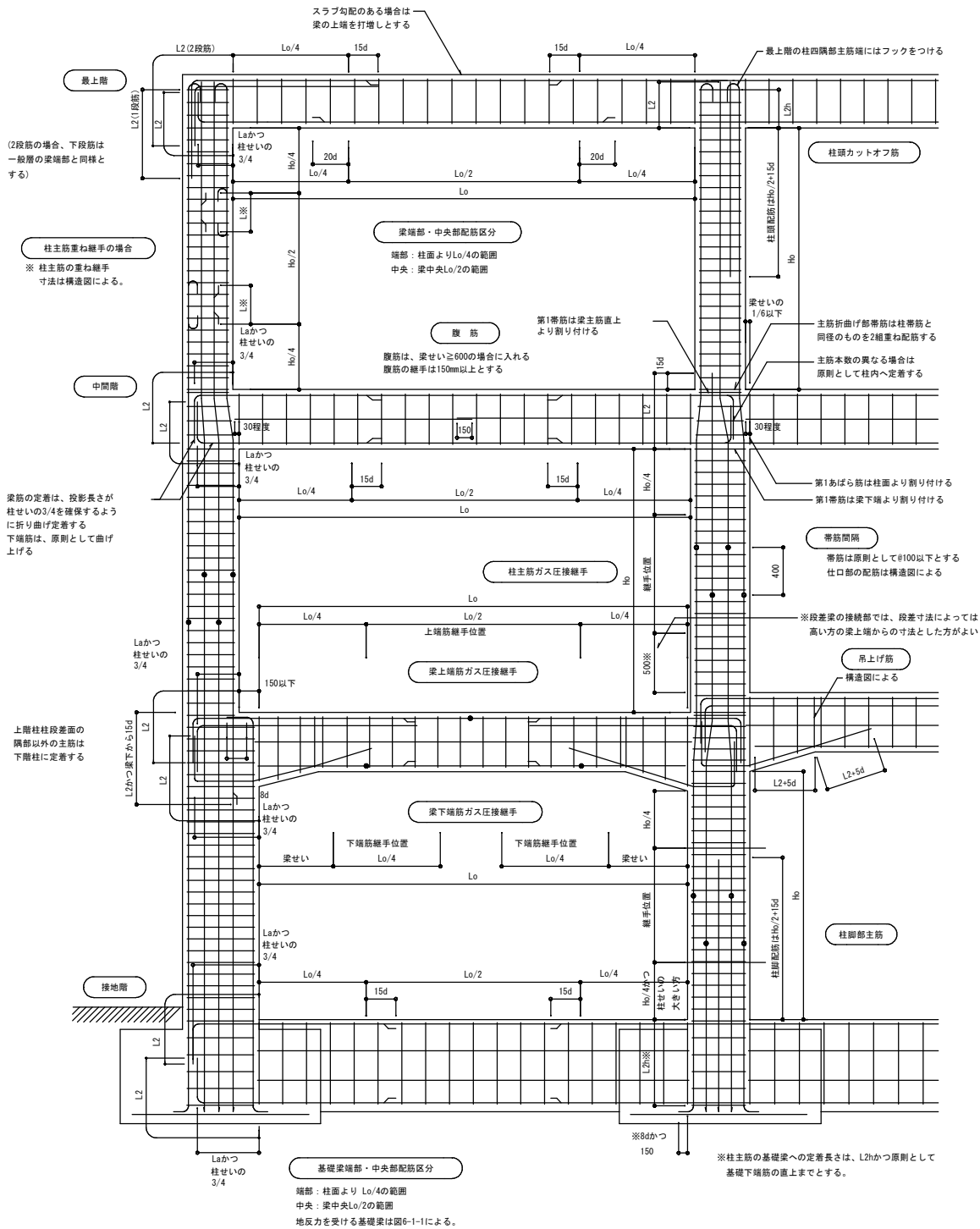
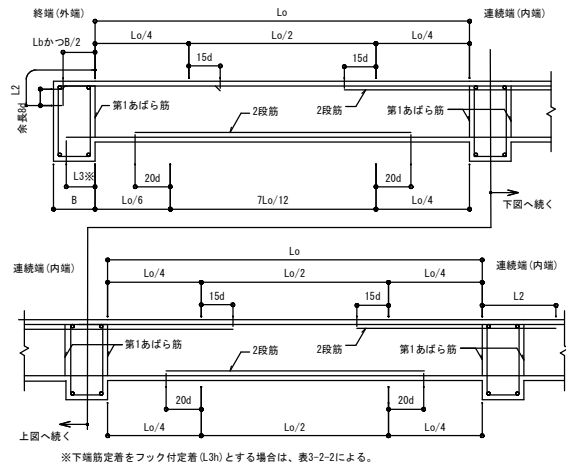


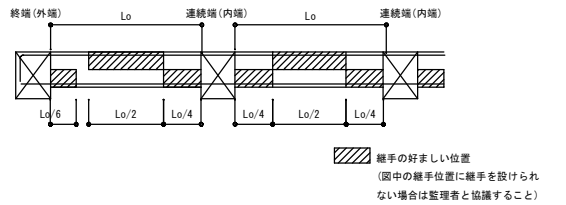
図8-4 柱梁配筋概要図

§9 小梁・片持ち梁

9-1 小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

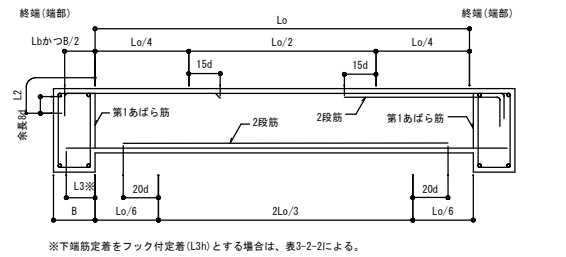


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

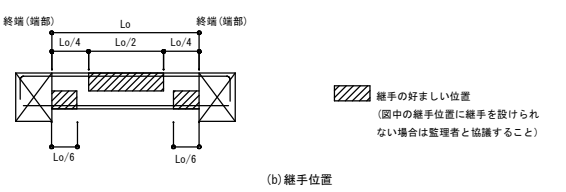


(b) 継手位置

図9-1-1 小梁(連続小梁)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図9-1-2 小梁(単独小梁)

9-2 小梁と大梁の取合い

1. 小梁主筋の定着で垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜め定着あるいは水平定着としてもよい。

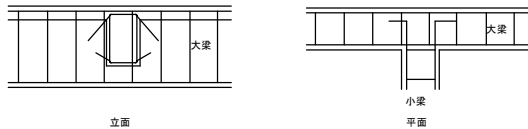


図9-2-1 小梁と大梁の取合い

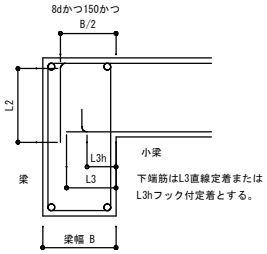
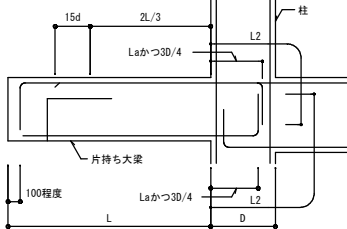


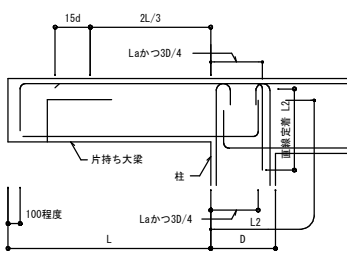
図9-2-2 幅の小さい梁への定着要領 (Lbが確保できない場合)

9-3 片持ち大梁・片持ち小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

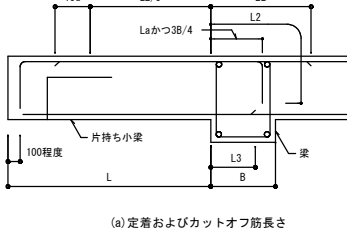
(1) 片持ち大梁(中間階)



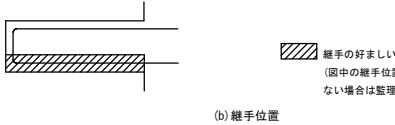
(2) 片持ち大梁(最上階)



(3) 片持ち小梁



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図9-3 片持ち梁

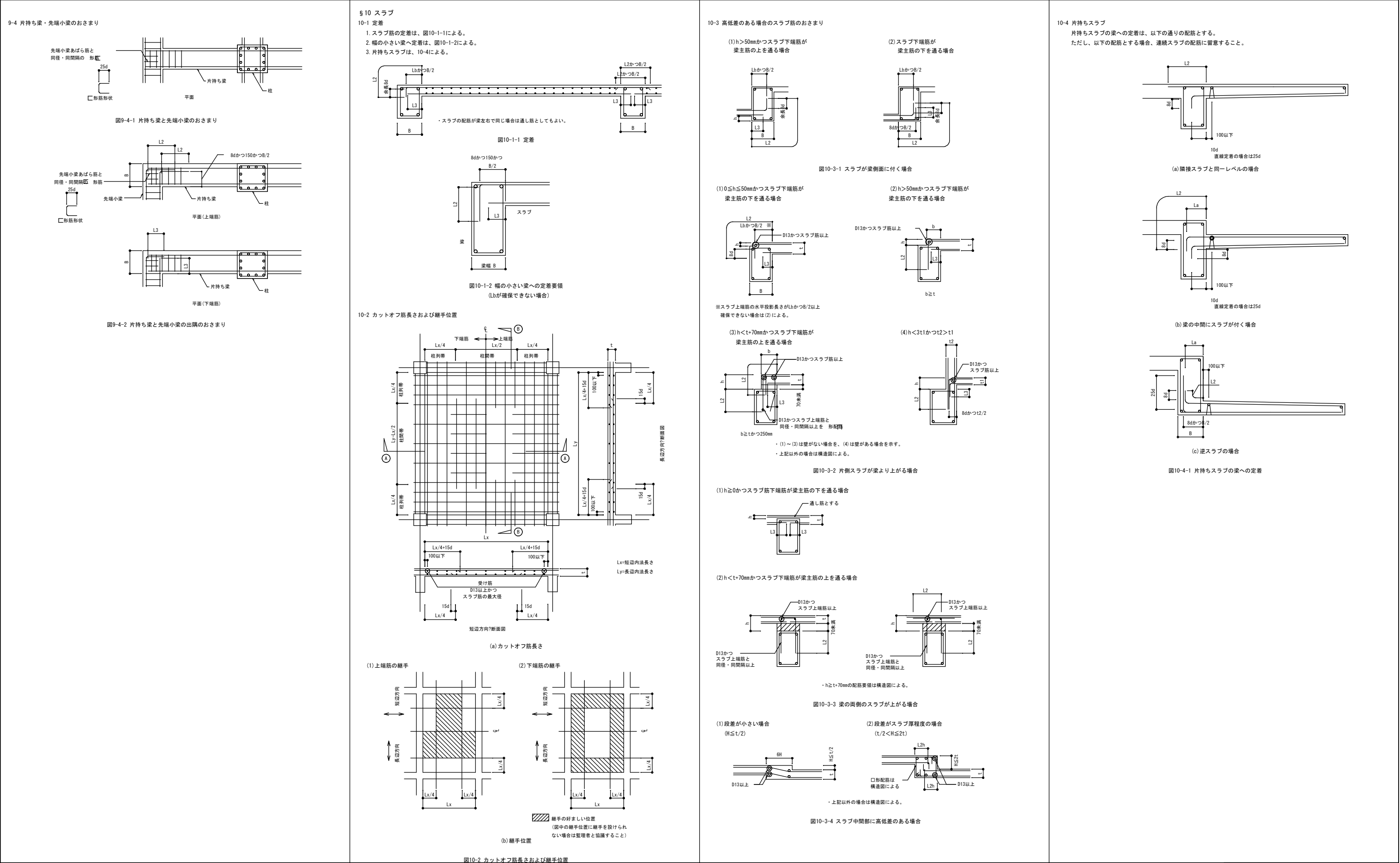
工 事 名 汐ノ津呂排水機場建屋建築工事

図 面 名 排水機場
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(7)

作成年月日 令和5年3月15日

縮 尺 NO SCALE 図面番号 S-09

構 造 設 計 者 シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	会 社 名	株 式 会 社 若 鈴	
	事務所名	紀 北 町 役 場	



10-3 高低差のある場合のスラブ筋のおさまり

(1) $h > 50\text{mm}$ かつ スラブ下端筋が 梁主筋の上を通る場合

(2) スラブ下端筋が 梁主筋の下を通る場合

図10-3-1 スラブが梁側面に付く場合

(1) $0 \leq h \leq 50\text{mm}$ かつ スラブ下端筋が 梁主筋の下を通る場合

(2) $h > 50\text{mm}$ かつ スラブ下端筋が 梁主筋の下を通る場合

※スラブ上端筋の水平投影長さがLbかつB/2以上 確保できない場合は(2)による。

(3) $h < t + 70\text{mm}$ かつ スラブ下端筋が 梁主筋の上を通る場合

(4) $h < 3t1$ かつ $t2 > t1$

・(1)～(3)は壁がない場合を、(4)は壁がある場合を示す。
・上記以外の場合は構造図による。

図10-3-2 片側スラブが梁より上がる場合

(1) $h \geq 0$ かつ スラブ筋下端筋が梁主筋の下を通る場合

(2) $h < t + 70\text{mm}$ かつ スラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合

図10-3-3 梁の両側のスラブが上がる場合

(1) 段差が小さい場合 ($H \leq t/2$)

(2) 段差がスラブ厚程度の場合 ($t/2 < H \leq 2t$)

・上記以外の場合は構造図による。

図10-3-4 スラブ中間部に高低差のある場合

10-4 片持ちスラブ

片持ちスラブの梁への定着は、以下の通りの配筋とする。
ただし、以下の配筋とする場合、連続スラブの配筋に留意すること。

(a) 隣接スラブと同一レベルの場合

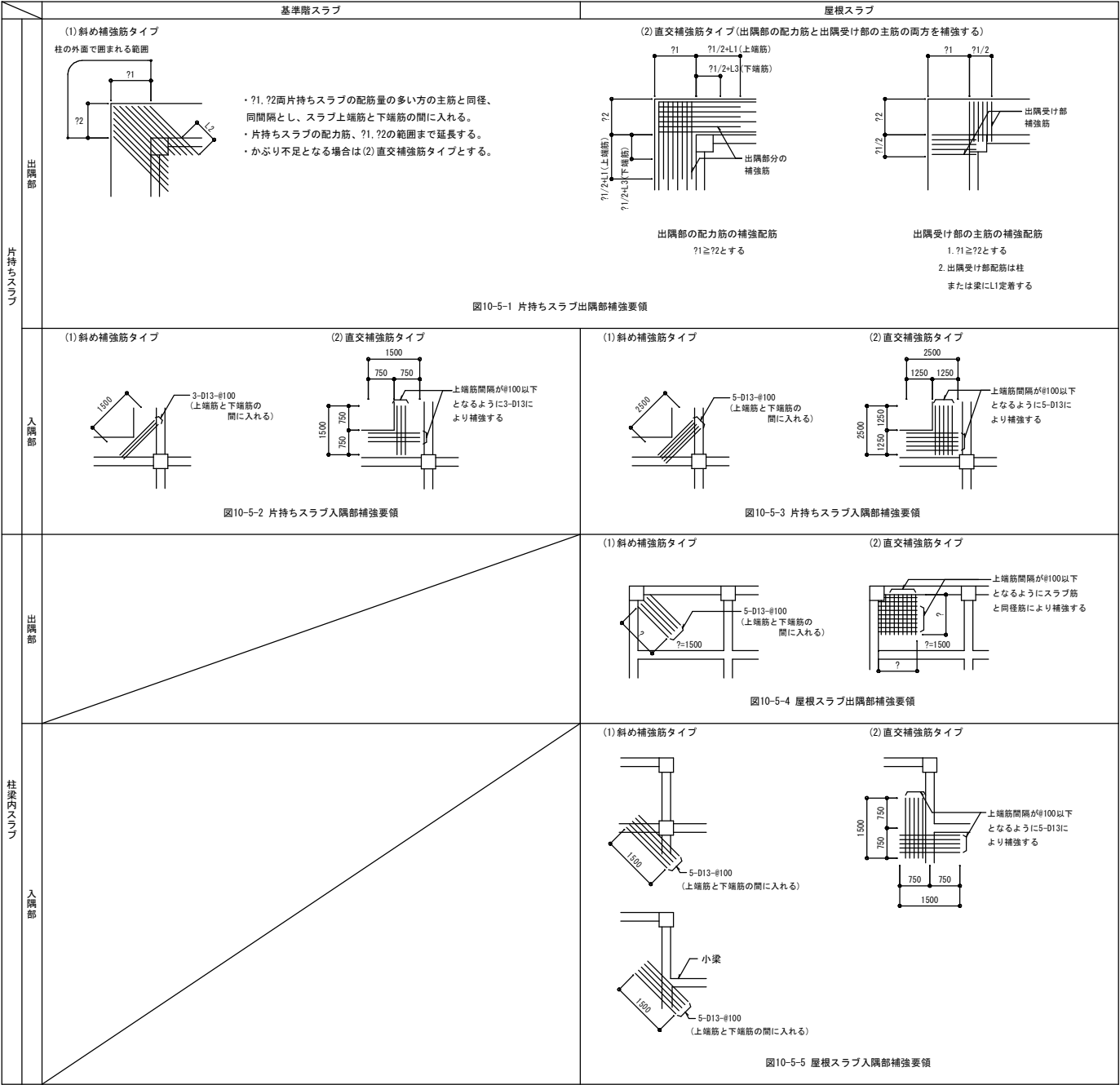
(b) 梁の中間にスラブが付く場合

(c) 逆スラブの場合

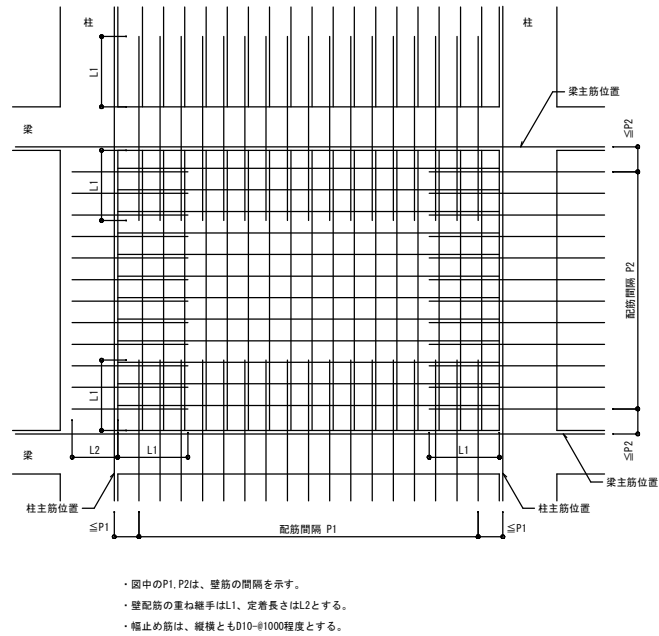
図10-4-1 片持ちスラブの梁への定着

構 造 設 計 者 シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
	図 面 名	排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（8）		
	作成年月日	令和5年3月15日		
	縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-10
	会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
	事務所名	紀 北 町 役 場		

- 10-5 補強筋
1. 片持ちスラブの出隅および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-1、図10-5-2、図10-5-3による。
2. 屋根スラブの出隅部および入隅部は構造図による。構造図の記載のない場合は図10-5-4、図10-5-5による。



- §11 壁
- 11-1 壁と柱・梁とのおさまり
1. 壁筋の継手は、壁内とし、柱・梁内に設けない。
2. 壁筋の柱・梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
3. 壁の第1横筋と縦筋は、柱面・梁面から100mm以下かつ柱主筋・梁主筋から設計間隔以内に配置する。



- ・図中の $P1$ 、 $P2$ は、壁筋の間隔を示す。
- ・壁配筋の重ね継手は $L1$ 、定着長さは $L2$ とする。
- ・幅止め筋は、縦横とも $\phi 10-\phi 1000$ 程度とする。

図11-1-1 定着と継手

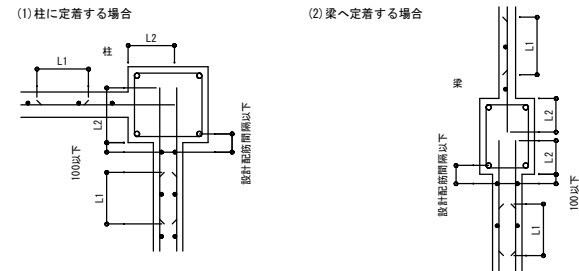


図11-1-2 帯筋、あばら筋内に配置する壁筋の定着方法

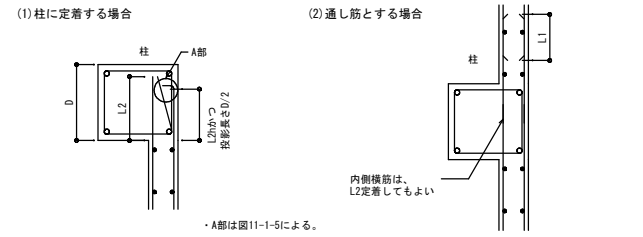


図11-1-3 柱主筋の外側を通る壁横筋の柱への定着方法

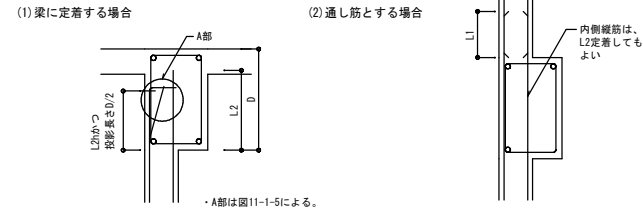


図11-1-4 梁主筋の外側を通る壁縦筋の梁への定着方法

- (1) 先端90° フックとする場合
- (2) 先端を斜めに折り曲げる場合
- ・壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90° フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋・あばら筋内に定着する。

図11-1-5 A部鉄筋折曲げ形状と寸法

- 11-2 壁とスラブとのおさまり
1. 縦補強筋は、 $\phi 13$ 以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
2. 横補強筋は、 $\phi 13$ 以上かつ壁横筋最大径以上とする。

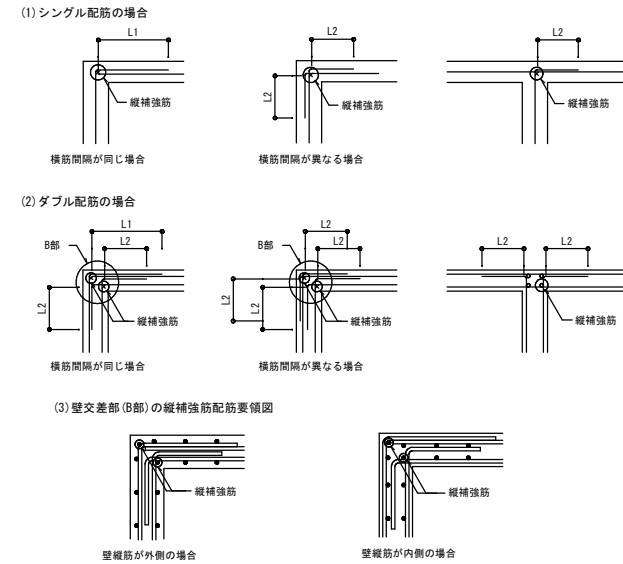


図11-2-1 壁端部と直交壁の接合部おさまり (L形・T形)

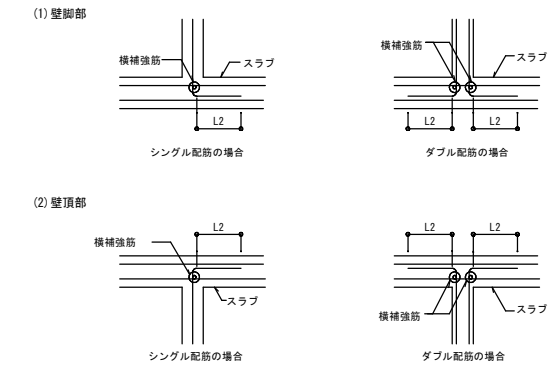
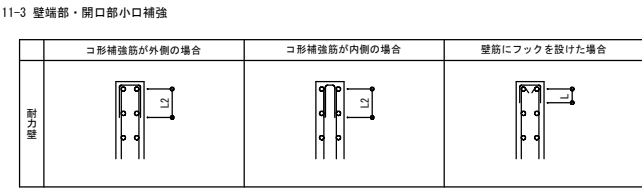


図11-2-2 壁とスラブの接合部おさまり



- (注) 1. 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径・同間隔とする。
2. $L1$ 寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は $15d$ とする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

図11-3 壁端部・開口部小口補強

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（9）		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-11
構 造 設 計 者	シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

11-4 地下外壁

1. 地下外壁壁筋の定着は、図11-4-1、図11-4-2、図11-4-3、図11-4-4による。

2. 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱・梁に設けない。(図11-4-5)

3. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1,e2寸法は構造図による。

4. e1,e2が70mm以上の打増し部補強は、表13-1、表13-2-1及び表13-2-2による。

5. 土に接する側の縦筋・横筋は原則として柱・梁主筋の外側を通す。

図11-4-1 柱とのおさまり

図11-4-2 梁とのおさまり

図11-4-3 壁上部のおさまり

図11-4-4 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり

図11-4-5 縦手位置

§ 12 開口補強

12-1 スラブおよび非耐力壁

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対するスラブ補強は、図12-1-1による。

2. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。

3. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げることで、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。

4. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対する非耐力壁の内壁の壁開口補強は、図12-1-2による。

5. 耐力壁、非耐力壁の外壁および開口が連続する壁の場合の開口補強は構造図による。

6. 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱・梁の部分には補強筋を省略できる。(図12-1-4、図12-1-5)

7. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げることで、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。

図12-1-1 スラブ開口補強

図12-1-2 非耐力壁の内壁開口補強

図12-1-3 単独円形小開口の配筋要領
(開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合)

図12-1-4 スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

図12-1-5 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１０）		
作成年月日	令和５年３月１５日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-12
構 造 設 計 者	会 社 名 株 式 会 社 若 鈴		
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	事務所名	紀 北 町 役 場	

ウルトラコラム工法 特記仕様書

§ 1. 工法概要

本地業は、ウルトラコラム工法による、地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、ウルトラコラム専用共回り防止翼（十字型）を装着した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

§ 2. 特記事項

本工事工法は、攪拌能力・攪拌径・品質（変動係数）に対して「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術審査証明取得工法とする。
また、事前にその証明書を管理者に提出し、認証を得ることとする。

§ 3. 一般事項

＜1＞施工業者
本工事の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、ウルトラコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。

＜2＞設計変更
コラム径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計図書による。
ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

§ 4. コラム仕様

＜1＞設計基準強度
コラムの設計基準強度は $F_c = 1300 \text{ kN/m}^2$ とする。

＜2＞固化材
固化材の配合は、原則として、改良部分の検査対象土を採取し、3種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。
※使用する固化材は、六価クロム等の土壤環境基準に適合することを確認する。

＜3＞配合強度
配合強度 X_f は、設計基準強度 F_c と変動係数・採取ヶ所数により割増係数 α_t を用いて、次式による。
$$X_f = \alpha_t \times F_c$$

割増係数 α_t は、合格率80%とした下表による。

採取ヶ所数 N		1	2	3	4～6	7～8	9～
変動係数 V_c	25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
	30%	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
	35%	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

＜4＞室内配合強度
室内配合強度 X_l は、配合強度 X_f を現場/室内強度比 α_{ft} で除して、次式による。
$$X_l = X_f / \alpha_{ft} \quad (\alpha_{ft} = 0.7)$$

＜5＞固化材液の配合

固化材添加量	300	kg/m ³
水/固化材比	70	%

§ 5. 施工管理

※施工手順書に沿って次の仕様で行う。

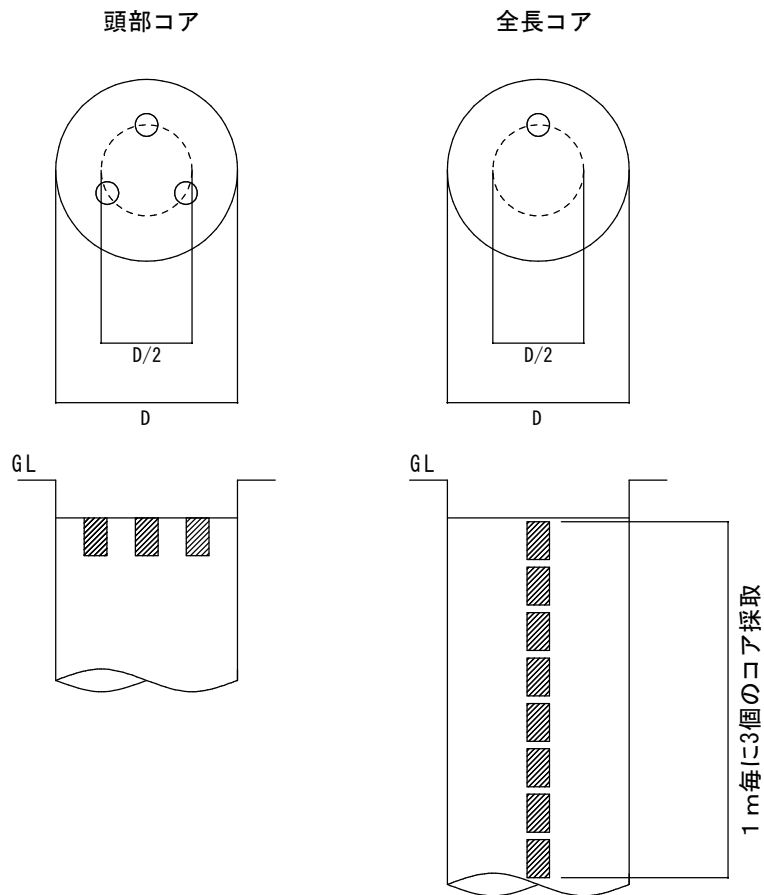
- ① 固化材スラリーの吐出量
- ② ロッドの鉛直性
- ③ オーガー回転数
- ④ 掘進深度・速度及び引上げ深度・速度
- ⑤ トルク値またはオーガー電流値

- ＜1＞調査ヶ所（検査対象層に対して）
- ① 検査対象層群は、概ねコラム300本を1単位とし、層厚50cm以上の土層毎に検査対象層を決める。
 - ② 検査対象層は（ 砂質土 ）であり設計対象層を（ 砂質土 ）とする。
 - ③ 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。
 - ④ 調査ヶ所数（検査対象群に対して）

検査手法A	頭部コア試験	1箇所
	全長コア試験	1箇所

※頭部コアは、1箇所当り3個のコア採取を標準とする。
※全長コアは、1m当り3個のコアを採取を標準とする。

＜2＞採取位置



＜3＞ボーリングコア採取率（連続性の確認）
コア採取率は、全長に対して砂質土系で95%以上、粘性土系で90%以上とし、1m当りのコア採取率は、砂質土系で、90%以上、粘性土系で85%以上とする。（塩ビ管などを代用する場合もある）

＜4＞合否の判定
①設計対象層についての採取ヶ所をNとする。1箇所あたり3個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。
②一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③検査手法Aによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（採取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定とする。
$$X_N \geq X_L = F_c + K_a \cdot \sigma_d = F_c + K_a \{ F_c \cdot V_d / (1 - 1.3 V_d) \}$$

X_N : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
 X_L : 合格判定値
 F_c : 設計基準強度
 K_a : 合格判定係数
 σ_d : 標準偏差
 V_d : 変動係数、品質確認書より想定する。
(合格判定係数)

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 K_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

＜5＞未固化改良体の比低抗測定
施工直後の改良体の攪拌混合状況を把握するために、比低抗の深度方向の分布を測定する。
検査数量は、1検査対象層群毎に1箇所以上かつ、50コラム毎に1箇所以上とする。

比低抗測定	2箇所
-------	-----

§ 7. 問い合わせ先 愛知ベース工業株式会社（連絡先：052-485-8381）

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 柱状地盤改良特記仕様		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-13
構 造 設 計 者	株 式 会 社 若 鈴		
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	会 社 名	紀 北 町 役 場	
	事務所名		

GH=3.30m
dep = 47.45 m





EL+1.50	(見下げ)
---------	-------

コラム 伏図





EL+4.10	(見下げ)
---------	-------

屋根伏図	(見下げ)
------	-------

- 特記なき限り下記による
- | | |
|----|---|
| 1. | 梁天端＝スラブ天端とする。 |
| 2. | スラブ天端は屋根勾配合わせとする。 |
| 3. |  : スラブ主筋方向を示す。 |
| 4. |  : 打増しコンクリートを示す。 |

改良コラム数量明細

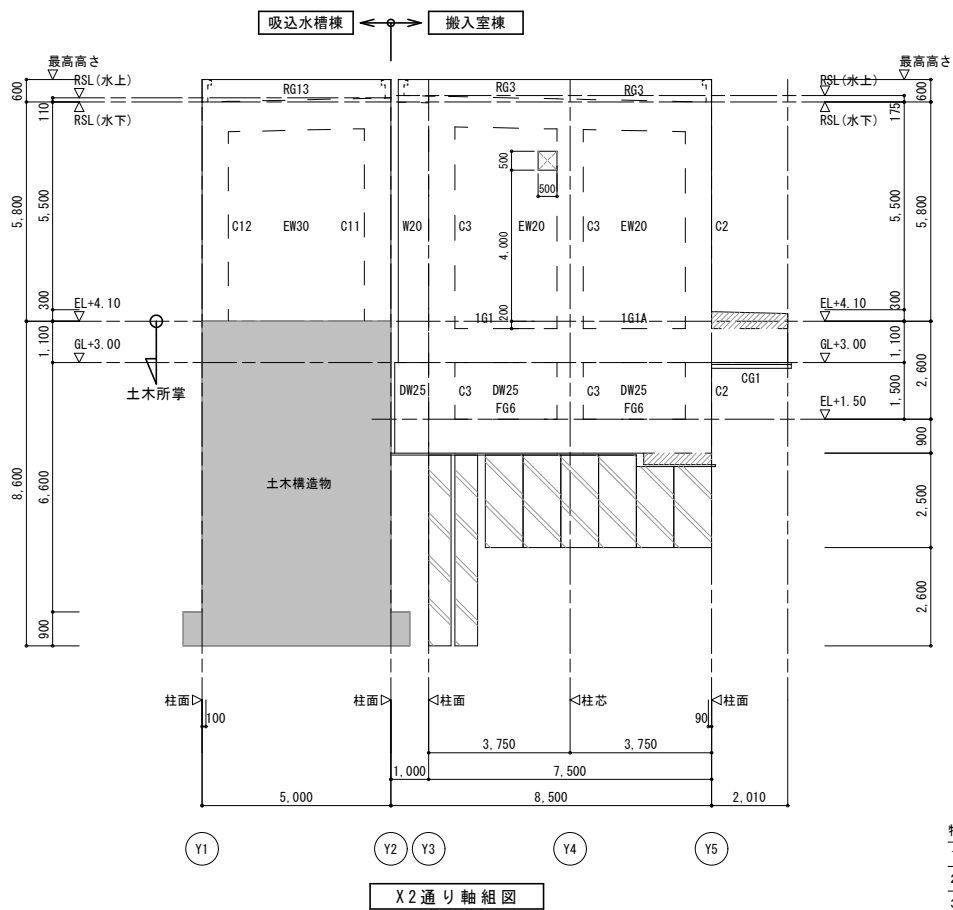
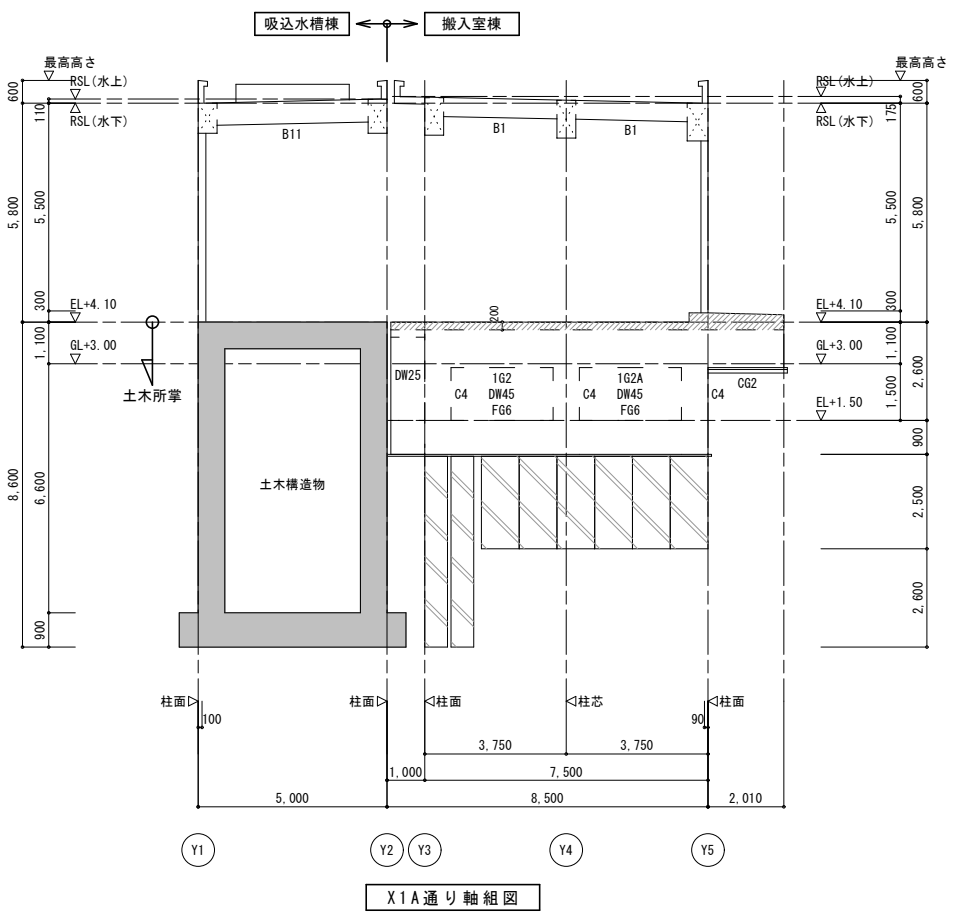
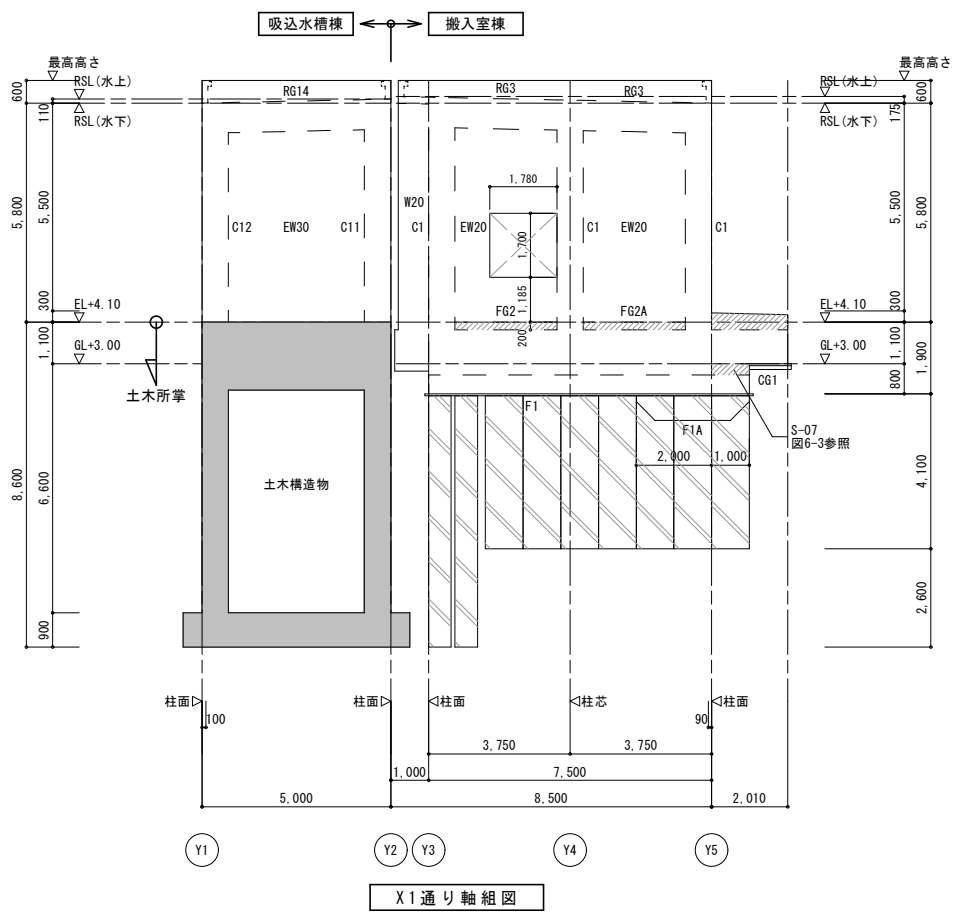
1) 設計基準強度: 1300kN/m^2 とする。

記 号					
コラム端	設計GL-0.85m	設計GL-0.85m	設計GL-2.45m	設計GL-2.75m	設計GL-2.45m
設計コラム長	4.05m	6.65m	2.45m	2.15m	5.05m
コラム数	14本	8本	26本	4本	18本
改良コラム径	φ 1,000mm	φ 600mm	φ 1,000mm	φ 1,000mm	φ 600mm

※設計GL=GL+3.00とする。

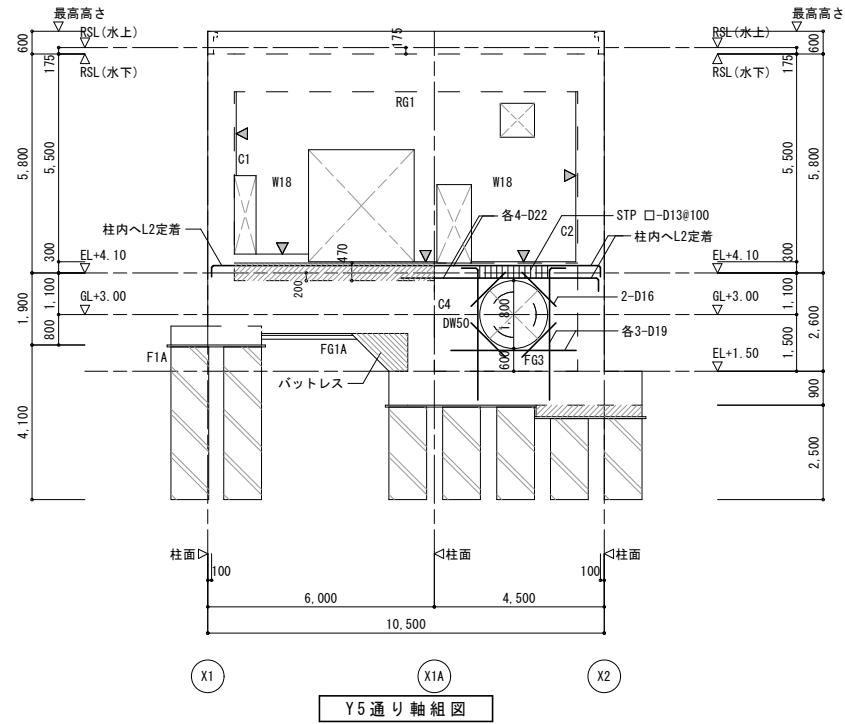
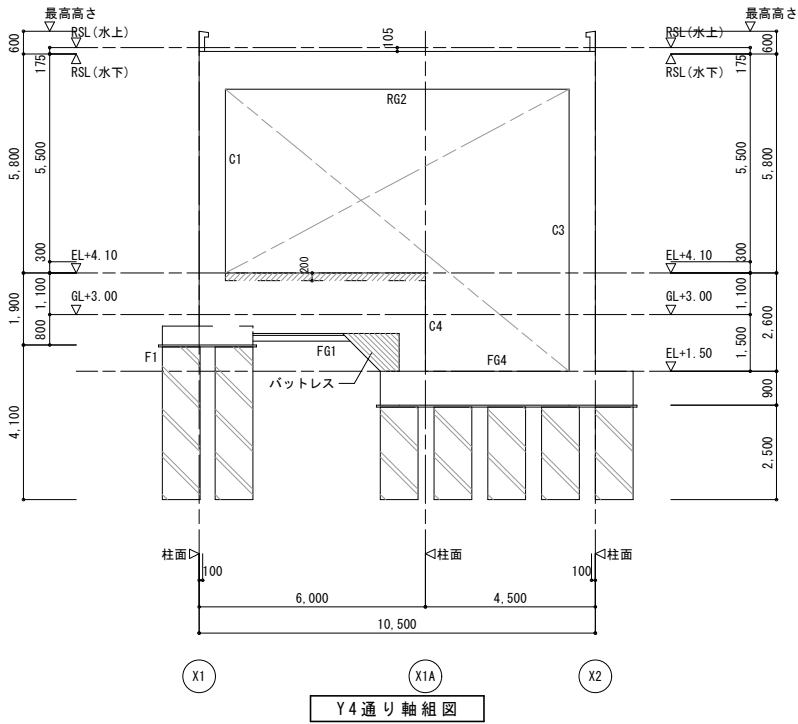
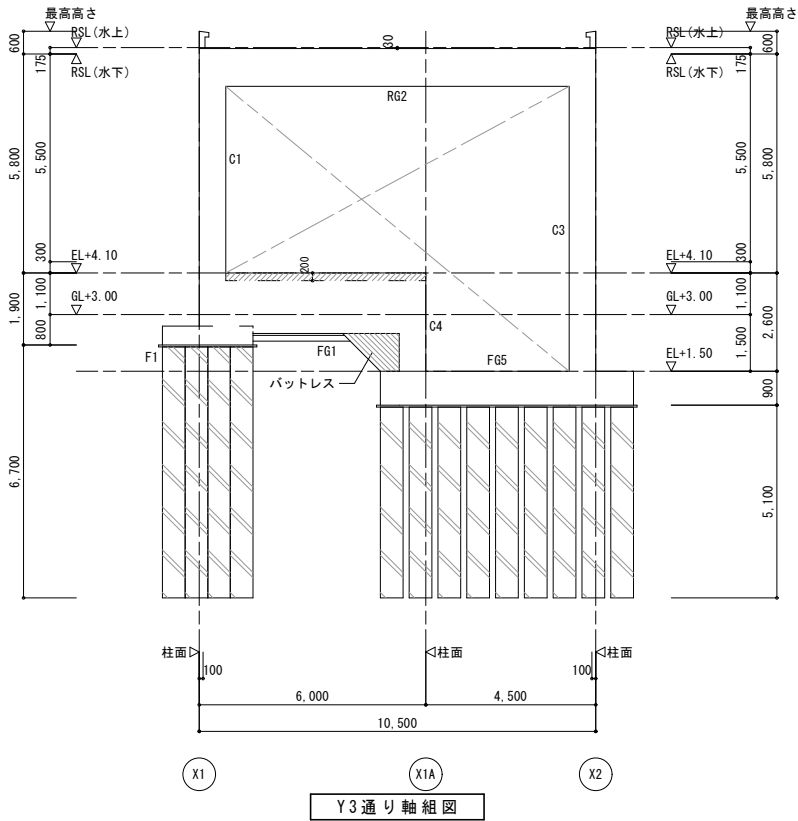
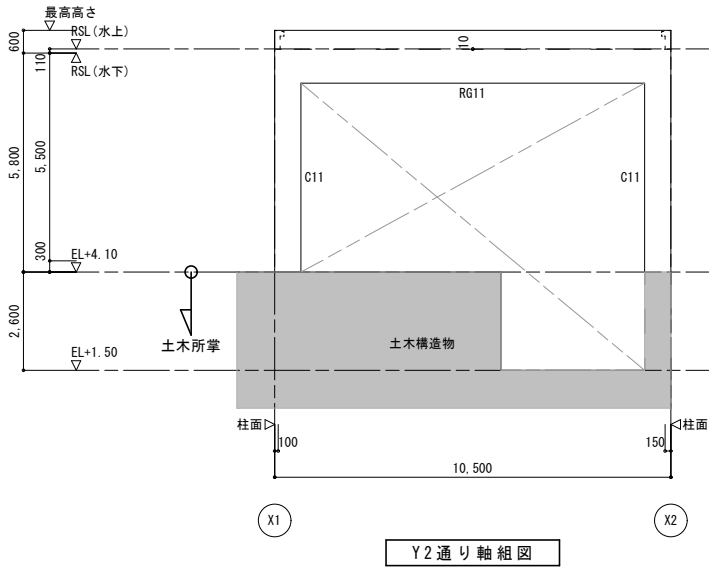
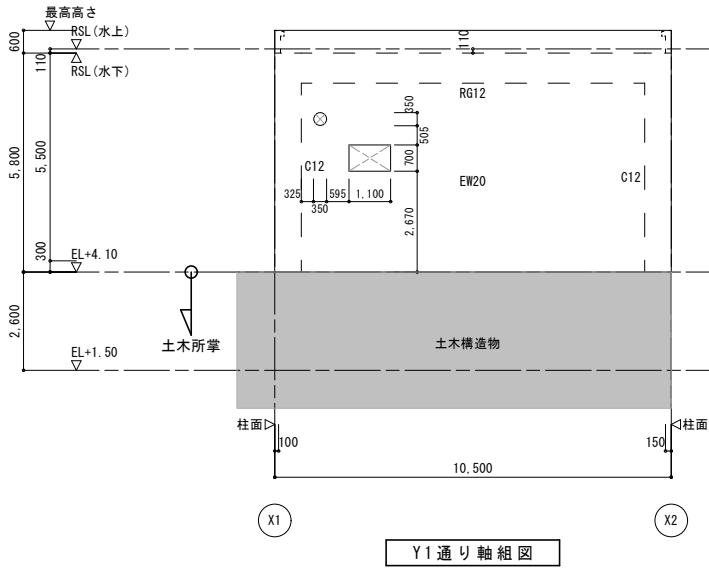
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 伏図		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	S-15
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

構造設計者
シグマ構造システム有限会社
一級建築士 第79432号 木村



- 特記なき限り下記による
1. : 構造スリットを示す。
 2. : 打増しコンクリートを示す。
 3. : 柱状地盤改良を示す。

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 軸組図 (1)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	S-16
構 造 設 計 者	シグマ構造システム株式会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

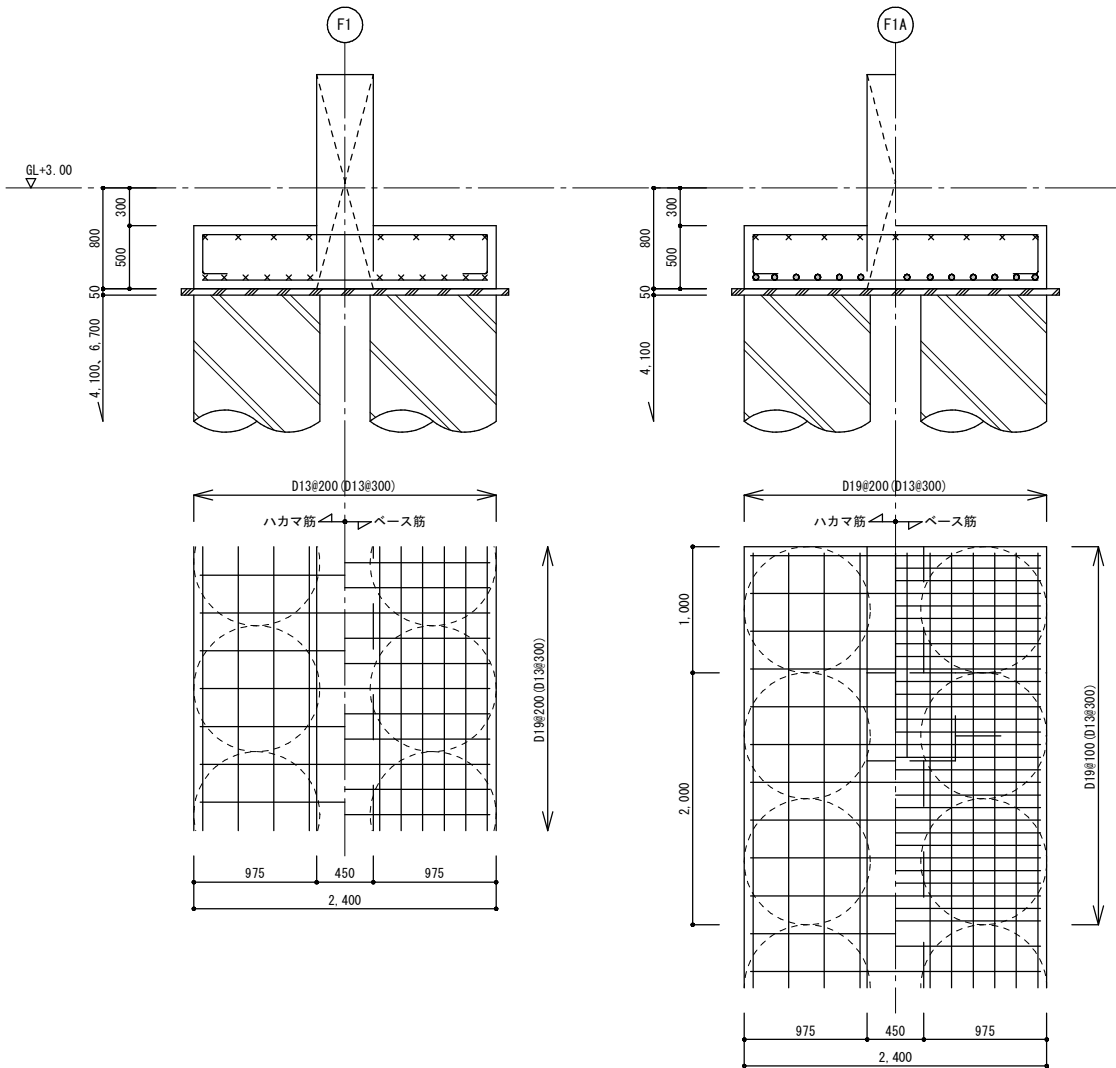


- 特記なき限り下記による
1. : 構造スリットを示す。
 2. : 打増しコンクリートを示す。
 3. : 柱状地盤改良を示す。

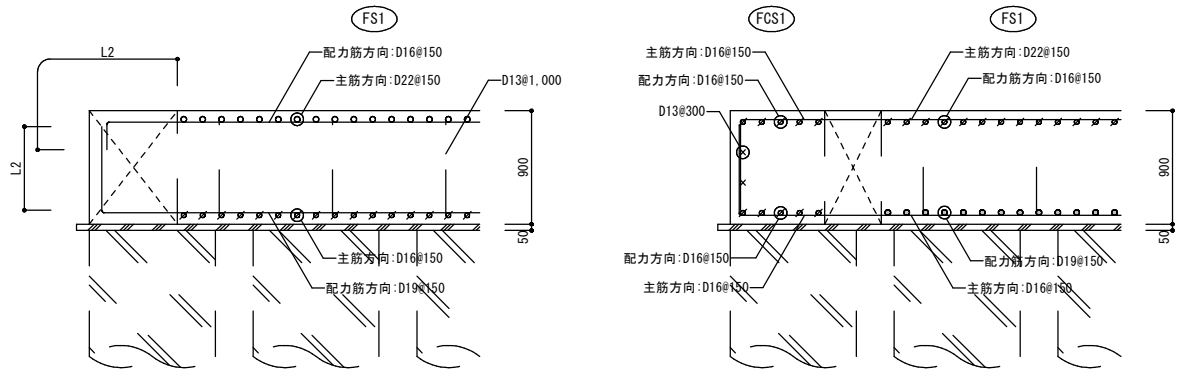
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 軸組図 (2)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:100	図面番号	S-17
構 造 設 計 者	株式会 社 若 鈴		
シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛	紀 北 町 役 場		

布基礎リスト

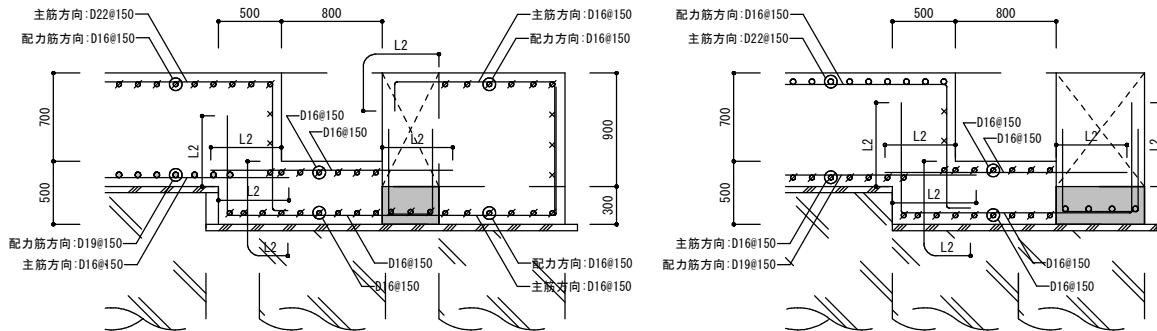
特記事項 1. ()内はハカマ筋を示す。



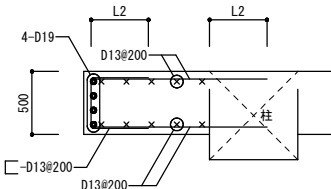
耐圧版配筋図



釜場補強配筋図



バットレス配筋図

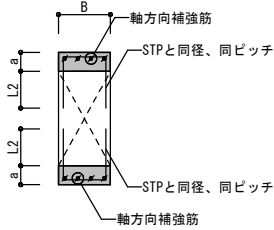


基礎梁リスト

符号	FG1・FG1A	FG2	FG2A		FG3	FG4	FG5	FG6		FB1	
位置	全断面	全断面	Y5 端	Y4 端・中央	全断面	全断面	全断面	全断面		Y4 端	他 端・中央
断 面											
	B x D	500 x 1,400	450 x 1,700	450 x 1,700	700 x 900	700 x 900	700 x 900	450 x 900		350 x 600	
	上端筋	5-D22	4-D22	4/3-D22	4-D22	7/4-D25	7/4-D25	4-D22		3/2-D19	3-D19
	下端筋	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D25	7-D25	4-D22		3-D19	3-D19
	S T P	□-D13 #150	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100		□-D10 #150	
腹 筋	6-D13	8-D13	8-D13	8-D13	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13		2-D10	
配筋タイプ	B2	A1	A1		A1	A1	A1	A1			

- 特記なき限り下記による
- 巾止め筋は、D10#1,000以下とする。
 - 段受け筋は、D10#1,000以下とする。
 - 梁主筋の柱内への定着長さは、40d以上とする。
 - 梁主筋の柱内への水平投影定着長さは、柱せいの 0.75 倍以上とする。

打増し補強 要領図



- 打増し寸法 a が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
- 軸方向補強筋は下記による。
B<400 : 3-D16
400≤B≤500 : 3-D19
500<B : 4-D22
※FG1Aは4-D22とする。
- 軸方向補強筋の定着はL2とする。

構 造 設 計 者	シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事
図 面 名	排水機場 基礎・基礎梁リスト
作成年月日	令 和 5 年 3 月 1 5 日
縮 尺	S=1:30
図面番号	S-18
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴
事務所名	紀 北 町 役 場

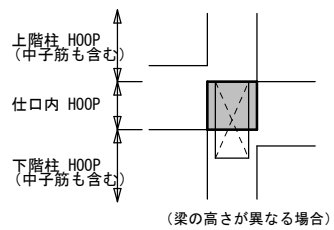
柱リスト

階	符 号	C1	C2	C3	C4	C11	C12
1	断面 Y ↑ X →						
	B x D	700 x 700	700 x 700	700 x 700	700 x 700	700 x 700	700 x 700
	主筋(柱頭)	16-D22	16-D22	14-D22	12-D22	14-D22	16-D19
	主筋(柱脚)	16-D22	16-D22	14-D22	12-D22	14-D22	16-D19
	HOOP	□-D13 #100	≡-D13 #100	□-D13 #100	≡-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100
	仕口HOOP	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100

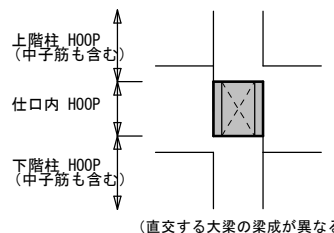
特記なき限り下記による

1. HOOPはタガ型とする。(溶接閉鎖型も可)
2. 中子筋は 135° 又は、 180° フックとする。
3. 最上階の柱主筋の定着はフック付定着とする。
4. 仕口部の範囲は右図を参照すること。

H00P 割付要領



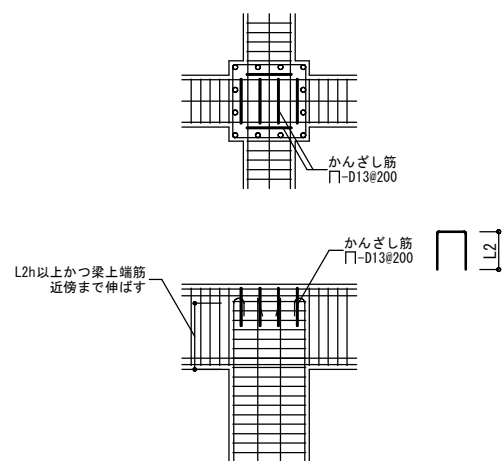
(梁の高さが異なる場合)



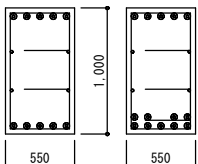
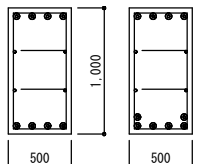
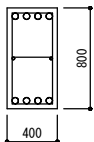
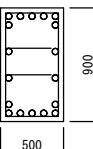
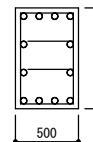
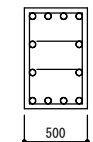
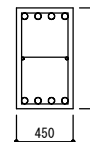
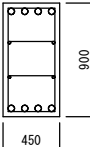
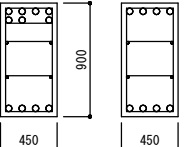
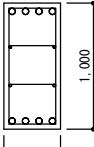
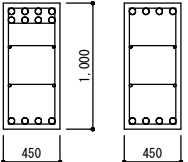
(直交する大梁の梁成が異なる場合)

※直交する大梁が無い場合は仕口H00Pとしないこと。

柱頭配筋 要領図



大梁リスト

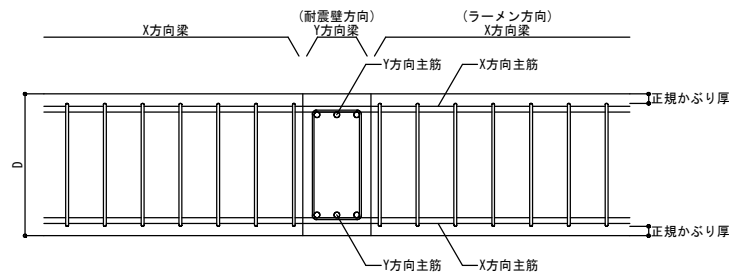
階	符号	RG1		RG2		RG3		RG11	RG12	RG13	RG14	
		位置	端 部	中 央	端 部	中 央	全 断 面		全 断 面	全 断 面	全 断 面	
R	断面											
		※カットオフ筋の余長は45dとする。						※腹筋の定着・継手は主筋に準じること。		※腹筋の定着・継手は主筋に準じること。		
	B x D	550 x 1,000		500 x 1,000		400 x 800		500 x 900	500 x 800	500 x 800	450 x 800	
	上端筋	5-D25		4-D25		4-D22		5/2-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
	下端筋	5-D25		4-D25		4-D22		5/2-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
	S T P	□-D13 #100		□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	
腹 筋	4-D10		4-D10		2-D10		4-D22	4-D22	4-D22	2-D10		
1	符号	1G1		1G1A		1G2	1G2A					
	位置	全 断 面		Y5 端	Y4 端・中央	全 断 面	Y5 端	Y4 端・中央				
	断面											
	B x D	450 x 900		450 x 900		450 x 1,000	450 x 1,000					
	上端筋	4-D22		4/3-D22	4-D22	4-D22	4/4-D22	4-D22				
	下端筋	4-D22		4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22				
	S T P	□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #150	□-D13 #150					
	腹 筋	4-D10		4-D10		4-D10	4-D10					

特記なき限り下記による

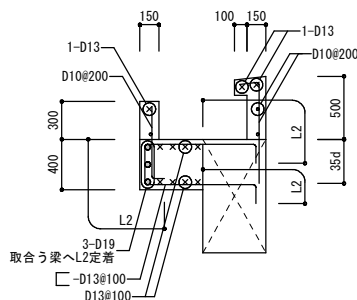
1. 巾止め筋は、D10≧1,000以下とする。
2. 段受け筋は、D10≧1,000以下とする。
3. 梁主筋の柱内への定着長さは、40d以上とする。
4. 梁主筋の柱内への水平投影定着長さは、柱せいの 0.75 倍以上とする。

大梁主筋配置要領

※相互の主筋が干渉する場合はラーメン方向の主筋位置を優先させること。(下図参照)
 ※レベル差等により相互干渉が無い場合は、正規のかぶり厚とすること。
 ※基礎梁も同様とする。













トップライト回り打増し配筋図



工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 柱・大梁リスト		
作成年月日	令和5年3月15日		
縮 尺	S=1:30	図面番号	S-19
会 社 名	株 式 会 社 若 錦		
事務所名	紀 北 町 役 場		

小梁リスト

符号	B1	B2			CG1		CG2		B11	B12	
位置	全 断 面	端 部	中 央		元 端	先 端	元 端	先 端	全 断 面	端 部	中 央
断 面											
B x D	300 x 500	300 x 700			450 x 900		450 x 1,000		400 x 600	300 x 600	
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19		4/3-D22	4-D22	4/4-D22	4-D22	4-D19	3-D19	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19	3/2-D19		4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D19	3-D19	3/1-D19
S T P	□-D10 #200	□-D10 #200			□-D13 #200		□-D13 #200		□-D10 #150	□-D10 #200	
腹 筋	—	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	

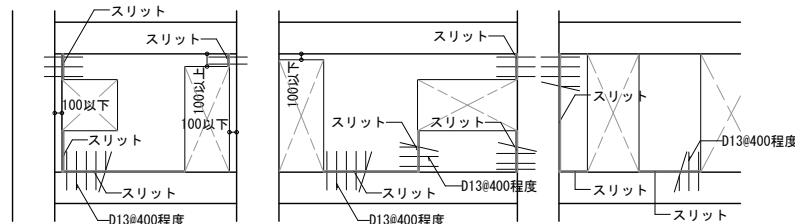
壁リスト

符 号	EW20	EW30	DW25	DW45	DW50	W18	W20
縦断面							
配筋タイプ	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル	ダブル
縦筋	D13 #200 (D)	D13 #200 (D)	D13 #200 (D)	D13 #150 (D)	D13 #100 (D)	D13 #100 (D)	D13 #200 (D)
横筋	D13 #200 (D)	D13 #200 (D)	D13 #200 (D)	D13 #150 (D)	D13 #150 (D)	D10 #200 (D)	D13 #200 (D)
開口補強筋	縦	—	—	—	3-D19	4-D16	—
	横	2-D16	—	—	3-D19	2-D13	—
	斜め	2-D13	—	—	2-D16	2-D13	—
端部補強筋	—	—	2-D16	—	—	—	2-D16
幅止筋	D10 #1,000	D10 #1,000	D10 #1,000	D10 #1,000	D10 #1,000	D10 #1,000	D10 #1,000
備考							

スラブリスト

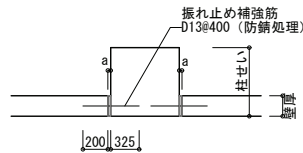
符 号	スラブ厚	短 辺 (主 筋 部 分)		方 向 中 央	長 辺 (配 筋 部 分)		方 向 中 央	備 考
		短 辺	筋 部		長 辺	筋 部		
S1	180	上端筋	D13 @200	←	D10, D13 @200	←	屋根	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
S2	180	上端筋	D13 @100	←	D10, D13 @200	←	屋根	
		下端筋	D13 @100	←	D10 @200	←		
S3	200	上端筋	D10, D13 @200	←	D10, D13 @200	←	1F	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
S3A	200	上端筋	D10, D13 @100	←	D10, D13 @200	←	1F	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
S4	300	上端筋	D13 @200	←	D10, D13 @100	←	外部搬入床	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
S11	150	上端筋	D10, D13 @200	←	D10, D13 @200	←	屋根	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
CS1	180	上端筋	D13 @200	←	D10, D13 @200	←	屋根	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←		
CS2	200	上端筋	D10, D13 @100	←	D10, D13 @200	←	1F	
		下端筋	D10 @100	←	D10 @200	←		
CS3	300	上端筋	D13 @100	←	D10, D13 @100	←	外部通路	
		下端筋	D10 @100	←	D10, D13 @100	←		
CS4	900	上端筋	D16 @150	←	D16 @200	←	1F	
		下端筋	D16 @150	←	D16 @200	←		
FS1	900	上端筋	D22 @150	←	D16 @150	←		
		下端筋	D16 @150	←	D19 @150	←		
FCS1	900	上端筋	D16 @150	←	D16 @150	←		
		下端筋	D16 @150	←	D16 @150	←		
特 記 事 項		・ S2短辺方向は下端筋もL2定着とすること。						

完全スリット要領



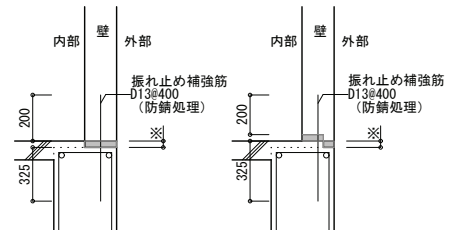
鉛直スリット要領例

- (1) スリット目地幅 a は、25mm以上かつ
壁高さの1/100値以上とする。
- (2) 端部補強筋はスリット部を貫通させないこと。
- (3) 耐火性、水密性、遮音性を確保できるスリットを使用すること。

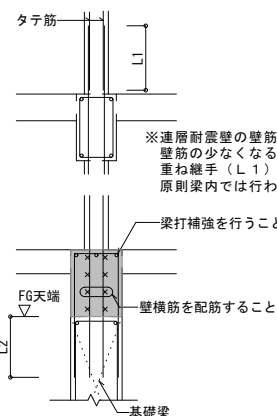


水平スリット要領例

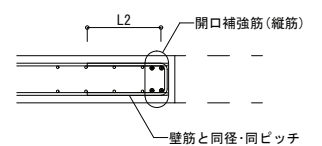
- (1) 水平スリットは、完全スリットとし、スリット幅は25mmとする。
- (2) 端部補強筋はスリット部を貫通させないこと。
- (3) 完全スリットは下図のいずれかによる。
- (4) ※部材はスリット材の厚さ以上とし、梁断面を欠損させないこと。
- (5) 耐火性、水密性、遮音性を確保できるスリットを使用すること。



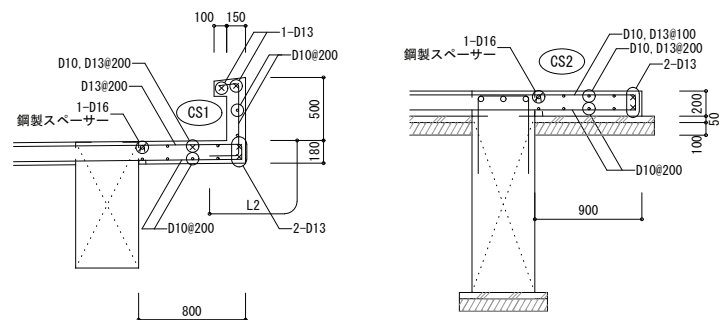
耐震壁(EW)継手要領



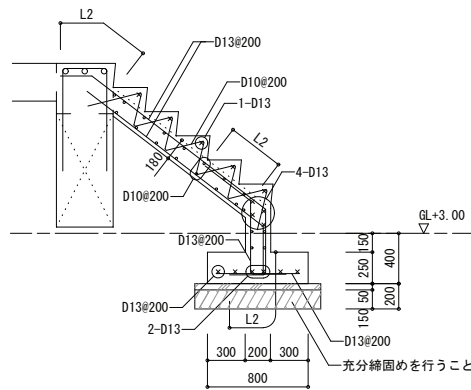
EW・DW開口端部補強要領



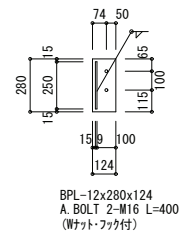
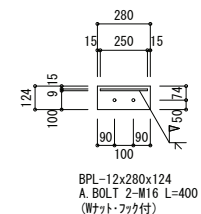
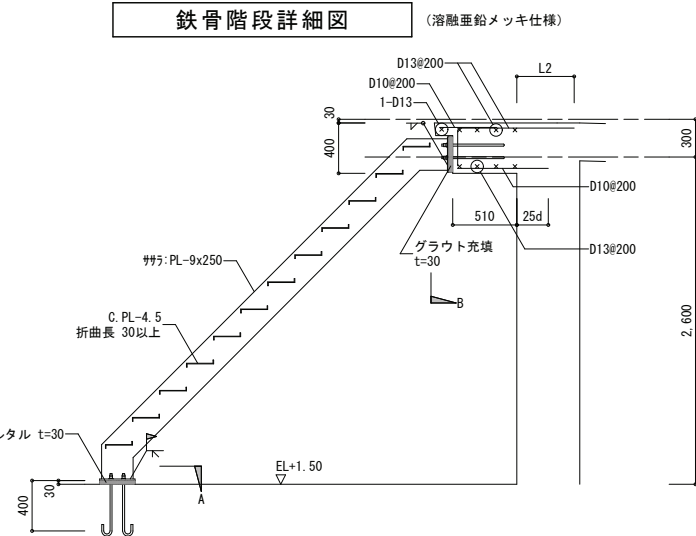
CS1, CS2配筋图



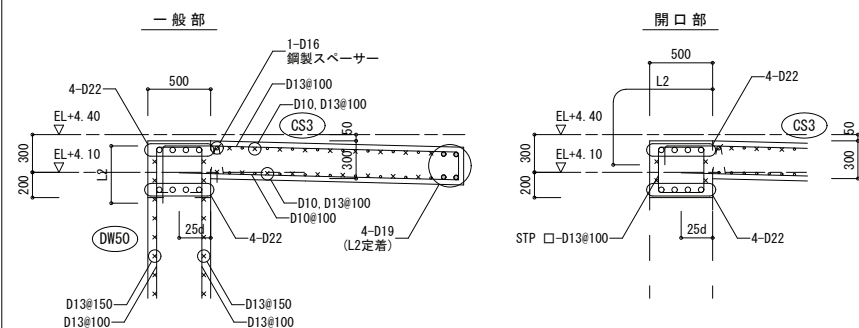
外部階段配筋図



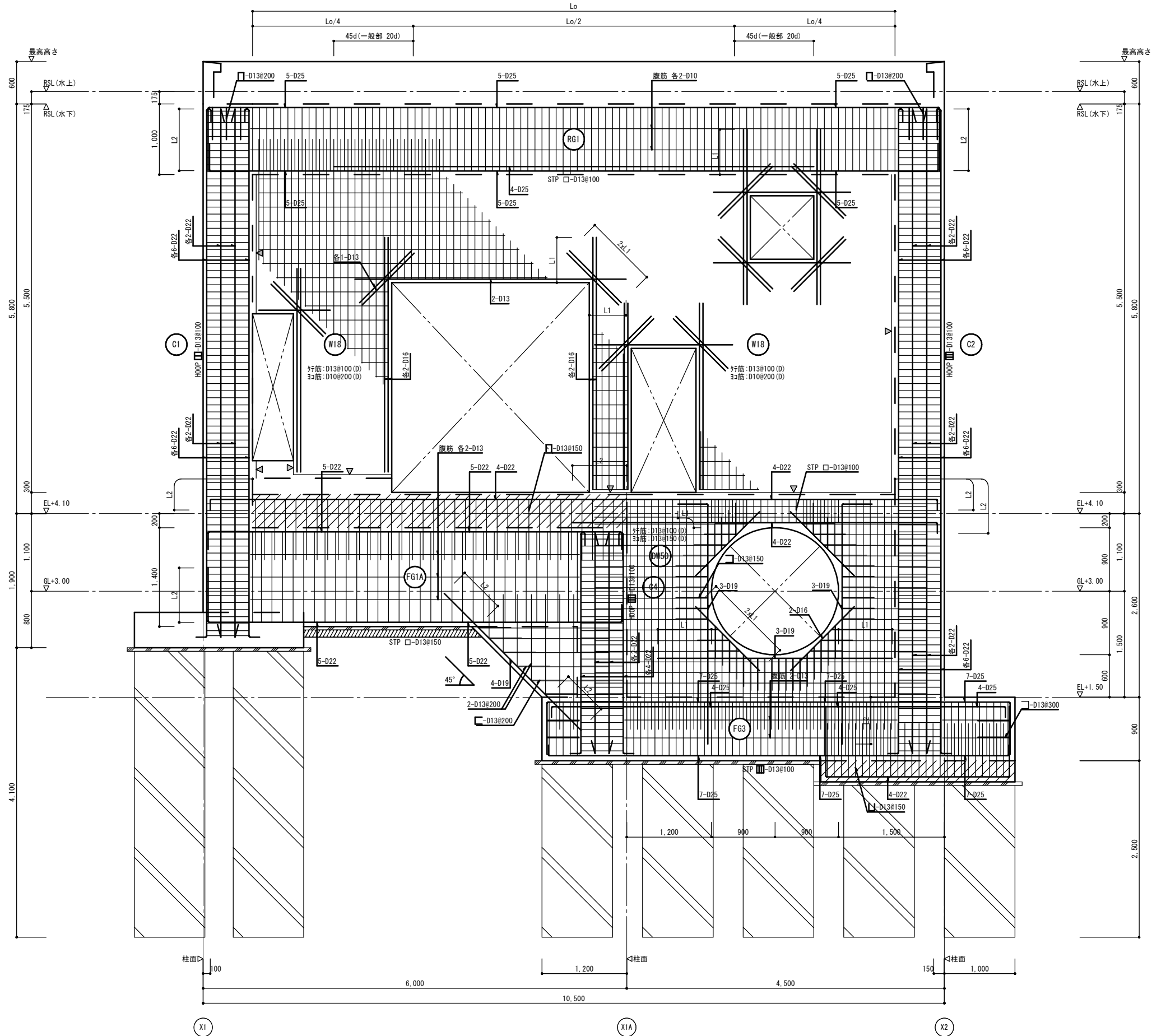
鉄骨階段詳細図



CS3, DW50接合部配筋図



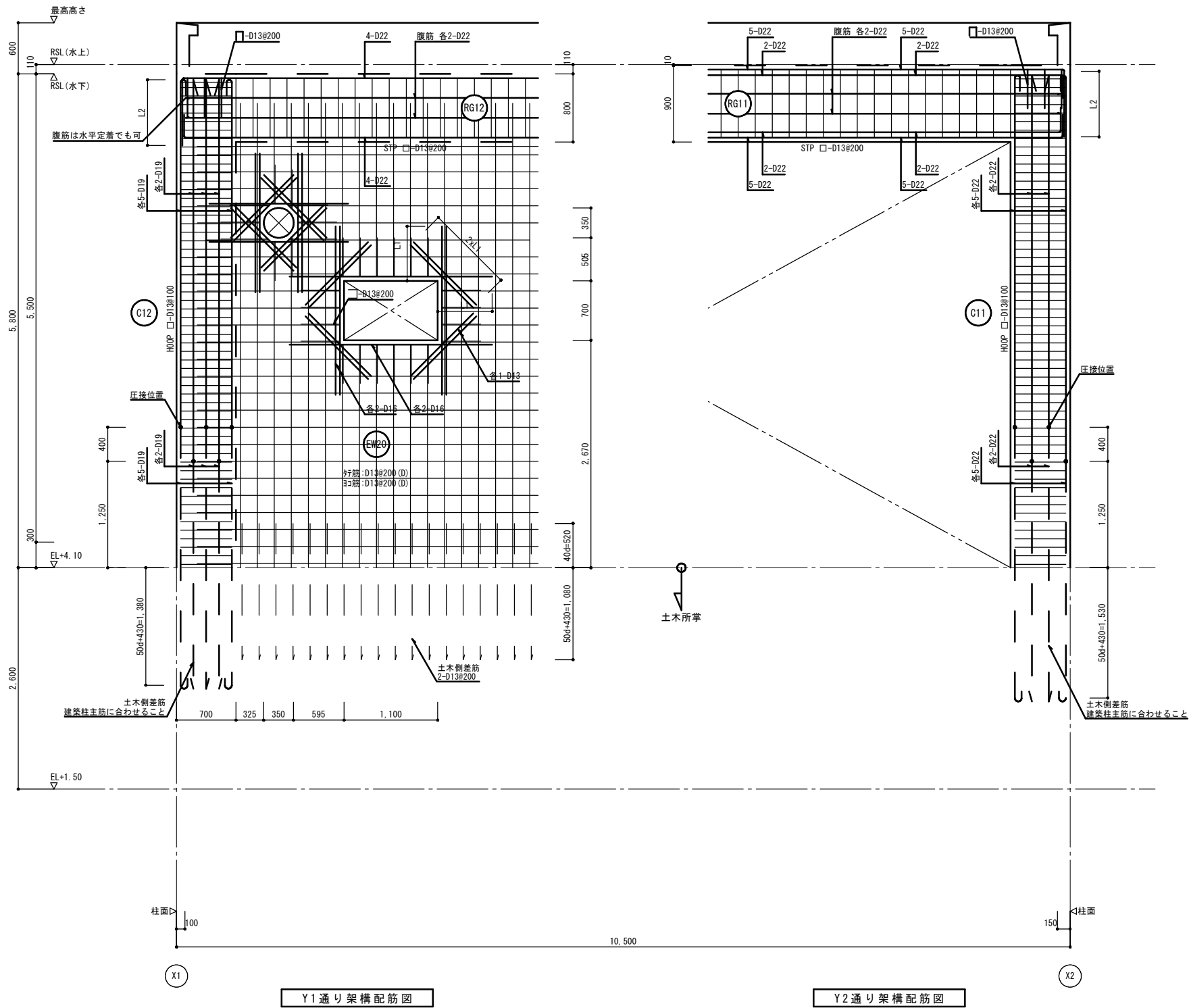
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 小梁・スラブ・壁リスト		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:30.20	図面番号	S-20
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		



Y5通り架構配筋図

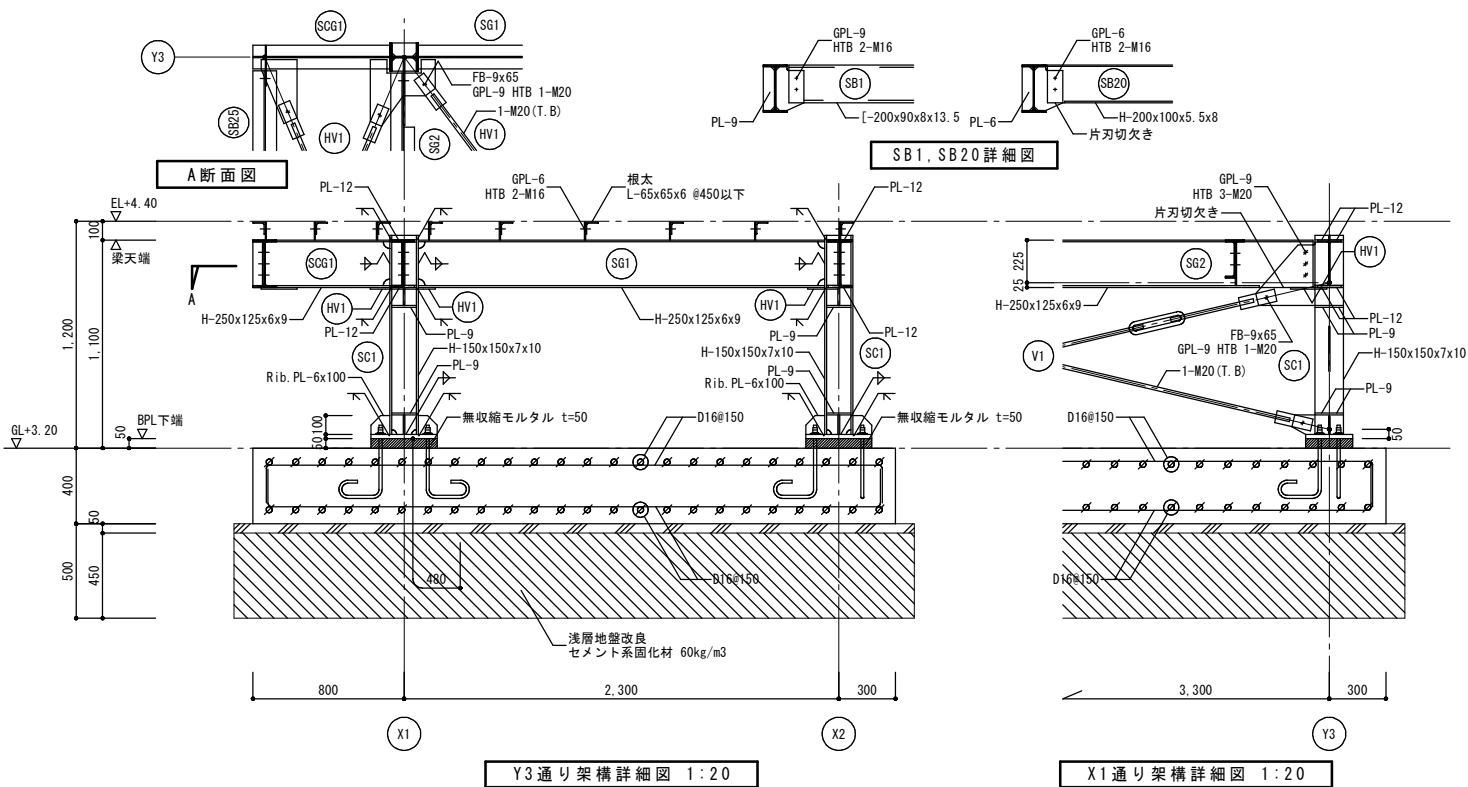
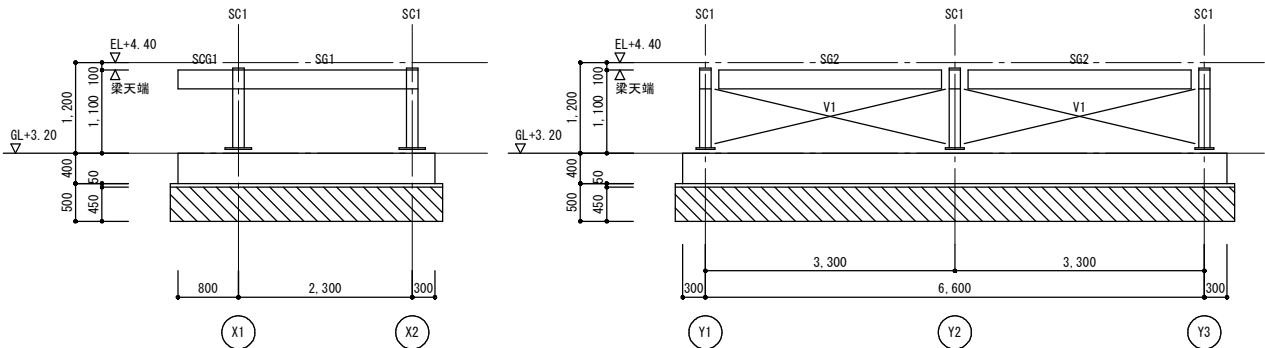
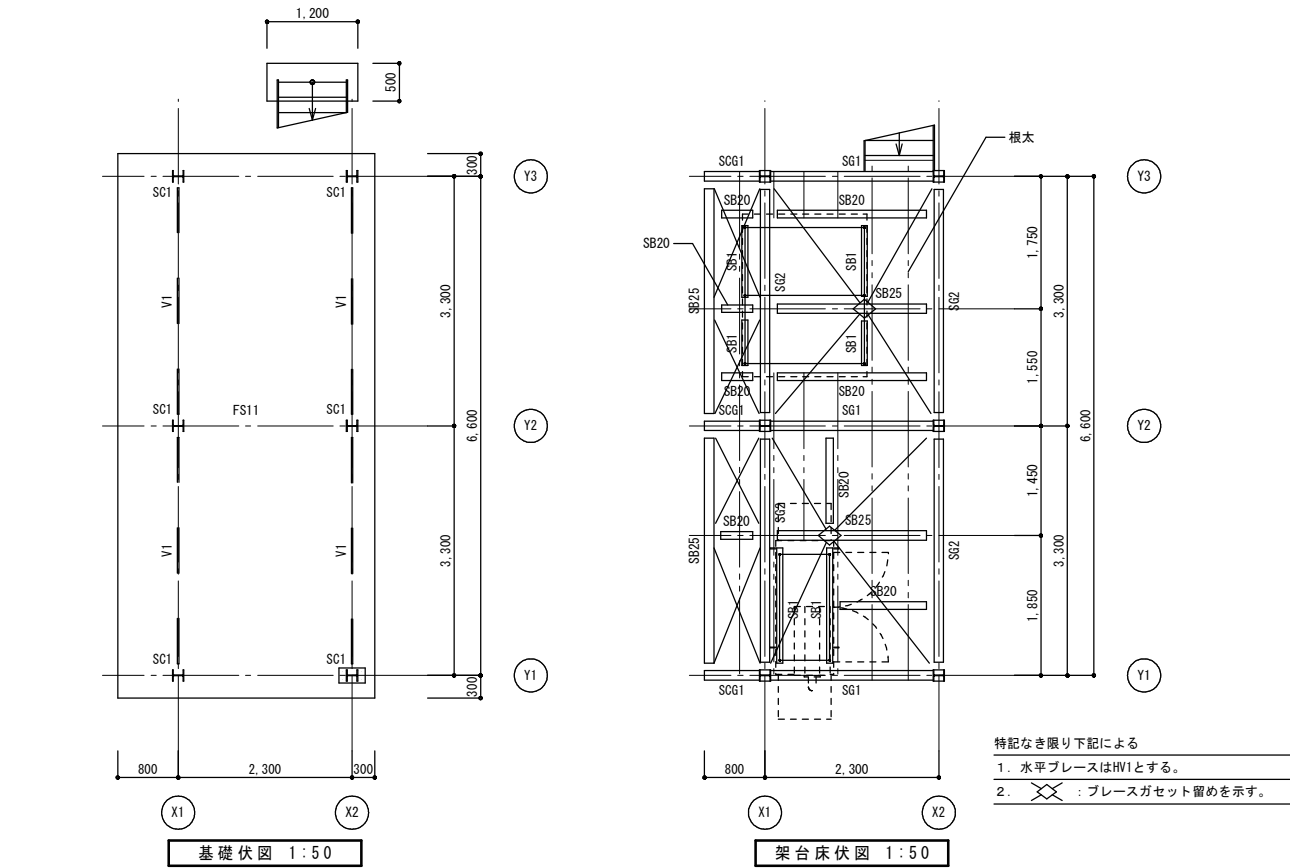
- 特記なき限り下記による
- 最上階の柱主筋の定着は7ヶ付定着とする。
 - 梁主筋の柱内への定着長さは、40d以上とする。
 - 梁主筋の柱内への水平投影定着長さは
柱せいの0.75倍以上とする。
 - ▼ : 構造スリットを示す。
 - 斜線 : 打増しコンクリートを示す。
 - 斜線 : 柱状地盤改良を示す。

工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 架構配筋図（１）		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:30	図面番号	S-21
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		



- 特記なき限り下記による
1. 最上階の柱主筋の定着はフック付定着とする。
 2. 梁主筋の柱内への定着長さは、40d以上とする。
 3. 梁主筋の柱内への水平投影定着長さは
柱せいの 0.75 倍以上とする。

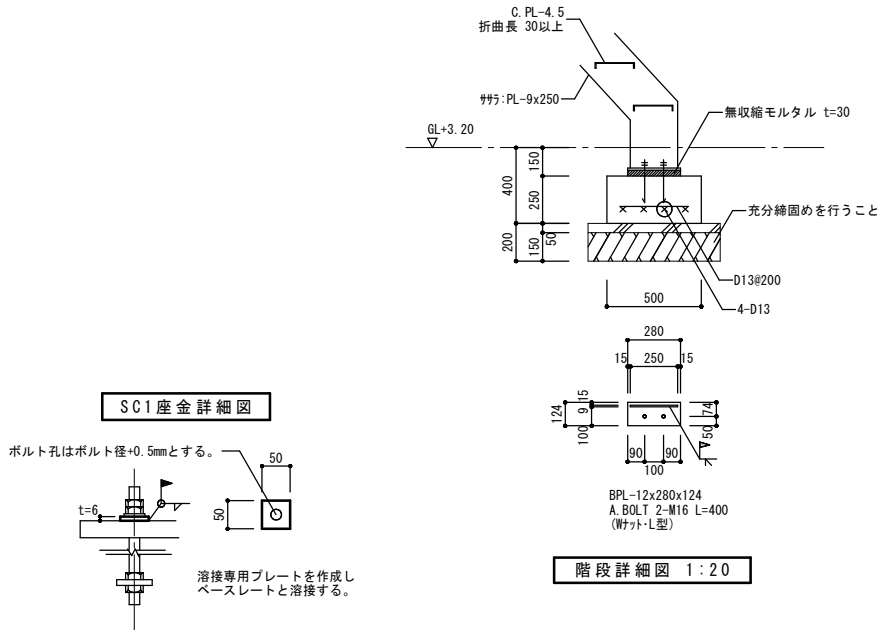
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 架構配筋図 (2)		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:30	図面番号	S-22
構 造 設 計 者	会 社 名	株 式 会 社 若 鈴	
	事務所名	紀 北 町 役 場	



柱リスト 1:20				
特記事項	1. 特記なき鋼材は、SS400とする。 2. A. BOLTの長さ(L)はB. PL下端から定着板上端及びフック始端までの長さとする。			
符 号	SC1			
1 階	H-150x150x7x10			
断 面				
B. PL	BPL-22x350x200 (SN490C) Rib. PL-6x100			
A. BOLT	4-M16 L=480			
G. PL	DN・フック付			
H.T.B				
柱 材	SS400			

鉄骨部材リスト		1. 特記外はSS400とする。 2. 溶融亜鉛メッキとする。 3. 高力ボルトはF8T(メッキ仕様)とする。				
符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		FJPL(外)	FJPL(内)	F-HTB	WJPL	W-HTB
SG1	H-250x125x6x9	—	—	—	—	—
SG2	H-250x125x6x9	—	—	—	—	—
SG1	H-250x125x6x9	—	—	—	—	—
SB25	H-250x125x6x9	GPL-6 HTB 3-M16				
SB20	H-200x100x5.5x8	GPL-6 HTB 2-M16				
SB1	[200x90x8x13.5	GPL-9 HTB 2-M16				
V1	1-M20 (T. B付)	FB-9x65 GPL-9 HTB 1-M20 JIS規格品 (フルプレス同等品)				
HV1	1-M20 (T. B付)	FB-9x65 GPL-9 HTB 1-M20 JIS規格品 (フルプレス同等品)				
根太	L-65x65x6 #450	GPL-6 HTB 2-M16				
階段	サ: PL-9x250	GPL-9 HTB 2-M16 BPL-12x280x124 A. BOLT 2-M16 L=400 (ワット-L型)				

スラブリスト						
符号	スラブ厚	短 辺 (主 筋) 方 向		長 辺 (配 力) 方 向		備 考
FS11	400	上端筋	D16 #150	端 部	D16 #150	
		下端筋	D16 #150	中 央	D16 #150	
特 記 事 項						



構 造 仕 様	
1. コンクリート	普通コンクリート Fc=21N/mm2
2. 鉄 筋	D16以下: SD295A
3. 鉄 骨	SS400, SN490C
4. 高力ボルト	F8T (メッキ仕様)
5. 基 礎	直接基礎 長期許容地耐力 LRa=30kN/m ² 地耐力を満足する浅層地盤改良を行うこと

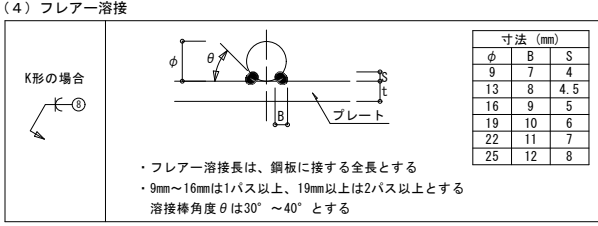
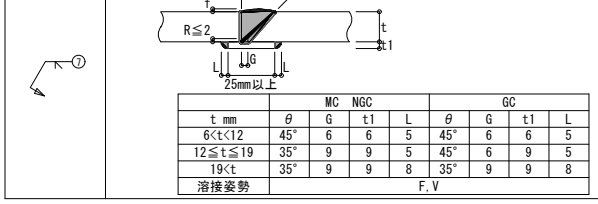
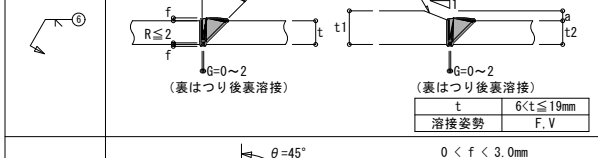
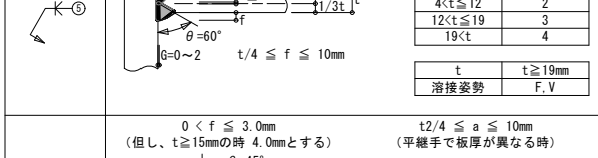
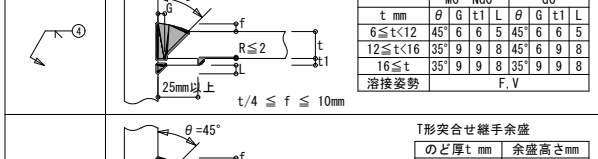
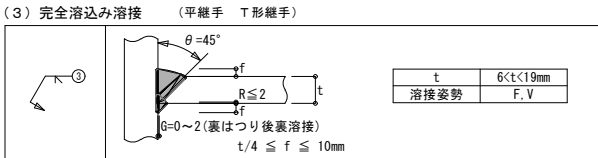
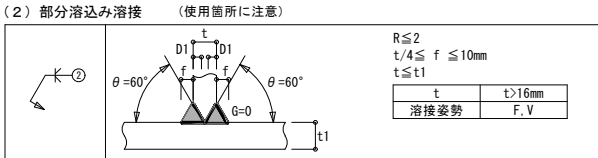
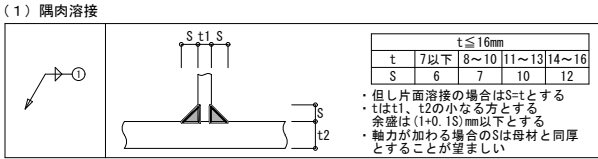
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 設備架台構造図		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:50, 20	図面番号	S-23
構 造 設 計 者	シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

鉄骨構造標準図（１）

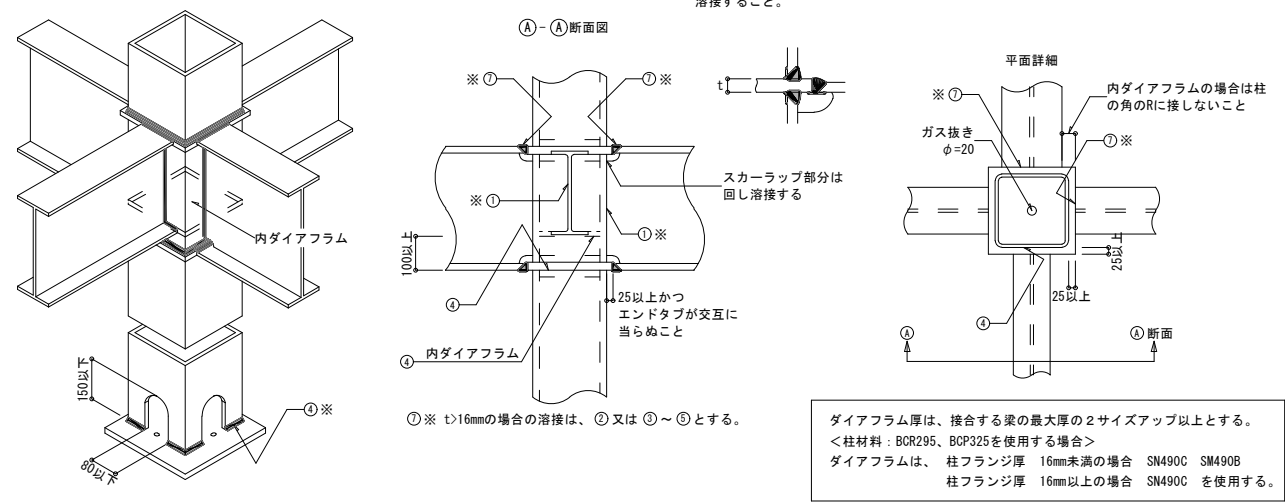
１．一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計特記仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面粗さが、 $50\mu\text{mRz}$ 以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するように注意で行う。
- (4) 溶接接合
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
- (b) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適應するJISZ3801（手溶接）又はJISZ3841（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (c) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (ロ) アークエアーガウジング機（直流） (ホ) 溶接電流を測定する電流計
- (ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (d) 溶接方法
- アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
- セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアーガウジング (AAG)
- (e) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 仮付不良 良 仮付不良 良
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 裏はつり側にする 開先面
- (g) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III エンドタブの長さは、MC:35mm以上
- NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
- (ロ) 裏当て金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする
- 但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
- (ハ) スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアルとする
- 但し梁成が0=150mm未満の場合はスカラップは $r=20\text{mm}$ とする
- (ニ) ノンスカラップ工法
- スカラップ $r=30\sim35\text{mm}$ $r=10$ $r=35$
- 裏当て金 G:ルート間隔 θ :開先角度
- (ホ) 裏はつり
- 標準図の溶接においてAAGと記載がある部分は全て、溶接監理者の確認を勵行し、部材に確認マークを付ける
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めないように養生を行う
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)



○BOX型 (通しダイアフラムの場合)

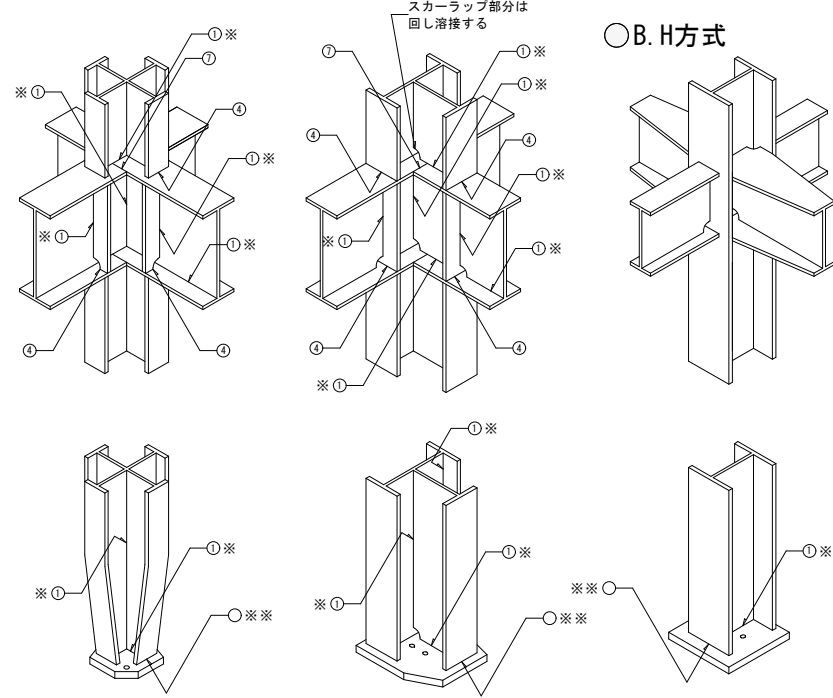


○鋼材種別による溶接条件

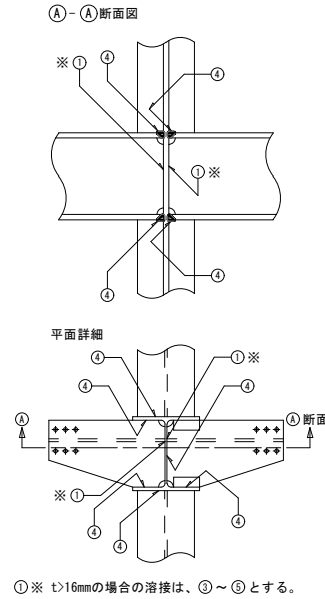
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40 以下	350 以下
	YGM-11, 15		
	YGM-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40 以下	350 以下
	YGM-11, 15		
	YGM-18, 19		
	YGA-50W, 50P		

注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z 3312 のみ使用可
鉄骨製作認定工場のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

○H型



○B.H方式



工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	排水機場 鉄骨構造標準図（１）		
作成年月日	令和５年３月１５日		
縮尺	NO SCALE	図面番号	S-24
構設計者	シグマ構造システム有限会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		

3. 継手規準図、その他

【注】(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

[illegible][illegible]

(a) 丸鋼接合表 (JISターンバックル筋かい)
 【端部プレート】
 ・ M12～M22 の場合

・ M24～M33 の場合

Ss:調節ねじ長さ Lb:溶接長さ(最小)
gt:ガセットプレート厚さ B:ガセットプレート幅
S:ガセットプレートすみ肉溶接サイズ L:ガセットプレート最小必要溶接長

部 材	ボルト	ガセットプレート						短期許容 耐力 (kN)
		g _t (mm)	B (mm)	S (mm)	L (mm)			
					①	②	③	
L-65×65×6	5-M16	9	90	8	170	101	117	105.6
L-75×75×6	5-M16	9	95	8	202	117	133	126.8
L-75×75×9	5-M16	9	125	8	291	162	178	180.8
L-75×75×12	6-M16	9	160	8	362	197	213	232.6
L-90×90×7	5-M20	9	125	8	282	157	173	176.9
L-90×90×10	5-M20	9	165	8	389	211	227	242.0
L-90×90×13	6-M20	12	160	10	395	218	238	305.5
L-100×100×7	4-M20	9	135	8	303	168	184	201.6
L-100×100×10	5-M20	9	185	8	443	238	254	277.3
L-100×100×13	6-M20	12	180	10	448	244	264	351.3

gt:ガセットプレート厚さ B:ガセットプレート幅
S:ガセットプレートすみ肉溶接サイズ L:ガセットプレート最小必要溶接長

部 材	ボルト	ガセットプレート						短期許容 耐力 (kN)
		g t (mm)	B (mm)	S (mm)	L (mm)			
					①	②	③	
2L-65×65×6	5-M16	9	165	8	339	216	232	303.0
2L-75×75×6	5-M16	9	190	8	474	253	269	359.4
2L-75×75×9	5-M20	12	205	10	531	286	306	503.4
2L-75×75×12	7-M16	12	260	10	667	354	374	633.2
2L-90×90×7	5-M20	12	205	10	529	285	305	502.0
2L-90×90×10	5-M20	12	270	10	733	387	407	695.6
2L-90×90×13	7-M20	12	340	10	933	487	507	886.0
2L-100×100×7	5-M20	12	225	10	598	319	339	567.8
2L-100×100×10	6-M20	12	305	10	832	436	456	789.6
2L-100×100×13	8-M20	12	385	10	1062	551	571	1008.2

gt:ガセットプレート厚さ B:ガセットプレート幅
S:ガセットプレートすみ肉溶接サイズ L:ガセットプレート最小必要溶接長

(d) 溝形鋼接合表

単位:mm	
筋かいせい	G
150	40

()内は [-100-50-5-7.5
-125-65-6-8] の場合

gt:ガセットプレート厚さ B:ガセットプレート幅
S:ガセットプレートすみ肉溶接サイズ L:ガセットプレート最小必要溶接長

<p>注) 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式</p>	<p>根巻き形式柱脚</p>	<p>埋込み形式柱脚</p>
<p>露出形式柱脚</p> <p>重ナット等の取り付け止め</p> <p>ベースプレート 厚$\geq 1.3d$</p> <p>アンカーボルト径(d)</p> <p>アンカーボルト (定着長さ$\geq 20d$ かぎ状に折曲げる等の措置)</p> <p>アンカーボルトが柱の中心に 対し均等に配置</p> <p>アンカーボルト径$\leq \phi 15\text{mm}$</p> <p>縁端距離 (ボルト孔の径に同じ、表に示す数値以上)</p> <p>アンカーボルト断面積の 総和\geq柱断面積$\times 0.2$</p>	<p>根巻き形式柱脚</p> <p>根巻き厚$2t$</p> <p>帯筋(ϕ, L) 条を準用</p> <p>立上り主筋 (4本以上、頂部の折り曲げ等の措置、表に定める定着長さ)</p> <p>柱径(D)とHのいずれか 大きなほう</p>	<p>埋込み形式柱脚</p> <p>コンクリートのかぶり厚さ (柱幅以上)</p> <p>基礎梁主筋</p> <p>U字形補強筋</p> <p>柱の埋込み部の高さ$(2D)$</p> <p>U字形補強筋</p> <p>基礎梁主筋</p> <p>基礎梁主筋</p>

8) デッキスラブの補足材

① 50-200

L形鋼

① 50-200

① 50-400

PL-1.6

① 50-400

① 50-400

PL-1.6

① 50-400

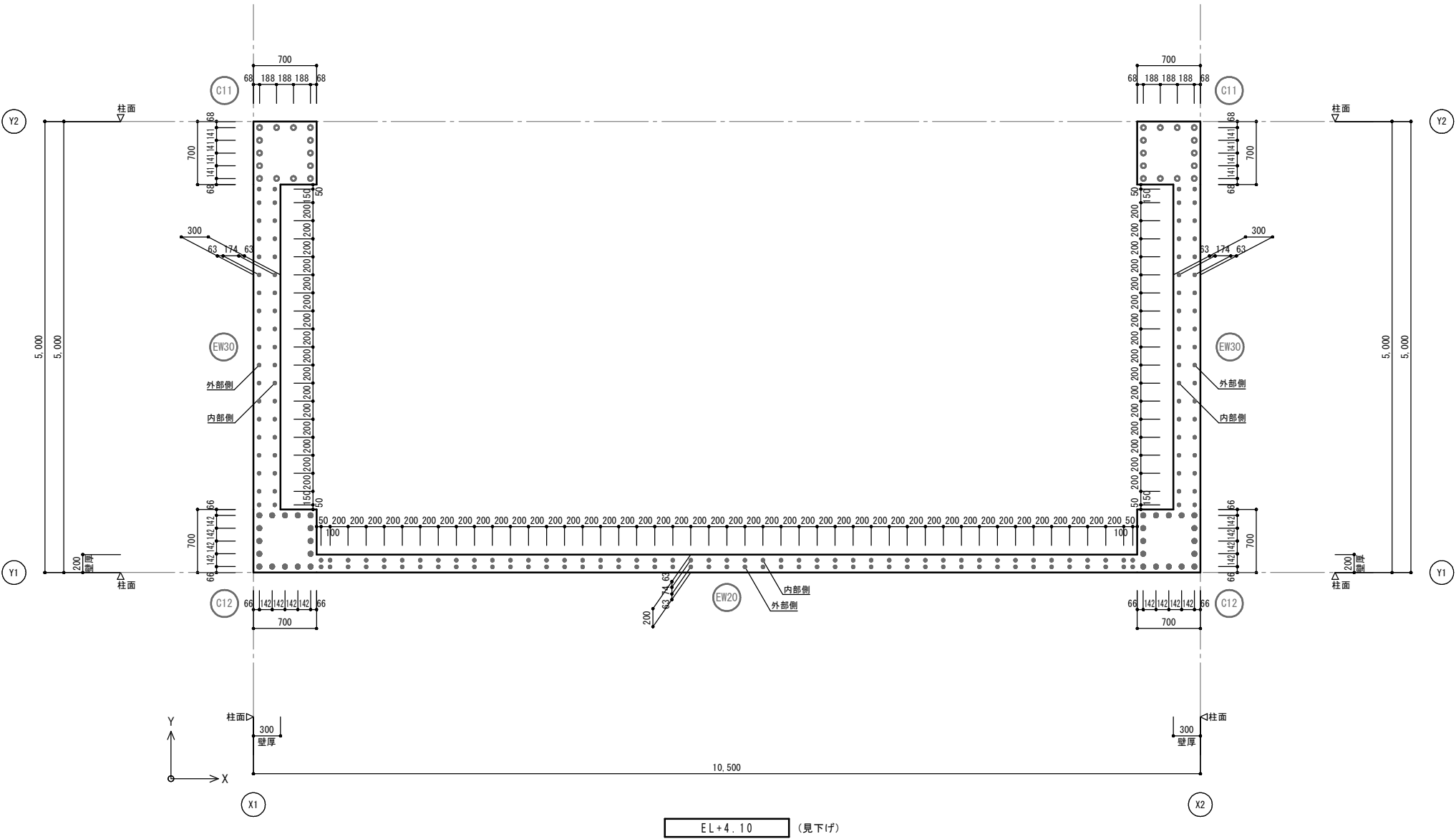
PL-3.2

L-50x50x6 $e \leq 600$

300以下

600以下

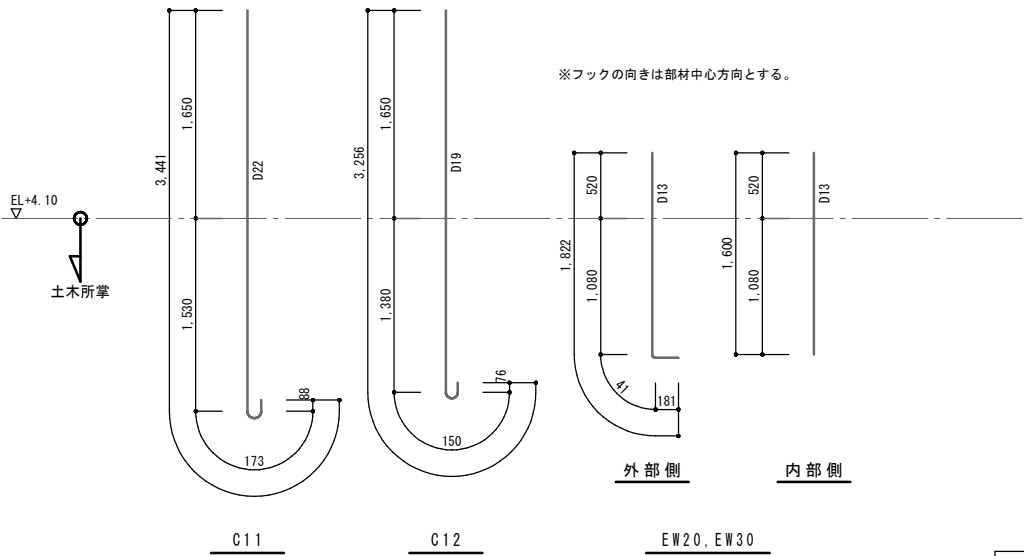
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 鉄骨構造標準図（2）		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	NO SCALE	図面番号	S-25
会 社 名	株 式 会 社 若 鈴		
事務所名	紀 北 町 役 場		



柱リスト				
階	符号	C11	C12	
1	断面 Y ↑ X →			
		B x D	700 x 700	700 x 700
		主筋(柱頭)	14-D22	16-D19
		主筋(柱脚)	14-D22	16-D19
		H O O P	□-D13 @100	□-D13 @100
		仕口HOOP	□-D13 @100	□-D13 @100

壁リスト			
符号	EW20	EW30	
縦断面			
配筋タイプ	ダブル	ダブル	
縦筋	D13 @200 (D)	D13 @200 (D)	
横筋	D13 @200 (D)	D13 @200 (D)	
開口補強筋	縦	4-D16	—
	横	2-D16	—
	斜め	2-D13	—
端部補強筋	—	—	
幅止筋	D10 @1,000	D10 @1,000	
備考			

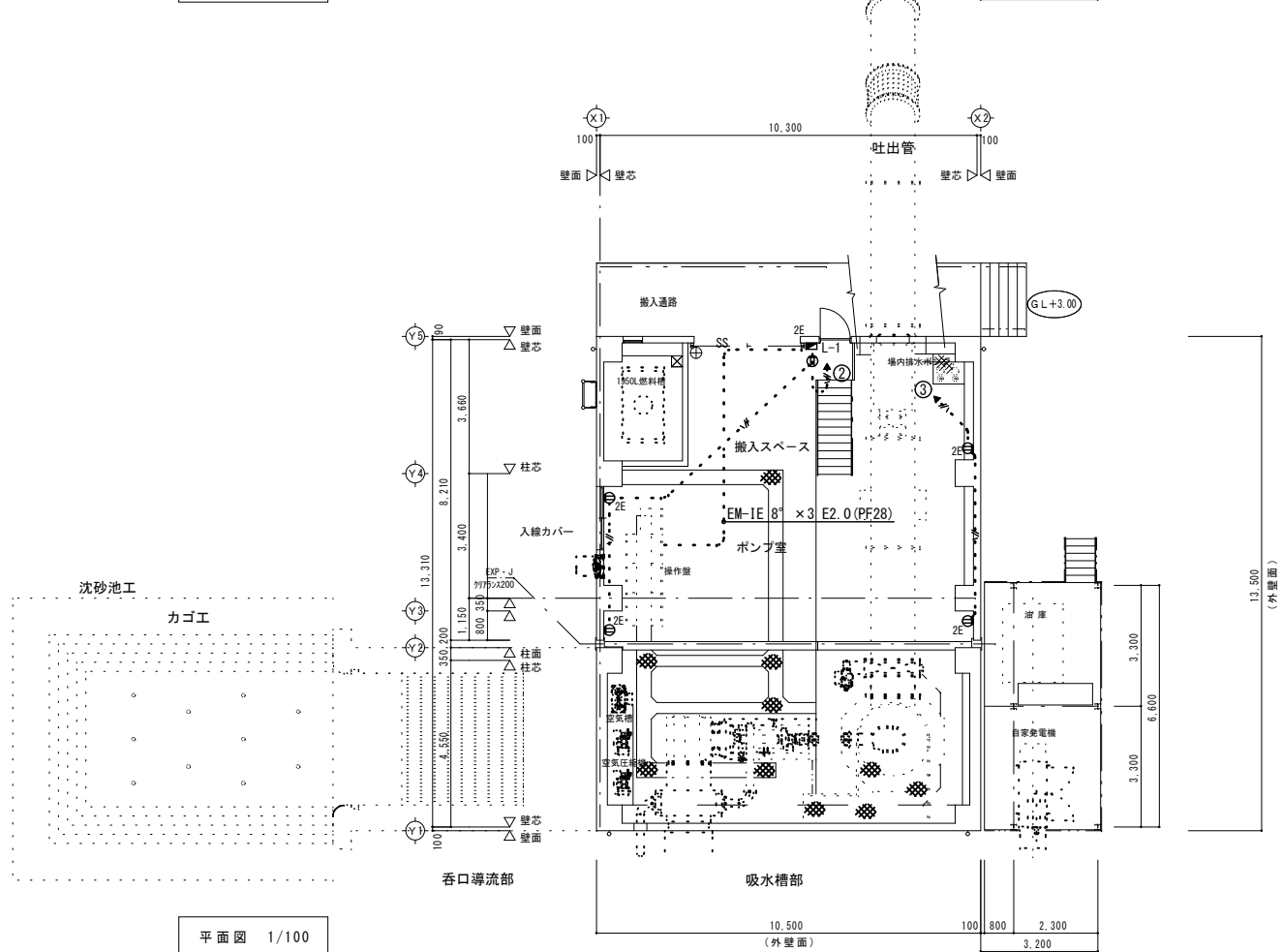
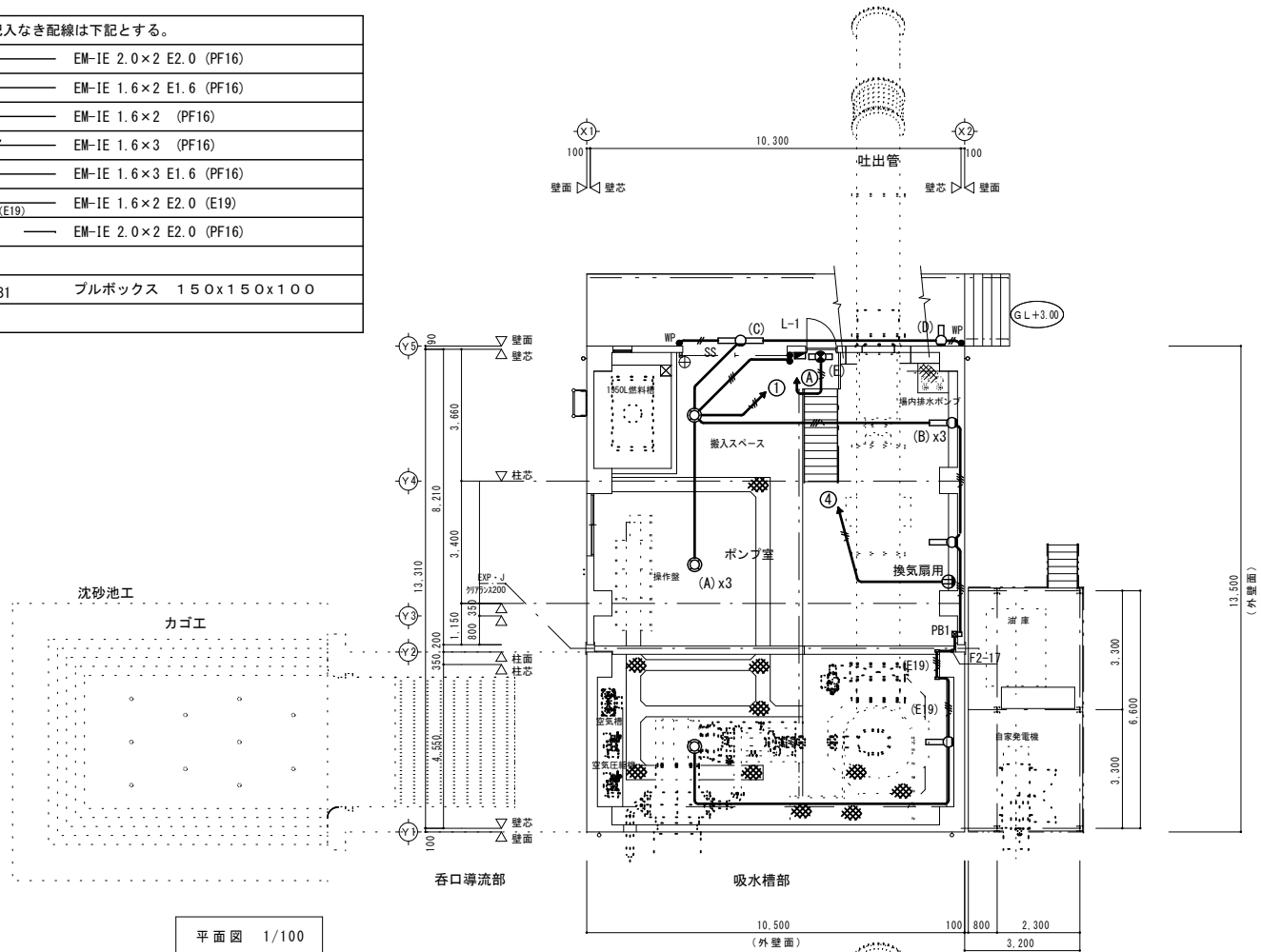
差筋数量表						
符号	差筋	全長 (m)	単位重量 (kg/m)	一本重量 (kg/本)	差筋本数 (本/箇所)	箇所数 (箇所)
C11	D22	3.441	3.040	10.461	14	2
C12	D19	3.256	2.250	7.326	16	2
EW20	D13(外部側)	1.822	0.995	1.813	47	1
	D13(内部側)	1.600	0.995	1.592	47	1
EW30	D13(外部側)	1.822	0.995	1.813	19	2
	D13(内部側)	1.600	0.995	1.592	19	2
合 計						816.7



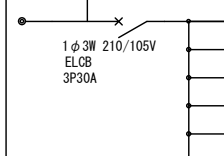
工 事 名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図 面 名	排水機場 土木構造物差筋図		
作成年月日	令和 5 年 3 月 1 5 日		
縮 尺	S=1:30	図面番号	S-26
構 造 設 計 者		会 社 名	株 式 会 社 若 鈴
シグマ構造システム株式会社 一級建築士 第79432号 木村 猛		事務所名	紀 北 町 役 場

注記

1. 図中記入なき配線は下記とする。	
	EM-IE 2.0×2 E2.0 (PF16)
	EM-IE 1.6×2 E1.6 (PF16)
	EM-IE 1.6×2 (PF16)
	EM-IE 1.6×3 (PF16)
	EM-IE 1.6×3 E1.6 (PF16)
	EM-IE 1.6×2 E2.0 (E19)
	EM-IE 2.0×2 E2.0 (PF16)
	ブルボックス 150×150×100



照明器具姿図			
A	高天井器具STD400W	B	LEDベースライト ガード付き
LSR2M-200		LSS9-4-65	
落下防止ワイヤー付 消費電力：170.0W 以下 器具光束：20.00 lm 以上 40,000 lm 以下		ガード付き 消費電力：46.0W 以下 器具光束：6,500 lm 以上	
D	一体形LEDブラケット 防湿・防雨形	E	LED誘導灯 C級 SH1-FBF20-C
LBF3MP/RP-2-13			
消費電力：17.0W 以下 器具光束：1,300 lm 以上		消費電力：31.0W 以下 器具光束：2,600 lm 以上	

分 電 盤 リ ス ト										
盤 名 称	盤 結 線 図	回 路 番 号	電 圧 (V)	分 岐 開 閉 器			負 荷 容 量 (VA)	負 荷 名 称	備 考	
				種 類	P	AF	AT			
L-1 樹脂製 露出型		①	100	MCCB	2	30	20	20	誘導灯	
		②	100	MCCB	2	30	20	816	電灯	
		③	100	MCCB	2	30	20	600	コンセント	
		④	100	MCCB	2	30	20	400	コンセント	
		⑤	100	MCCB	2	30	20	400	換気扇	
										予備
分電盤寸法 220(H)×280(W)×98(D)										

凡例表		
記号	名称	備考
	LED直付照明器具	
	LED壁付照明器具	
	LED高天井照明器具	
	タンプススイッチ	1P15A×2
	防水タンプススイッチ	1P15A×1
	壁付コンセント	2P15A×1
	壁付コンセント	2P15A×2
	電灯分電盤	

工事名	汐ノ津呂排水機場建屋建築工事		
図面名	電灯設備図 コンセント設備図		
作成年月日	令和4年12月		
縮尺	S=1:100	図面番号	E-01
会社名	株式会社 若 鈴		
事務所名	紀北町役場		

